



伊藤音次郎日記

1938(昭和 13)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成 30)年 6 月

* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。

一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼1ページ▲▼ 前年ヨリ繰越事項

新会社登記
事業方針ノ畫(ママ)立
内部統正(ママ)
財政研究
試作機

▲▼2ページ▲▼ 昭和十三年要記

株式会社登記一月十五日
通信省試作機三機共完成 三社ノ内幣(ママ)所ノミ 他ハ越年
十一月十八日安岡死亡
本年度年頭予想ノ月産二十台ハ平均十台トナリ事業的ニハ機械部品ニ着手シ得ズ 増
資(埼玉県松山)不能 三式問題ニテ半年以上浪費シタ事 高利ノ金融シカ出來ナカ
ツタ爲メトデ八万円ノ借金ガ出來ル 之レガ低利ヘノ借替ハ明年度へ繰越ノ止ムナキニ
至ル他重役特ニ富尾側ニ於高金利ノ平氣ニ驚ク 年末ニ到リ元東京ミシン工場ヲ借用
シツナル
昭和鋼業ト將來共ニヤルコトニ契約ヲナシタレドモ同社長中川氏ノ実力ニツキ不明ノ點
アリ三十日(十二月)帝國興信所へ更ニ調査ヲ依頼ス

▲▼ページ▲▼ 一月

会社登記
無尾機製作着手
試作機着手

会社新方針樹立

▲▼4ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月1日(土)

天気 雨曇リ

次ギカラ、、、人ガ來ルノデ終日應接 余暇ニ航空時代ノ遞相ノ談並ニ通信省ノ方針

ヲ讀ム

午後安田大口ヲ見ニ行ク 今夜ガアブナイカモ知レストノコトデアッタ

夜九時半電話アリ起キテ行ク 十時半着イタラ八時半ニ引取ツタトノコトデアッタ

途中自動車ノ中デ考ヘテ四日喪ヲ發表 松ガ取レテカラ葬儀ヲ行フ方針デ行ク 金太郎スデニ來テ居タ。ヨヨミニヨリ九日ノ日曜日ニ葬儀ヲ行フコト 四日迄發表シナイコト明日手續キ出來タラ三日火葬ニスルコトヲキメル

▲▼5ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月2日(日)

天気晴

夜ガ明ケテ七時半ノ自動車ヲ待ツテ出カケル 中々コズツヒニ検見川迄歩ム 帰宅朝食後床ヲ取り終日床ニ居ル ソレデモ一時間位熟眠シタニスギナカッタ

山口清來 床デ會フ 安岡、布施ニ万事ヤラセル。火葬場迄一切手續キ終タ由

正野、大阪、築井來タソウダガ会ワナカッタ

夕方アンマヲ取り食後花ヲ一手シテ床ニ入ル

夜中ノ二時過ギ電報アリ キヌ子危篤スグ來イト清平へ來電 ヤレ、、

▲▼6ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月3日(月)

天気晴

六時輸送会社ニ電話カケタガ坐席ナイトノコトデアッタガ清平七時半ノ自動車ニア上京 念ノ爲メ輸送会社へ寄ラセテ見ル

午後電報アリ乗レタ由。夕方昨日ヨリヤ、ヨイガ安心出來ズトノ入電アリ 九時過ギ

八時半死ストノ報來ル ア、ツヒニイケナカッタカ

会社ノ方針等ニツキノートス 終日カゝル

▲▼7ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月4日(火)

天気晴

六時半大坂へ電話シテ姉ニ悔ミヲノベル 成ベク行ク予定ナリシモ、仕事初メ式ノ後チ重役會議ニ於テ二月十五日迄ニ増資申請ノ必要上至急軍需工場タル資格ヲ得ル爲メ今日ニモ岡田中佐ニ會ツテ呉レトノコトニ三時半頃ヨリ富尾留雄氏ト上京 陸軍省ニ行ツタガ會議ノ爲メ不在 明日ノ予定ヲ富尾氏へ依頼シテ帰途鈴木館ニ立寄ル 章岩間ノ外工場ノ重立タルモノ集ル 八時散會ス。帰ツテスグ床ニ入ル ツカレタ
大坂へ電報ニテ五〇円送金シ行カレヌ旨ツゲル

◆▼8ページ◆▼ 昭和13(1938)年1月5日(水)

天気 晴

七時半起床 九時工場出 暮ノ支出ノ傳票ヲ作り、皆ヲ集メテ作業方針ヲタテタリ
大口ノ死亡通知ヲ書カセタリ明日幹部職制ヲ定メル爲メノ会社組織ノ統制表ヲ作ラ
セタリ中々インガシカッタ

晝頃留雄氏カラ電話アリ 今夜岡田氏自宅へ行クカラ七時半新宿駅小田急乗場デ待
ツトノコト 七時二十五分丁度ツイタカ見エズ 二電車待ツテ下北沢迄行ツテ見ル 居
ラズ自宅ニ行ク 十一時頃出タマ、デ妻君モ不在 又駅デ待ツ旨云ヒ居イテ帰ル 九
時一寸前北沢駅前ニテ会フ 共ニ行ク

会談二時間 十一時辭シテ帰ル

結局監督官ニ工場ヲ見テ貰フ必要アリ 其爲メニハ設備ヲ完全ニスル要アリ

◆▼9ページ◆▼ 昭和13(1938)年1月6日(木)

天気 晴

工場作業ヲ見豊作ヲ呼び布施ヲ立合セ将来ノ方針ニツキ母々高カナニカ自立ノ道ヲ
講ジサセルコト、豊作工場ニ來テモ働キダケシカヤレナイコト キミニハ増給シテ幾分送
金サセルコト 自力更進ノ上不足ハ補ツテヤルコトヲ申渡ス

午後上京 昨日ノ経過報告後工場ノ方針トシテ修理ニ向ツテ進ムコトニ大体意見ノ一
致ヲ見タルモ自分トシテハ尚本廠ノ様子ヲ調査スルコトトス

重役ノ職制ヲ定ム 工場整備進行ノ事ヲ定メ購買品ノ請求ヲナス

夕方山崎氏來 圖面受取ル。六時渡辺秀ヲ向エニ行キ奈良原氏ト四人マルヤニ行キタ
食ヲ共ニシ本廠ノ狀況ヲ聞ク

◆▼10ページ◆▼ 昭和13(1938)年1月7日(金)

天気 晴

午前工場 午後航空局ニ圖面提出 三時頃事務所ニ行ク 福西、留雄、岡田、岩間氏
ト田山サンニ行キ陸軍ノ狀勢ト工場方針ヲ話ス。岡田福西残り金融問題ノ相談ヲナ
シタル模様。

目黒ノ福西カラ來テ呉レトノ電話ガアッタノデ行ク 艶子ノ居所初メカラ福西ノ世話
デアッタトノコトヲ詫ビ方々経過ヲ聞ク 只今八石丸ノ世話デ石丸ノ姉ノ家ニ居ル由
拾時帰宅シタガ今更説キ連レテ帰ル必要モナイト思ツタノデキミダケニ話シ呼バヌコト
トス

清平今朝帰京

▲▼11ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月8日(土)

天気 晴

工場ノ用件イソガシカッタ

特ニ職制ヲ定メタコトト今日登記ニ行ツタ處動産ノ内訳ケガ必要ダトノコトニ田山氏ヨリ午後二名來場 之レニ対シ財産目録及実地調査ニヨリ下書キヲ作ツテ渡ス

富尾章氏午後來場 職制ニツキ申渡シテ貰フ 沢柳氏ノ叔父サンノ處へ電話カケテ見タガ住所変ツテ居テ分ラズ

章氏ニ四郎平君ノ作ツタダルマト新聞記事ヲ送ル 非常ニ嬉(ママ)バレタ

清平三十八度六分熱アリ床ニツカセル

▲▼12ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月9日(日)

天気 晴

八時頃青島來 起床 十時過ギヨリ工場ニ行キ奈良原氏青島同道稲毛ニ行ク 予定

通り二時ヨリ三時過ギ迄ニ告別式ヲ終ル 東京ヨリ山田、福西、橋本、岩間、岡田、

安田、粕谷、荒瀬氏等來 川辺、鳥飼、玉井氏等モ見エル

四時半帰宅

二三日前ヨリ頭ノ工合ガ少シ変ナノデ早ク眠ルツモリノ處青島來 十時頃迄話シテ帰ル

清平七度ニ下ル

▲▼13ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月10日(月)

天気 晴

登記申請ノ日 上京 九時事務所着 一番早カッタ 漸ク十一時皆ソロウ 田山氏ニ行ク 地主ノ承認書ヲ忘レ電話シタガ云ヒツケタ安岡昨日上京シタマヽトノコト スグ手配サセタガ間ニ合ワナイノデ東京デ作り本モノハ今日中ニ取ツテ居クコトトシテ一時半登記所ニ提出ヲ終ル

渡辺君ヨリ中川中将以下本廠ノ人々ノ自宅ヲ聞キ、買物ガ多カッタノデ章氏ト自動車デ帰宅ス

▲▼14ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月11日(火)

天気 晴

終日在所

午後利根川外一名來

作業会社へ安岡ヤル 明朝來ル由

本記事八十二日分

▲▼15ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月12日(水)

天気晴

大坂新世界へ手紙書ク 試作機ノ材料調ベヲ角ニ命ジ安岡ニ職工追徴ノ道ヲ調査研究ヲ命ズ プロペラ材料サガサセル

萱場ヨリ伊藤清氏來場 マダ何ニモ出來テ居ナイノデ目下製圖中ノ操縦器ヲ見セ現圖ヲ説明シ明日ヨリ胴体ニ取カヽルコトヲ約シニ三日中ニ翼ノ圖面出來次第作業予定表ヲ提出スル旨述べ鈴木館デ晝食ヲ出シ飯田橋ノ自宅迄送り自分ハ沢柳氏令兄ノ宅ニ行ク 來ル筈ノ處マダ來ナイトノコトデアッタ 東日ニヨリ事ム所ニヨリ清平ト帰ル 自動車廻ッタノデ樂デアッタ

大口ノ家内來テ居タ 香奠百八十余円全部渡ス 金太郎九時過迄色々工場場内ノコト聞ク

本記事八十一日分

▲▼16ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月13日(木)

天気晴

今日モ終日在所 安岡王子号契約ニ出張ス 桂林君來 今度陸軍へ行クコトニナッタ由

▲▼17ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月14日(金)

天気晴

昨夜セキハゲシク今日ハ終日床ニツキ静養ス 夜田山氏ノ書生來 登記書類ノ訂正印ヲ取りニ來 夕食ヲ提出共ニス 中々酒ガ強イ人デアッタ

▲▼18ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月15日(土)

天気 晴

会社登記終ルノ報ヲ待ツ 福西、岡田、岩間來場 積極的ニ工場設備ヲナスコトナル。
福西ヨリ株割當ニツキ話シアリ 月曜日キメテ出スコト 買物モ月曜日出スコト 挨拶
状モ作ルコトス

東京高工Aニ修理シタ分(新造トス)洲崎へ送ル

早朝飯沼君來。検査官内田氏來 後川サルムソククラブ一三検査終了ス

▲▼19ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月16日(日)

天気 晴

休ミ 八時起床 九時朝食

地主伊東兼助同叔父來 百二十坪増シタコト 五歩ニシテ貫ヒタイコトノ申出アリ 相
談シテ居クガ賣出トシタライクラカソレモ聞カセテ貫ヒタイコトヲタノンデ居ク

奈良原氏來場宅 グライダー學校ノ件相談 マダ貧血時々現ワレルトノコトニ早速豚
ノキモ二百目取ヨセ持ツテ帰ツテ貫フ

株券ノ分配高ヲ決定ス

▲▼20ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月17日(月)

天気 晴

午前中工場 午後本社

株ノ割當數福西ニ報告 自分ノガ三万円シカ残ラナイコトニツキ福西驚ク 右山田氏
ニ報告。購入機械予算書提出。電灯設備見積リヲ取ル 千三百余円ニ驚イタ。清平
機械注文ニ電話ニテ努力ス

夕方留雄氏ヨリ福西岡田両氏ノ稍ヤ獨斷專行ニツキ不服ノ口紛アリ 速カニ重役会
議ヲ開クベシトノ説ヲ出ス

岡田氏ヨリ田山サンノ方ノ準備ガ出來テカラニシテ貫ヒタイトノコトデアッタ 準備ト
ハナニカ自分ニ六分ラナカッタ

四時頃局ニ行キ一三ノ登録申請ヲナス 南波氏ト雑談ス

▲▼21ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月18日(火)

天気 晴

終日在所 大分工場内ノ用件方ヅク

午後工藤長孝君來 久シ振りデアッタ グライダーノ販賣ヲヤリタイトノコトデアッタ
明日又來ル由

清平ニB二ト作業ノ見積書出來ル 提出サセル
章氏今日ハ東京ヘ行ツタ由

夕刊デ八柱方面ニ飛行場出來ルベク村長ガ航空局ヘ出頭シタトノコトガ出テ居タ

▲▼22ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月19日(水)

天気 晴後曇夜雨

今日ハアタタカデアッタ

工藤來 鈴木館デア岡ト共ニ夕食ヲス ツヒデニ山口母子ヲ呼ブ

章氏來 三時頃上京

工藤一割五分ホシイトノコトデアッタ 協議ノ上契約スルコトトス

▲▼23ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月20日(木)

天気 雨

昨夜一時半帰宅 マダ酒ガノコツテ居タ 九時起床 工場出 十時半自動車來 出ル
ノガ十二時十分前ニナル

北島サンニ會ヒ一時間程話シ事ム所ニ行ク 最(ママ)非金ガカヽツテモ努力シテ貫ヒタイ
トノ希望アリ。株式預約予算ノ倍ニナツタガ結局一万五千円以内デ融通仕合ツテ入
レルコトトス

航本高橋大佐、本廠中川少将ニ會フ 中川サンハ修理ハ立川デ間ニ合ツテ居ル様ナ口
振りデアッタ。渡辺君會エズ 東日ニヨリ田辺優夫サンニ行ク 不在。春沢氏ニ行ク。病
氣デ休ンデ居ラレタ 田山サンヲヨク知ツテ居タ 福西ノ話シハ大分懸値ガアル様ダ
注意ヲ要ス 但シ人物ハ保証付デアッタ
帰途局ノ古山氏奈良原氏ニ寄ツタガドチラモ不在

▲▼24ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月21日(金)

天気 曇

一五改造部協議

山東來ラズ 十時頃稅務署ヨリ來 一人デ困ツタ 工藤來 テンテコ舞ヒス 清平十一
時頃呼ビニヤツタラ上京シタラシイ 兎ニ角決算報告書ヲ日銀ノ通りニ作ツテ提出ス
何ンデモ明日中ニ本省ヘ返事ヲシナケレバナライノダンウダ

二時前山東來 共ニ上京 工藤待ツテ居タノデ契約ノ骨子ダケ作リアトハ岡田氏ニタ
ノミ、清平研究所木村氏ヘ行クテ不在

朝日ニ行キ東日ニテ羽太氏ノ宿ヲ聞ク。六時渡辺氏ヲサンヒ眞松ニテ夕食ヲ共ニシ修

理間ニ合フルヤ否ヤ調査ヲタノム アト色々様子ヲ聞ク 軍人顧問ノ必要ナコト、台北方面進出ガヨイコト 尚支廠ハ嘉義水戸旭川方面ニ出來ル様ナ計畫モアル由

▲▼25ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月22日(土)

天気 曇リ

奈良原氏來場 青年團千葉支部設置ニ関シ話シアリタリ

試作機ト無尾機製作予定ヲ立ツ 但シAニ其他全然出來ナクナルノデ木工募集ヲナスコトトス

午後上京 二時事ム所着 工藤君契約調印後東日ニ連レニ行ク

事ム所ニテ將來方針ニツキ話シ出タレドモ今発表ノ時機ニアラザリシモ修理受注ノ上進ムコトハ困難 二月十五日迄ニ便法ヲ以ス予算ヲ立テル必要アルコトダケ述ベテ居ク

▲▼26ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月23日(日)

天気 晴

今日ハ羽田方面へ行ク予定ナリシモ横山氏午後來ルトノコトニ中止ス 午前中頭ガ重カツタガ午後直ル 三四日前ヨリ齒ソウノウロウノ辺ガ変ニ感ジラレテ氣ニナル

終日名簿整理

章氏午後出社 昨夜伊勢ヨリ帰ッタ由 様子クワシク聞ク 土井其他二三中學時代ノ友人バカリデ廿八日上京決定スルトノコトデアル由

横山氏照(ママ)介ノ人二人來 五万ダケ融通ノツモリデ來タラシイガ事情ヲ話シ増資ノ場合ニ來テ貰フコトトス 徳島ノ人トカ

夜小便近シ ヤハリ大分ツカレタラシイ コンナコトデハダメダ

清平萱場行き予定表提出 諒解ヲ得

▲▼27ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月24日(月)

天気 晴

安岡角ヲ連レテ東京飛行機見學 木下君ニ會フ 丁度慎ニ會フ 東日ニテ三〇〇始動装置ヲ貰フ。慎ヲホテルニ送り飛行館ニテ晝食後本廠ニ森中佐ト會フ。修理間ニ合ワナクテ困ルトノコトデアッタ 渡辺君ト梅津君ニ會フ 修理間ニ合ツテ居ルトノ由 木下君ノ處モオ情ケデ出シテ居ルトノコト

木下ノ話シデハ月七八台出來ル由 チト多イト思ッタ 永瀬氏ヲ訪問 不在 事務所ニ歸ル 三時

岩間氏ヨリ松山ノ報告ヲ聞ク 夕方全部集マル 自分ヨリ經過報告ヲナス。結論トシ

テ製作修理デ予算書ヲ作ルコトナル 明日岡田中佐ニ会フコトシテ散会

▲▼28ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月25日(火)

天気晴

九時半八時工場出 九時半ヨリ上京 東京駅ニテ留雄氏ト會ヒ陸軍省ニ岡田中佐ニ會ヒ二行ク 前回会见後ノ経過ヲ報告シ松山ニ第二工場設置ノ件相談シタガ予想通り確答セズ。一時事ム所ニ帰り電話デ萱場氏ト打合せグ行ク 万事諒解フトゲ罰金問題モ考慮スルトノ言ヲ得テ本社ニ帰ル 途中戸延ノ事ヲ思ヒ出シ寄ッテ見タラ蒲田ヘ引越シタトノコトデアッタ

夕方五時日野氏木村氏ヲ〇やニ招待シ仕事ノ打合セヲナシ木村氏モ最(ママ)非期日ニ間ニ合セルトノコトデアッタ 後チ銀座ヲ二三ヶ所アルキ十一時過ギ自動車ニテ帰ル 入浴後雑誌ヲ見二時半眠ニツク

▲▼29ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月26日(水)

天気晴

正午迄床ニ居ル 漸ク起キラレタ 和服ニテ出勤 C五検査終ツタガ飛行試験風ノ爲メ出來ズ

夕方福西岩間、岡田、田山氏來場 ヤハリC五ノ試験ヲ見ニ來タノダガ出來ズ株ノ分配書類東京方ヲ渡ス

章氏病氣欠勤

福西ヨリ岡田ニ対シ警戒ヲ要スル話アロ

▲▼30ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月27日(木)

天気晴

午前十一時章サンニ行キ未決定ノ給料ヲキメル

大口豊作七十五錢ニキメ毎月二十五円ツ、父分カラ足シテヤルコトトス

昨日今日工場ニ居タノデ頭ガストシタ 明日一日尚工場 明後日又自動車デ上京活動ノ準備ヲナス

安元呼ブコトトス 玉木へ長島ノ件來ナイトノコトニ他ノモノヲ頼ンデヤル

▲▼31ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月28日(金)

天気晴

ドウモ風気味デ身体中ガイタンダリシタ

就(ママ)日工場 晝宅ニ帰ル 夕方散髪ヲス

下平今日引取りヲ終ル 夕方來

五時半頃永野ノ兄上助二郎來 安岡ト共ニ話シヲ聞ク。六七人ハ何ントカスルトノコトデアッタガ日給ガ一人前ダト三円五十錢位ダトノコトデアッタ

▲▼32ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月29日(土)

天気 晴

上京 岡田福西ヨリ田山氏交渉経過ヲ聞ク 川崎第百デ決定シタガ京橋支店長二百株ヤルコトニシタトノコト 多分中(ママ)介者ノ板倉子爵ヘヤルノダロウトノコトデアッタコレハ二人ノ話シデハ半分ヅ、出シテ会社ヘ貸スコトニナル由 ソレカラ自分ノ五千円ノ件ヲ保証シロトノ由 之レハ月賦デ話シガツイテ居ルノダカラソレデ進メルコトニキメテ田山氏ニ行 處ガ意外ニモ田山氏ハ今日決定スル爲メ五千円ヲ即時返スコトニ取キメタトノコトデアッタ。少々専断ガ早カッタト思ツタガ対会社ト自分關係ハ岡田ノ發議デア田山氏ニ一任ス 此頃ヨリ熱ヲ感ジタノデ皆ヨリ一足先ギニ帰ル
自動車ニテ帰宅 スグ床ニツク 三十七度五分アリ、アスピリンヲノム

▲▼33ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月30日(日)

天気 曇後雨

終日床ニ居ル 朝アンマ來 夕方布施醫師來 ヤハリ七度五分アリ 明朝ハ上京取ヤメ夕方ガヨカロウトノコトデアッタガ散薬ヲ貰ツタノデ明朝ニナツテ熱ヲ見タ上ノコトトス

▲▼34ページ▲▼ 昭和13(1938)年1月31日(月)

天気 晴

昨夜東京ハ雪デアッタ

今朝十時迄ト云フ約束デ十時五分田山氏事ム所ニツク タレモ居ラズ。事ム所ヘ電話スルト岡田氏ノ話シデ又條件ガ加ツタ爲メ田山氏銀行ヘ行ツテ居ル筈トノコト。福西ニ電話シタラ其事情ヲ知ラナカッタ。留雄氏來 間モナク田山氏帰ル 條件トハ国産興業ノ受取ル金ヲ支拂者ノ支拂保証ヲ必要トスルコトデアッタ 一時本社ニ引上ゲル 夕方又田山事ム所ニ福西、岡田、留雄氏ト行き第百マトメルコトニシテ貰フ 尚善後策トシテ板倉氏ヨリ第百本社ニ交渉スルコトヲ田山氏ニ依頼シテ分レテ帰ル 帰途 スグ床ニ入ル 七度三分熱アリ薬ヲノム

今日佐藤氏ニ會フ前ニ手形ガアルノデ方付ロトノコト シヤクニサワル 兎三角今出來ナ

イトコトワル

秋田氏ニヨル 長男ガ入掌應召トテ大変ナサワギノ處デ株讓渡証ニ判モ貰エナカッタ

◆▼35ページ◆▼ 二月

借款成立ノコト

日銀増資計畫提ノコト

工場能率増進ノコト

陸軍接近ノコト

航空局接近ノコト

試作機進行ノコト

◆▼36ページ◆▼ 昭和13(1938)年2月1日(火)

天気晴

家内ガヤカマシク云フノデ今日ハ床ノ中ニ居タ 熱モ上ラズ頭ノ痛ミモナクナッタノデ午後長谷川ノ爲メニ一時過ギヨリ工場ニ出クラブノ金ヲ二十円貸シテヤル 章氏昨日モ出社 今日モ出テ居タ 昨日ノ報告ヲナス

清平今日カラ四ツ谷ニ下宿スルコトニナリ引越シタガフトンガ間ニ合ワズ今夜ハ歸ツテ來タ

上野昇給ヲセマツテ居ルトノコトニ安岡ト打合セ同人ヨリ説諭サセル 聞カズニ止メルト云フナラ止メサセテモヨイト云ツテ居ク。將來ノ爲メニナラナイ男ダ

◆▼37ページ◆▼ 昭和13(1938)年2月2日(水)

天気晴

上野問題章氏ト相談ノ上要求ハシリゾケルコト ソレデヤメルナラ止メナイ事ノ方針デ安岡ニマカセル

職工働キサエスレバ金ガ取レルト云フ方針ヲ建テル爲メ努力ス 先ヅ試験的ニAニカラヤラセルコトトス

三時頃ヨリ上京 事ム所ニヨル 岡田氏ヨリ昨日松山へ行ツタ報告アリ 田山氏ノ方第百ヤハリダメデ他ニ方法ヲ講ジテ居ルトノコト。自分ノ心配ハアマリ方々ニロヲカケルコトハイケナイト云ツテ居ク

五時二十分佐渡島英祿夫妻上京 迎ヘニ行ク 帝国ホテルニ入ル 本家ノ娘ノ結婚式ダソウダ 四日ノ由 会見ハ五日連絡スルコトトス

▲▼438ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月3日(木)

天気 晴

章氏出社シタガ又風ヲ引イタトノコト 大分苦シソウデアッタ 午後上京 タクシーデ同道ス

佐渡島ヨリ電話アリ 今カラ行クトノコト 待ツ 四時頃來社 其前章氏アマリ工合悪ソウナノデ帰ツテ貰フ 岩間氏ト留雄氏紹介ス アト八田山サンへ行ツテ居テ不在 明日正午東京會館ニテ晝食ヲ佐渡島氏ヨリ招待サレルコトニナル 田山氏ノ方イヨ、ダメラシイ 五日ハ何ントカ間ニ合セルトノコトデアッタガ又仕事ガ延ビルノデ閉口

今朝二時半頃半鐘ノ音ヲ聞ク 船橋ノ角四十軒ハガリヤケタ由 上仲ノ家モ丸ヤケ

▲▼439ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月4日(金)

天気 晴

章氏ヲ見舞 起キテ顔ヲ洗ツテ居ルトノコトニ安心シテ上京 柳父氏來 某鉄工所デデユラルミンノリベットノ下請ヲシタイカラ宜シクタノムトノコトデアッタ 萱場ノ伊藤來 午後行クト事傳ル

十二時半東京會館ニ行ク 佐渡島ノ招待ニテ章氏ト田山氏不參 會食後二時散會 六日ハ津田沼へ來ルコトノ予定ニテ分レル 萱場ニ行キ三月十五日完成ノコト 罰金ハ今日迄ノ分千分ノ一負担スルコトトシテ、ソレハ内金ノ内ニ入レ、アト受取金カラ引クコトトス 金額四百八十円トナル。五時半事ム所ニヨル 田山氏ノ方ダメ 明日ノ分福西ノ手デ作ル由 又利子ガ高イン 今夜初メテ阿彌陀經ノ写経ヲ初ム

▲▼440ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月5日(土)

天気 雨曇雪

富尾氏休 終日工場 安岡上京 會ワズ

金四時頃青木持參 ワツカニ二百五十円程持ツテ來タダケ 多少工場ニアッタノト中台ノ分ヲ少シヘラシ大体全部支拂ヒヲ終ル 京城(ママ)ダケ残ス 七日來ル由 中台式百五十円渡ス

東京ノ方ハ残尚三百七十円程アルコトヲ通知書イテ持タセテヤル 夕方山東來 工場票作製

▲▼41ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月6日(日)

天気 曇後晴

十一時佐渡島來ルトノコトニ工場へ行ツテ待ツ 三時過ぎ來 其前玉木長島連レテ來 條件月給百三十円トスルコト 百円引越料 外ニ四百円借りタイトノコト 退職手當ガ出タラ式百五十円ハスグ返ス由 明日事ム所デ會フコトトス サテ金ガナイダロウカ 困ツタコトダ。安元外三名來 安岡マダ帰ラズ自分會フ 大体來月カラ來テ貰フコトニシテ居ク

三時佐藤氏同道佐渡島夫妻來 清平モ共ニ工場ヲ案内シ四時二十分少シ遅イト思ツタガ成田山ニ行ク 自動車ガホテルノ自動車デスピードヲ、アマリ出サナイノデ五時四十分頃着 暗イ中ニ参拜シテ帰途鈴木館デ夕食ヲ出ス 八時。十時ニ終ツテ帰ル 十一時迄自分一人残り帰ル 入浴

▲▼42ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月7日(月)

天気 曇晴

長島ノ件ニツキ金ガ心配ニタツタノデ上京 福西ニ行キ打合セシテ事ム所ニ一時過ぎ行ク 丁度玄関デ長島ニ會フ 留雄、岡田氏ニ引合セ予定通り五百円渡ス 十二日ヨリ出場ノ予定

支配人級ノ事ム員入レルカラ會ツテ呉レトノコトニ會ツタガ富尾氏ノ知合ノ人ダソウダ 今日初メテ話シガアツテスデニキメテアツタノデ不満ノ意ヲ表シ岩間ニヨク云ツテ帰ル 奈良原氏同道

帰途章氏見舞ニヨル 絶対安静ノ由

▲▼43ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月8日(火)

天気 晴

晝頃事務所ニ來テ呉レトノ福西ヨリノ電話デ上京。増資計畫書ノ件金融ノ件 田山氏見込薄ク福西昨日ヨリ奔走中 今日午後五時ニ決定スルトノコトデアッタ 條件ハ百株ヤルコト 弍千円天引 手数料利子ハ銀行ノ借トノコト 或ル信用組合ヨリ利用スル由 ドウモ岡田ヤ富尾氏ガソシナ不利ナ條件ノモノヲ借ルノガ不思議デタマラン 何故ニ菱カ植原サンデ直接話シヲシナイノカ

四時半ヨリ事ム所ニテ日野氏ニ會フ カーブレター最(ママ)非作ルコトヲヤツテ呉レトノコトデアッタ 考慮スルコトトス 奈良原氏ハ乗氣デアッタ

六時東月花(大森)ニ行キ新井氏ノ送別会ニ臨ム 名古屋甲府広島カラ來テ居タ 課長ハ不満ナ止メ方デアッタラシイ

▲▼44ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月9日(水)

天気晴

終日在所

夜清平來 福西今日ハツヒニ一向來ナカッタ由 之レモアヤシイカナ
今夜第二回目ノ写経ヲナス 今日ハ一字モ間違ワナカッタ

▲▼45ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月10日(木)

天気晴

終日在所

広島ノ武内君來 清平ト三人デ島村ヘ晝食ニ行キ市川デ分レル
明日建国祭ノ舉式ヲ行フコトトス
夜写経 今日ハ大ニ運ブ

▲▼46ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月11日(金)

天気晴

八時起床 工場ニ行ク 各機出發準備中 安岡小供一度醫者ニ見ハナサレタノガ持チ
直シタ由 マアヨカッタ 九時十分前三機出發 ヤ、オクレテ一三機出發ス
拾時丁度ヨリ舉式 自分ヨリ国家奉公ノ念ヲ以テ仕事ヲヤルコトノ希望ヲノベテ十五
分間デ終了。奈良原先生同道帰宅 晝頃帰ラル。後チ写経ヲ初メ大ニカドリ夕方迄
ニ全部終ル 高山君來
町役所ヘ十二度(ママ)ト工場票提出

▲▼47ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月12日(土)

天気晴

上京ノ予定ナリシモ土曜日ナノデ中止ス 福西ニ電話シタガマダ出來ヌラシイ 岡田氏
ニモ電話デ自分デヤルコトヲ進メル。清平ニAニ一ノパイプヲヤラセル
稅務所十二年度決算表提出
夕方朝鮮カラ青木君來 中島其他見学ニ一ヶ月ノ予定ノ由 職工三人連レテ來タト
ノコト 内一人三元居タ中川モ居ル由。鈴木館ヘ安岡ト共ニ夕食ニ行ク 妻君ト山口ヲ
呼び九時半頃散会 ドウモ變ナノデ伊藤ノ自動車デ又第一ヘ行ツテ見ルト山口ガアバ
レテ居タノデ妻君ヲ家ヘ送り山口ヲナダメテ十一時帰宅ス

▲▼48ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月13日(日)

天気 晴

快晴 温カデアッタ

十一時迄床ニ居ル イクラ寝テモ眠カッタ

鳥飼氏ノ照(ママ)介デ関トカ云フ生命保俵(ママ)屋ガ來タ 会フ 岩間氏ノ照(ママ)介ノ就職希望者來 工場ニテ會フ

二時頃ヨリ千葉ノ國吉ニ行ク 昨年土地ノ問題高橋ガ某人カラ借タ様ナ話シデアッタガ實際ハ高利貸カラ借テ居タトノコト 當方ハ一ケ年一割五分ダケ二月以後負担スレバヨイノデソレ以上ハ高橋ノ方デ出ストノコトデアッタ イヅレニシテモ今月中ニ片付ケルカラト先方ヘモ話シテ貰フコトトス

帰場シタラ尾崎行輝君ガ二人ノ學生ヲ連レテ見學ニ來テ居タ 一時間程居テ帰ル 山崎氏來 宅ニテ夕食ヲ共ニス。角太田、布施陪食

夜久田河原子ヨリ帰ル

▲▼49ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月14日(月)

天気 雨

朝カラ終日降ル 八時工場出 九時自動車ニテ上京 途中章氏ヲ見舞 大変ヨクナツタトノコトデアッタ 事ム所ニ行ク 倉敷工業ノ七名來テ居タ 山東君ニ口頭試問ヲシテ貰フ 先生ガ一人姉ガ二人ツイテ來テ居タ 明日晝頃先生ダケ來テ貰フコトニス 留雄氏風引キテ出ズ 今日ノ航空局行キヲ中止ス

清平佐藤式ノ圖面ト計算書提出 午後日銀ノ資金調整法ニヨル計畫書ヲ提出ス 三時帰宅 長島來 明日ヨリ出社

▲▼50ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月15日(火)

天気 晴

終日在所

利根川君來 今少シ預ルコトトス

安岡ト相談 木工部長イ太田ヲ置キ角ヲ試作専門トスルコト 布施ニ太田ノ方兼ネサセルコトトス

長島本日ヨリ出社

▲▼51ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月16日(水)

天気 晴

昨夜清平來 晝前歸ル

安岡午後上京 後事ム所ニテ打合せ 永野へ行ク

終日在所 明日ノ予報雨ラシイガ清平ニ雨ガ降ツテモ木村氏連レテ來ル様云ヒツケル
京都ノ柳谷氏來 宅ニテ晝食ヲ共ニス 何ンデモ千円余リ金ガ入ルノデ今仲氏へ借りニ
來タトノコトデアッタ 今日ドウシテモ百円 一三日内ニ二百円入ルトノコトデアッタガ
ドウニモナラナイノデ、コトワル 但シ五十円ダケ志トシテ包ンデ送ル 写経ノ話シラシ
タラ奥書ヲ書イテ呉レタ

▲▼52ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月17日(木)

天気 雨風

今日アラシノ様ナ日デアッタノデツヒニ木村氏來ラズ 明朝十時來場ノ由
藤崎中佐來場 口頭試問ダケ晝前歸ラル
今日角ヲ試作ニ 太田ヲ □製品製作部ニ廻スコトシテ附属ノ人撰ヲ行フ

▲▼53ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月18日(金)

天気 晴風

藤崎中佐來 試験実施サル

富尾章氏本日ヨリ出社 今日迄ノ状況ヲ話シ尚金融問題ニツキ意見ノ交換ヲナス 午
後本社へ行クトノコトデアッタ

十時木村氏清平ト來 間モナク奈良原氏來 小沢中將來 全部デ晝食ノ爲メ鈴木館
ニ行ク 三時頃解散シテ木村氏ダケ残ツテ貫ヒ練習機設計ノ件駒林ニ聞イテヤツテ貫
フコト千円デ依頼 顧問ノ件月五十円デ依頼 之レハスグ快諾 外ニ中級設計者一ニ
名タノム 九時自動車デ送り出シテ歸ル

▲▼54ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月19日(土)

天気 晴風

風強シ 終日在所 章氏出

今日初メテ工場員ニ対スル講習会開催 福(ママ)社長ヨリ精神訓話約三十分アリ 第
一回終了 萱場ノ小川氏來場 局ノ試作奨励金ヲ貰ヒタイトノコトデアッタ

▲▼55ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月20日(日)

天気 晴

風ヤ、アレドモ好晴

終日在宅 晝頃工場ニ出沢柳氏へ當方ニテ会社へ居テ貫フコトヲタノムカラ其節ハ來テ呉ル様 若シダメナラ、アキラメル旨手紙出ス

弘中ヨリ発動機送ルコトニナツタカラ着場所ヲ知ラセトノコトデアッタ 尚職工ノコトモアツタノデスグ返事出ス。今日ハ経ノ本ヲ讀ンダリ東洋史ヲ讀ンダリ終日ヲ送ル
夜清平帰り株券ヲ持ツテ來ル

▲▼56ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月21日(月)

天気 晴

八時半工場出 風弱ク天気ヨシ

大連弘中へ職工派遣ノ件ニツキ電報ヲ打ツ。大体相談ノ上阪本出張サセルコトトス。関根源吾來 昨冬送りツケテ來タ品モノヲ調査 全部デ二十円支拂フ

上京 事ム所ニテ岡田氏ヨリ福西氏金融ノ爲メ必要トテ白紙ノ委任状ヲ預ケル。後チ福西來 其話シヲナシ善所ヲ乞フ 今少シデ出來ルトノコトナレドモ樂觀出來ズ。岩間君松山へ行ツタ由 清平ツヒニ來ラズ。航空局長、同監理部長ニ挨拶 検査願ヲ出シ、後チ協會青年團、日日新聞ニ行ク 和田氏ヨリ大牧貫ヒタイ話アリ
午後六時帰宅

▲▼57ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月22日(火)

天気 晴

奈良原氏來場 明朝十時小沢閣下來場予定

終日在所

大連へ坂本出張サセルコトニ決定 廿五日神戸正午発ノ長城丸ニ乗セルコトニス スグ材料發送ス

▲▼58ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月23日(水)

天気 晴

九時工場出 福西ニ電話ス 昨日取引出來ル處迄行ツタガ留雄ガ三菱へ交渉スルカラ一兩日待ツテ呉レトノコトデアッタ由 之レハ内密ニシテ呉レトノコトデアッタ 縣庁ニ行キ工場課ニテ積立金法案ニツキ説明ヲ聞ク 晝食後帰ル 宇賀尚手續キ上ノコトニツキ午後モ残ル

奈良原、章氏小沢閣下ト上京ス

▲▼61ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月24日(木)

天気晴

正午ヨリ清平坂本ト自動車ニテ上京

職工規定、援助規定、等大綱ヲ定ム 金融問題未解決ノ由 福西岡田ニアト明日一日シカナインノダカラトウスルカト迫ル 留雄氏一人デヤツテ居ルノダトノコト

夕方散会后更ニ留雄、福西、岡田、会合シテ貰フコトトナル。章氏ト自動車ニテ帰ル四時記者クラブニ会社創立ノ挨拶ニ行キビールスシヲ出ス

安田氏ヨリ千円借用問題アリ 福西協議セシモ問題ニナラズ 岩間責任ヲ感ジ居ルノデ半分ト思ツタガ結局三百円ダケ岩間君ニ金融ヲタノミ明日届ケテ貰フコトトス 青年團注文アリ 昨日ノ満協ト共ニ之レハ急(ママ)ガシクナツタ

▲▼60ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月25日(金)

天気晴

福西ヨリ電話アリ 昨夜ノ結果福西ノ借入レニキマリタル由。岩間へ依頼シタ三百円モ出来タガラ來テ呉レトノコト 正午ヨリ上京ス。岩間ヨリ三百円受取り包ミ金トシテ三時頃安田ノ弟來 手渡ス

五万円借入金国産興業ノ手ニヨリ借入レ決定 日歩五銭 手数料三千元 大分高イモノデアツタガ結局ソレニキメル。岡田ヨリ利子一銭五分ヲ国産デ持チアトフ会社デ負担シテ貰ヒタイトノコトデアツタガ之レハ十万円ノ不足ハ全部国産デアトハ當会社デト云フノガホントウダロウト思ツタガソレガハタシテ利益ニナルヤ否ヤハ問題デアツタノデアイマイニス 福西ハ之レハ別途ニシテ新增資ノ場合ニ適當ニ回収スベキデアルトノ意見デアツタ

尚創立當時ノ十二万円富尾へ六十万円シカ先方ニ云ツテナカッタトノコト 結局予想通り 中(ママ)介五万円デアツタガ、二万円無断ニナツテ居タ 福西トシテハマヅイヤリ方デアツタ

借入相手方南信興業株式会社ニテ埴原氏関係ノモノノ由

▲▼61ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月26日(土)

天気晴

九時自動車ヲタノム 其前安岡ヨリ技工昇給問題ヲソレハ自分カラ調査サセタノダガ余リ要求ガ大キスギルノデ反省ヲウナガシテ居ク

奈良原氏ヲ同乗サセテ上京 福西田山氏へ行ク 中々來ズ漸ク十二時出發スルコトニ

ナル 一行岩間、岡田、福西、清平、成松氏 向フヘ二時着 糶屋旅館ニテ晝食ス 町長ト助役挨拶ニ來 南氏兄ト云フノガ色々世界(ママ)シテ呉レル 三時頃ヨリ土地見分ニ行キニケ所見ル 先キ見夕方ガヨカッタ 自分ノ案トシテ工場敷地五万坪 飛行場十萬坪ノ予定 終ッテ案内ニ來タ町長、有力者、町會議員約四十名ニ対シ今日ノ札ヲ述ベ一先ヅ糶屋ニ引上ゲタ食後七時出發 十時帰宅 工場ニヨリ帰ル

▲▼62ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月27日(日)

天気晴

章氏來場 給料受取ル

旧所員株ノ分配方考慮ス

▲▼63ページ▲▼ 昭和13(1938)年2月28日(月)

天気晴

正午本社出 山崎君來ルトノコトデ待ツタガ來ラズ

章氏ヨリマダ株ノ件ニツキ不明ノ點ガ多イトノコトヲ聞ク

三時過ギヨリ横山氏ニ挨拶ニ行ク 経ノコトニツキ話シヲ聞ク 磐若心経ヲ見ルトヨイトノコトデアッタ 五時曙ニ行ク 間モナク木村氏來 清平ニ木村氏丁度世話ヲ仕様ト

云フ 小林氏モ來 初メテ會フ 埼玉縣粕壁ノ人ダトノコトデアッタ 十二時帰宅

▲▼64ページ▲▼ 三月

第二期計畫樹立

練習機試作進行ノ件

▲▼65ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月1日(火)

岩間ヨリ電話アリ 昨日出來ズ ヤハリ証明ガ入ルトノコト 岡田氏帰ル迄又ダメラシ

イ 千葉ノ方ガアルノデ困ル

安岡川口行キ

正午萱場ノ森氏來 現状ヲ見テ晝食後帰ル

鳥飼氏模型持参

▲▼66ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月2日(水)

天気 晴

終日在所

佐野清三郎來場 旅費トシテ二十円貸ス。合資会社ノ分現金デ欲シイトノコトデアッタ

今井仁來 台湾勤務トナル由 三十五円渡ス 之レデ全部皆済トナル

◆▼67ページ◆▼ 昭和13(1938)年3月3日(木)

天気 曇雨

午前中在所 十一時ヨリ上京 自動車ニテ

事務所ニ行ク 正午松下清水君來 グリルニテコーヒーヲノム 岡田勇氏來 十五日頃若干入レルコトヲ約ス。

岡田氏京都ヨリ帰り章氏ト話シヲ聞ク 奈良縣木津町二十五万坪ノ埋立地ガアツテ飛行場トナルヤ否ヤトノコト 出來テ出來ナイコトハナイガ、アマリ發展性ノナイ處デアル 然シ尙小沢閣下トノ関西方面ノ軍部ノ拡張狀況ヲ聞イテ決定スルコトトナル

航空局、同試験所ニ行ク 航本ニモ行ク 少年航空兵ノ件依頼シテ帰ル

福西ト岩間氏松山問題ニツキ積極的方針樹立ノ爲メ相談シタイトノコト 明日朝福西宅ニ行クコトニシテ帰ル 章氏清平同道工場ニ行キ今日カラ全員夜業ノ状態ヲ見テ帰宅

国吉ノ分持タセテヤレズ 五日ノ支拂モ不安

◆▼68ページ◆▼ 昭和13(1938)年3月4日(金)

天気 曇後晴

八時半工場出 十時福西着 來客多ク十二時過ぎ迄カヽッテ相談 松山進メルコト

金融問題速(ママ)進ノ件ヲ今日決定スルコトトス

金融問題ニテ留雄氏岡田氏ニ共ヘ行ク 其間章氏ト福西ト長尾氏訪問 一億カラノ資産アル貴族院議員デニ三百万位出サセルニツキ明日自分一人ダケ会ツテ見テハトノコト 相談ノ上返事スルコトトス

夕方全役員会同 先決問題トシテ明日ノ支拂二千円タラズシカ金ナク決極(ママ)止ムヲ得ザルモノノミ明日支拂 アト全部十一日トスルコトトテ速達便ヲ出ス 松山問題 福西、岡田、岩間デ進メルコト。金融問題今迄ノ行キカ、リノモノ福西進メルコト。今後毎週役員会議ヲ開クコト 土曜日午後ト定メニ回ハ津田沼ニテ行フコトトキメテ散会 帰宅 東洋電機ニヨリ十一日トコトワル

◆▼69ページ◆▼ 昭和13(1938)年3月5日(土)

天気 晴

昨日職工木工四名ヤメタトノコトニソレ等ニツキ安岡太田、角ト打合セヲナス。時間オクレ自動車ニテ上京

支拂ヲキメテ鷺津ニ差圖ス

福西ニ立寄り一人日ノ出館ニ長尾氏ト会ヒ同道シテ先方ニ行ク 浅野侯爵家ノスグ前デカナリノ家ニ住ム女ノ人デアッタ 寄数(ママ)家デ人格者ノ様ナ話シデアッタガドウモソシナ気ハシナカッタ 適當ニアシラツテ東京会館ニ行キ前島氏ニ照(ママ)介サレル前島長尾ト何ニカ契約ヲスルラシイ。自分ト福西ハ植村子爵ト貴族院ニ行キ航空事業方案ノ草稿ヲ貰フ。金融ノ方明日留雄氏渡辺氏ト會見決定ノ由

午後五時築地ヒサゴヤニ行ク 千田貞敏大佐ノ歓迎会 十時半迄 参会者多ク誰レモ又愉快デアッタ

高山ニ五十円渡ス 今迄ノ計六百五十円

▲▼70ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月6日(日)

天気 晴夜雨

八時起床 ヨイ天気デシカモアタタカデアッタ

十時工場ニ行キ国吉ト葉方ニ手紙書ク 国吉ハ明日ノ予定ヲ十一日ニ延期シテ貰フ

午後恵美子ニ持タセテヤル

十一時奈良原氏來場 久シ振リデ出社 今日ハ病後ノ足ナラシトノコト 上京 東京駅ニ高橋大佐ノ出征ヲ送ル。ハイバラニテ感謝状用紙ト大封筒ヲ求メテ帰ル 中君東京駅デ會ツタガ一時ノ汽車デ大坂へ帰ルトノコト。吉田重雄來ルカト思ツタガツヒニ來ラス

夕方工場方針等思出スマ、記憶ニトゞメル

▲▼71ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月7日(月)

天気 雨曇リ

午後各部長ヲ集メソレ、注意ヲ喚起ス

青島ヨリ使ツテ呉レトノ自分アテ正式手紙來

工藤ニヨリ職人一人來 手紙持參

正午ヨリ飛行館ニ行ク。協会ニテ奨励金ノ件シラベル 北海道ノ分マダ人員調査出シテナイトノコト

二時川辺君ト地下室ニ行ク 奥山石橋ト茶ヲノム 三時迄待ツタガ渡辺モタレモ來ラズ 名刺ニ書キ置キヲシテ東日ニ行ク 吉田ニ會フ 共ニ津田沼へ行クコトニシ事ム所ニヨル 留雄、岡田、福西居リ山口ヨリ丁度電話アリ 金融出來ソウダトノコトデアッタ

吉田ト工場ニヨリ帰宅 七時頃安岡來。大牧、島、長谷川等ト夕食ヲ共ニシ北支談ニ
十時過ぎ迄歓談ス

▲▼72ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月8日(火)

天気 曇小雪

又寒クナツタ

終日在所 久シ振リデアッタ

午後台北ノ佐倉井航空官來場 清平同道A二三台發送スルコトニナル 明日中ニ持込
マネバナライノデ今夜徹夜シテモ荷造サセルコトトス

夕食鈴木館へ出カケ居ル處へ野口君來 道具函ヲ一個持込込ミ三十円デア買ッテ呉レト
ノコト 丁度金ヲ持合セタノデ買フ 佐倉井氏ト八旧知ナノデ同道ス 八時半頃迄歡
談シテ東京迄送ル。九時工場ニヨリ帰宅

▲▼73ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月9日(水)

天気 曇リ

終日在所 午前中工場 午後二時頃帰宅 静養ス

朝本社岡田氏ヨリ金ノ方話シハマトマツタカ章氏京都へ印鑑証明ヲ取りニ行ツタカ二三
日遅レルノデアトカラ送ッテ貰フコトニシテ今日帰ル由 其爲メ十一日ノ分ハ他ニ何ント
カ方法スルトノコトデアッタ ヨクナイコトダ

▲▼74ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月10日(木)

天気 雪後雨

十時前工場出 福西ニ電話スル 印鑑間ニ合ヒ章氏今朝帰京 今日中ニ金融手續キ出
來ル筈トノコトデアツタガ夜清平帰リ聞クト塩田へ手續キニ行ニマダ間ニ合ワズ明日午
前中ニ出來ルダロウトノコト ハタシテ出來ルカドウカ

大坂ノ兄來 清平ノ嫁ノコトニツキ相談 夜相性ヲ調べたら大變ヨカッタノデ京都へ行
ク予定ヲ作ッテ行ツタ 來タラヨカロウト申シ渡ス

Aニ今月來月ソレ以後ノ製作予定ヲ立テル 明日ハ試作機ノ予定 安岡職人ヲ呼ビニ
上京

▲▼75ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月11日(金)

天気 曇リ

福西ヨリ電話アリス工場ニ行ク 九時電話スル 今日中ニ金ニナルガ手形ニ国産ノ振出ニテ當社ノ裏書キヲ要スルトノコト 諒解ヲ與ヘテ居ク 夕方來ラズ 四時半電話デ聞ク 章氏出テ出來タガ遅イカラ支拂ハ明朝ニシテ呉レトノコトデアッタ 今日ハ工数調査ヲナシ職工ノ予定ヲナス マダ三四十人入レナケレバナライ 安岡ト打合せス

クラブノ金大分タマツタノデ郵便貯金サセル 八百円
兄終日工場ニアリ

清平急イデ上京 判ヲ朝モタセテヤル
国吉朝手紙ニテ延期シテ居ク

▲▼76ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月12日(土)

天気 曇リ

奈良原氏ハ晝頃迄ニ役員全部揃フ 食後自分ヨリ工場ノ計畫現状等ヲ説明シアトハ副社長ニユヅル 其前金融成立ノ勞ヲ謝ス

増資問題ハ決行スルコトニ決定。本社会計獨立其他營業問題支配人ニ全責任ヲ持タセ
ルコトトス クラブノ件問題ニナツタガ別箇ニ獨立ヲ計ルコトトシテ先キノコトナル 三
時終了 丁度木村氏來

小林氏ノ件役員会デ承認ヲ得テアツタノデ聞ク 小林氏モ希望アリトノコト 百五十
円ニテキメル 試作機ノ試験終ツテ六七月頃ノ由

夜安岡、清平、長島、佐藤、太田、鈴木館へ行クトノコトニ兄木村氏モ同道ス 兄清平
ノ宅へ行ク

▲▼77ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月13日(日)

天気 雨後曇

十時工場出 晝迄事務ヲ取ル 小供募集思ワシカラズ

二時帰宅 盆栽ノ植替ヲナス 終ツタ處へ和田氏來場ノ報アリ丁度四時工場ニ行キ、
鈴木館ニテ夕食 奈良原、安岡ト共ニ大牧ニツキ相談ス

▲▼78ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月14日(月)

天気 曇リ

八時工場出 安岡本日ツヒニ出勤セズ 又昨晚ノマドコカエ行ツタモノラシイ 連レテ
帰レバヨカッタ

青島來 安岡帰ライノデ自分ヨリ話シス 鈴木菊ヲ介シ百円位ノ収入ヲホシイトノ

希望アリ

現場長ノ置任ヨリ日級三円八月給九十円トスルコト 外ニボーナス入レレバ百円以上トナル旨話シ本人モ來ルトノコトデアッタ。自動車ノ方ヲ何ントカ方付ケテ來ル由

工藤高橋氏來 岩手縣ノ状況ヲ聞ク

明日青年團へ清平ツケテヤルコトトス

岡田高山支拂ヒノ爲メクラブヨリ四百円借りル

▲▼79ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月15日(火)

天気 晴

夜中ノ十二時過ぎカラ、ムネガ悪ク上ゲソウナ氣持チガシタノデ一時半頃指ヲ入レテ出シタガ直ラズダン、ハゲシクナルノデ夜明ケヲ待ツテ醫者ヲ呼ブ 胃カタルノツヨイノダトノコトデアッタ 注射シタガ止マラズ十一時頃又ヨブ 少シ注射ガキイタラシク藥ニナツタノデ水薬ハキ氣止メヲ少シノムト、カヘツテ又ハゲシクナツタ 四時頃又醫者ニ注射シテ貰テ漸クオサマル 丁度十六時間クルシカッタ 大口ノ苦ヲ思ワル 夜ハ大分樂クニナツタ 十一時頃更ニ一本ヤツテ貰ツテ安眠ス
岡田へ百五十円持タセテヤル 千葉へ明日ニナル 三百円クラブ貯金ノ内ヨリ借りル

▲▼80ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月16日(水)

天気 小雨曇リ晴

今日ハ樂デアッタ 水ヲノムコトダケユルサル
コワ、少シヅノム 食道ガ少シ変デアッタ

奈良原、章両氏來 安岡ヲヨビ色々命ズ 千葉へ鷺津行き抵当権解除ノ手續キ終ル 千五百円渡シ外ニ秋本、国吉ニ各十円謝礼 晝食代デ約五十余円。外ニ数人仲立者ガアツタソウダガ丁度來テ居ナカッタトノコトデアッタガ夜国吉ノ外二人ハタシテヤツテ來タガ合ワズニ帰ル

岩間氏ニ返ス三百円今日思ヒ出シタノデ章氏ニ給料ヲ今月分先キ出シヲシテ貰フ 岩間氏ニ返シテ貰フ様タノム

▲▼81ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月17日(木)

天気 雨後晴

今日ハムネモ樂ニナツタ 殆ンド平素ト變ラナカッタガ八時過ぎ布施醫者來 クツ湯トオモ湯ヲユルサル 晝過ぎヨリ大分元氣モ出ル

安岡來 今日ハ小僧試頭ニ成田へ出張スル由

▲▼82ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月18日(金)

天気晴

福西、留雄、岡田三氏見舞ニ來 共ニ新潟ノ指物屋ノ親方來 二十五名尚入用ダガ
十名ダケハ確實トノ事デアッタ
オモ湯晝 朝タクツ湯 二回リンゴ汁 朝便ヲ取ル 発病後二回目 血多クマダ、静
養ヲ要ストノコト
岸ノ家雑役トシテ來テ居ル由 雑役二名出來タ ベニヤ板マダトラヌ由
朝三時頃ヨリ目醒メ眠レズ工場ノコトドモ色々考慮ス。尚シユワルツ研究ノコト進メルコ
ト清平ニ云ワネバナラナイ

▲▼83ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月19日(土)

天気晴

醫者來 便ヲ見テマダイケナイ 尚一兩日流動物ヲ取ルコトトノコト 今日ハスープヲ
作ツテ貰フ
岩間氏來宅 野村へ一万円定期 千円ヲ当坐預金シタトノコト。三百円ハマダ返シテナ
カッタ 章氏モ実行シテ呉レナカッタ。
協会ヨリ河原子、立命館、伊藤、巢鴨四通千円ノ送金通知書來
安岡今日ツヒニ帰ラズ役員会ヲスツポカス 実ニダメナ男ダ
夜清平來宅 九時迄話ス 奈良原、福西欠席

▲▼84ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月20日(日)

天気晴

奈良原安岡清平太田、集マル
上野坂元ヲ引張リニ行ツタトノコト 安岡ニ嚴重断(ママ)判セシムベク命ズ 江戸川モ近
ク許可ニナル由
午前中ハソシナコトデアイクツシナカッタ
午後一回下痢シタガ後止ム。オモ湯ハドウモウマクナイ 今朝調ベニ持タセテヤツタ便ハ
マダ悪イトノコトデアッタ

▲▼85ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月21日(月)

天気 晴後曇

島來 木中行キ一五六号(八五本)持參サセル 旅費十円立替
安岡二回來 工場ノ模様聞ク

今日ハ作業日誌ヲ見ル

醫者來 今日カラオマジリニナル。フ、ジヤガイモヲ許サル 夜カラ食ス
九時ヨリ自動車ニテ家内、エミ子和孩子寺詣リニ行ク ツヒデニ動物園ヲ見セル。高山ニ
会ツタ由

十時頃仁三郎帰り合格証ヲ見セル。之レデー安心 一所ニヤツテ居タ野崎君ハダメデ
アツタ由 カワイソウナコトダ

◆▼86ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月22日(火)

天気 雨曇

終日降タリ止ンダリ

章氏來 職工昇率決定 宿舍借入決定 其他二三打合セ

午後グライダー値上ゲニツキ考慮 其可能性ト必要性ニツキ手配ス

一五式四時頃試飛行ス カバー不良ヤリ直シノ由

夜八時頃和孩子八度七分発熱アリ 原因不明

ヒヨコ(ママ)五羽全部健全ニカエル

◆▼87ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月23日(水)

天気 雨

終日降ル

朝醫者來 おカユヲ許サル 晝半熟ヲ一個喰シタラ二回バカリ下痢ス 和子見テ貰タ
マタ二十八度四分アリ ヒマシ油ヲノマス 午後平熱ニ下ル

高山來 午後四百円渡ス 墓土代 四辺十一側ノ五ヲ買フ由

鷺津縣廳ニテ協会ノ金受取ル 奈良原本社へ入金 其他立命館巢鴨中學、河原子、伊
藤万吉分各二百五十円デ千円入 内四百円高山渡 二百十円安岡ヘヤツタ 岩間氏
借り返金 清平持參 アト式百円ベニヤ板引取りノ爲メ式百円工場貸 百円手許へ
洋服注文ヲナス

◆▼88ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月24日(木)

四時過ギ白戸カラ電話ニテ白戸ノ死ヲ知ラセテ來タ 葬儀委員長ノ約束ガアツタガ行
ケナイノデ家内ト安岡ヲヤル 廿七日葬儀ノ由

奈良原氏來宅

夕方清平木村氏ト來 今村晝イタベルクヘツト全部ダメノ由 役ニ立タナイ男ダ

◆▼89ページ◆▼ 昭和13(1938)年3月25日(金)

天気 晴

今朝醫師來 本日ヨリ手ヲハナレル 尚薬ヲ續ケルコト 一週一回ヅ、便ヲ調ベルコト
二三日身体ヲナラシテ工場ニ出テモヨイトノコトデアッタ 和子モ起キル 自分モ起キル
一五式検査終了

明日新入社ノ準備進ム

肥田木運搬函設計ナル 先ヅ作ラセルコトトス

◆▼90ページ◆▼ 昭和13(1938)年3月26日(土)

天気 晴

工場ニ急(ママ)ガシカッタ 十時頃スデニ全部來タラシイ 六十一名中一名不登者ガア
ツタダケデアッタ

本社ヨリ役員全部來 午後工場ニテ役員会アリ 自分出席セズ 七時頃皆來 田山氏
モ同道 役員会ノ結果ヲ聞ク 増資ハ松山中心ニ即行ト決定。毎週一回出場視察ヲナ
ス由

八時過ギ皆帰ル

山崎氏局ノ坂本氏來場 試作機ノ出來バエヲ見ニ來タ由

今日ハ一日起キテ居タガナントモナカッタ

◆▼91ページ◆▼ 昭和13(1938)年3月27日(日)

天気 晴曇

朝家内ト上ノ借家見ニ行ク 思ツタヨリ便利ナ場所デ中々ヨカッタ 恵美子和子モ同
道ス 後チ散髪ニ行ク

一時半自動車來 青木同道工場ニ立寄り二時十五分白戸葬儀場高德寺ニツク 途中
徳永サン会ヒ挨拶ス。乗池梅本君等來テ居タ 丁度讀經中デアッタ 終ッテ妻君ヤ国
カラ來タ兄信雄君等ト挨拶シ間モナク辭シテ帰ル

三時半帰宅 皆船橋へ行ッテ留都(ママ)デアッタ 準備シテアッタノデ松其他ノ種蒔キ
ヲナス

◆▼92ページ◆▼ 昭和13(1938)年3月28日(月)

天気 雨曇り

九時過ぎ工場ニ出ル 随分ニギヤカデアッタガマダ百人位入レテモ工場ハセマクハナイ
晝迄居テ帰ル 少シツカレタ様デアッタ
午後床ヲ取ツテ横ニナル 通信省練習場ノ修理機体ハドウスルダロウカト考ヘルト今ノ
内ニ運動スル必要アリ 給料支拂ヒ終ル

▲▼93ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月29日(火)

天気 雨曇一時晴

九時半工場ニ出ル 十時五分前一五山口縣へ出発ス 安岡操縦吉田葉方同乗 ラジエ
ター故障ノ爲メ安藤泊リ
Aニ鉄板使用量調査ス
午後二時帰宅

千葉市産業課ノ人來 千葉市ニ工場設置サレタイ予定場所ハ物井信号所附近(下志
津飛行所ノトナリ)ナラ結構トノコトデアッタ

▲▼94ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月30日(水)

天気 曇晴

晝頃吉田ヨリ金オクレトノ入電アリ 安岡宛出発ヲ聞合ス 夕方返アリ 修理中明
朝早く立ツ予定

Aニ鉄板材料使用量調査ス 全部デ半枚位ノモノデアッタ 之レ位ノモノガ半歳モカ、
ツテ出来ナカッタノハ馬鹿気タ話シデアッタ

玉井藤一郎君來 ペラガ欲シイトノコト 二本約束ス。野田金一君來 アンリオ欲イト
ノコト 飯沼ヲ教ヘテヤル

夕方清平朝鮮総督府ノ人連レテ來 Aニ一台賣渡シ
章氏ニ橋本ノ権利書渡ス

▲▼95ページ▲▼ 昭和13(1938)年3月31日(木)

天気 晴雨

終日工場 部長級ヲ集メ会議
章氏今日出社ナシ

福西ヨリ電話アリ 伊笠カラニ名木工來ルガヨイカトノコト 歡迎シテ居ク
夜十時頃清平來 金ヲ津田沼へ返シタ由

明日ノ株主總會ニツク佐渡島ヨリ芦屋へ今夜電話セヨトノ入電アリシモ津田沼カラハ通

ジナイノデニ日清平行ク旨返電ス

◆▼96ページ◆▼ 三月

増資株募集ノ見込ミヲツケルコト

◆▼97ページ◆▼ 昭和13(1938)年4月1日(金)

天気 晴

八時過ぎ工場出 十一時ヨリ清平、章両氏ト上京

局へ一寸ヨリ試作機ノ半金今朝到着 南波サンニ御礼ニ行ク 本社ニ帰り二時ヨリグリルニ株主總會ヲ開ク 佐藤氏モ出席 柳父氏モ來ル 五百万円トスルコトソレニトモナウ定款ノ変更決議ス 佐渡島へ電話シタガ不在 清平下坂サセル。岡田氏ヨリ一月ニ五千円福西カラ借りテアツタノヲ此ノ五日ニ返スニツキ会社ヨリ五千円ノ手形ヲ出スコトヲ承認シテ呉レトノコトデアツタ 承認ス
安岡一時出発ノ報アリ着報ナシ 心配ス

◆▼98ページ◆▼ 昭和13(1938)年4月2日(土)

天気 晴

八時前工場出 九時自動車ニテ仁三郎千葉工へ連レテ行ク 入學式ニ校長病氣デア若イ先生ガ代理ヲツトメタガタヨリナカッタ 仁三郎ハA組デアツタガB組ノ主任モ來テ居ナカッタ 日大ナドト比較シテ少シ変デアツタ 本トパスヲ買フ 外ニ万年筆ヲ惠美子ト二人買フ

午後工場 富尾氏又小沢中将ト會フ爲メ午後上京ス 松山ノ工場敷地モ小沢中将モ見ニ行キタイトノコト。昨日又岡田氏ノ照(ママ)介デ会計トシテ入レルトノコトニ一人這入ツタノヲ今日カラ工場ニ見習ヒニヨコス 履歴ハ大シタモノデアツタガマダ若イ男デアツタ

◆▼99ページ◆▼ 昭和13(1938)年4月3日(日)

天気 晴後風

五時半起床 家内ト和子ヲ連レテ成田山參詣ニ行ク 初メデアツタ 七時半ニハお詣リヲ終リ公園ニ入り色々千年祭デ催シモノガアルノデ宝物ナド見ル 奥ノ院モ初メテ中へ這入テ御詣リシタ 御本尊ハ不動様デナク大日如来デアツタ 十一時帰宅。

奈良原氏來 二時頃帰ヘラル
午後風ツヨクナル 明日ノ天候悪イ由 又協会ノ競技会延期トナル

◆▼100ページ◆▲▼ 昭和13(1938)年4月4日(月)

天気 晴曇

八時半工場出 部長会議 組長決定ヲウナガス
明日ノ支拂八千余円アル由 コチラモ若干ヘラシテ呉レトノ希望ニ章氏苦心ス 電気屋
ヲ三回拂ヒニシテ小サイハ皆支拂フコトトス
工場内マダ、一時ニ増シタノデムダカ多イ
夕方柳原來 工場ヲ見セ宅ヘ寄ル
長谷川吉田満空入り爲メ送別会ヲ島村デ開ク 七時過ぎ行ク カンジンノ長谷川來
ラズ吉田ダケデ八時四十分初メル 九時頃長谷川來 十時自分先キニ帰ル 酒一滴モ
ノマズ肉モサケル

◆▼101ページ◆▲▼ 昭和13(1938)年4月5日(火)

天気 晴

章氏上京シタ 五時帰場 弍千円ダケ貰ツテ來タトノコトデアッタ 山崎木村氏少シ
先キニシテ呉レトノコト安岡ヨリ入電アリ マダ山口ニ居タ 七十円送ツテ呉レトノコト
ニ。スグクラブノ金ノ中カラ送金サセル
帝専先生來
プライマリー木材調べヲナス 工場デ取ラセルノハ大變損ニナリソウナノデ又小サイモ
ノ辻見積リヲ取ルコトトス

◆▼102ページ◆▲▼ 昭和13(1938)年4月6日(水)

天気 快晴

七時起床々ノ中デ新聞ヲ讀ミ終ル
朝床屋ニテ顔ヲソリ八時半工場出 富尾氏出テ居タ 帝国商業デグライダーズデ二戸
田橋ヘ行ツタアト
太田ニ原價計算ニツキヨク話シス
十時自動車ニテ清平、章氏小沢中将ト上京 本社ニ行ク 一時少シ過ぎ役員打揃ツテ
松山町ニ行ク 清平戸田橋ニ下車ス 町長ニ會フ 今一度場所ヲ見分ニ行キ五万坪ノ
地所デ大体北ハ山林ト畑ノ境 東ハ運動場ト定メソレヨリ西ヘ五百米 南ヘ三百三十米
取ルコトヲ依頼ス 仮契約ハ明日町会ヲ開キ捺印スル由ニテ引上ゲル 帰途小沢中将、

留雄、章氏ト銀坐出井ニテ夕食ヲ共ニス 料理ハヨカッタ 小沢閣下ノ話シ好キニツラレ
色々有益ナコトヲ聞ク 十時半帰宅ス

▲▼103ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月7日(木)

天気 曇少雨

八時工場出 十一時章氏ト自動車デ上京

清平岡田二人ニテ萱場契約書々直シ終ル

二時ヨリ戸田橋ニ行ク 五時終了 千葉県体育主事松下氏木更津校長、少佐奈良原
氏ト帰ル 船橋ニテ夕食後千葉追送ル

奈良原サンハ昨夜戸田橋デ泊ラレタ由 実ニ熱心ナモノダ

▲▼104ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月8日(金)

天気 晴

青島本日ヨリ出勤 章氏ニ照(マ)介 何ントナク不用ナ人間ノ様ニ考ヘテ居ルラシイ。
明日役員会ノ上ニ決定シタラナドノ話シモアッタガ之レヲ第一回役員会ニ一應皆ニ話
シ承認ヲ得テアッタコトヲ力説ス。山東君來 三月迄ノ決算ヲヤツテ居タ

午後千葉ニ青島ノ自動車デ行ク 奈良屋デ買物シテ徳永氏訪問 過日御祝ノ礼ニ行
ク 丁度在宅デアッタノデー時間バカリ話ス。後白戸ニ行キ五時過ぎ話シヲ聞キ帰
ル 鈴木ノアブロ墜落 二名負傷 ソレハ仕方ガナイトシテアブロ堪航証ノナイノデアッ
タトノコト 困ツタコトニナツタ

▲▼105ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月9日(土)

天気 曇北風寒シ

朝早ク鈴木來 局ヘ行クトノコト アブロノ件サルデヤツタコトニシテハドウカト教ヘル 尚
局ヘ行ク前藤崎サンヘスグ行カセル

役員來場オソク三時頃ヨリ役員会 青島ノコトシブ、決定ヲ見ル 少シシヤクニサワッ
テ居ル處(安岡ノ話シ出クラブノコト奈良原氏ノコトデサン、攻撃サル。ドウモ悪イ點
モアルガ安岡ハ対外的ニ現在ノ地位ハマダ低イ位デアルコトヲ話ス クラブノ件ハ決極(マ
マ)増資ガ出來タラ会社トシテハ不必要ダカラ五万円モ貸シテヤツテ別ニスル方ガヨイ
ト云フ。

木村小林氏六時半頃來 工場ヲ見テ島村ニ行ク 小林氏入社マダ決定的ニナツテ居ナ
カッタラシイガ増資計畫ヲ見テヤツト決心ガツイタラシイ

▲▼106ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月10日(日)

天気 晴

安岡ノ子供危篤ト云フノデ布施サンヲタノミタ方行ク 川久保サンガダメダカラソツトシテ居イタ方ガヨイトノコトデ何ンモシテナカッタ。早速手當ヲサセル
今日ハ工場ニ仕事モ一寸ナクナツテタイクツシタ
三時ノ休ミニ先月廿七日以降ノ入所者ヲ全部集メテ挨拶ヲナス
夜清平小林氏ヲ連レテ來 若干工場設備等ノ打合せシテ帰ル
鈴木ノ練習生ツヒニ死ス

▲▼107ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月11日(月)

天気 晴風雨

終日降ル 章氏東京

清平事ム所へ出ズ電話アリ 佐藤、布施休ミ
午後角モ寒氣スルトテ休ム 夜三十八度アリ
安岡子供今朝二時死ス 安岡今日出発スル由昨日入電アリ
今日ハ夜業ヲ休マセル 夜度々停電アリ ヨカッタ

▲▼108ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月12日(火)

天気 晴

角三十九度余ノ発熱アリ 今日自分久シ振りニ上京ノ予定ヲ変更シテ試作機ノ免(マ)倒ヲ見ル
所得税ノ申請ヲナス 生レテ初メテ Deal 千弍百円デ小供ガ四人勤勞所得ニ割引ヲ入レルト正味五百六十円ニナツタ
夕方山崎氏來所 B型機ノ現圖ヲ引ク。島村ニテ夕食ヲ共ニス。局ノ荒木來 同道ス。
九時過ギ市川駅ニテ分レル。駅ニテ縣ノ松木サンニ会フ 松戸ハ町長ガ非常ニ熱心ダトノコトデ町長ヲ會長シタ由
帰宅清平ガ居タ

▲▼109ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月13日(水)

天気 晴

朝局ノ坂本氏ヨリ山口縣カラ整備ガ悪イトノ報告ガ出タトノコトニ吉田ト清平ヲヤルヨク分ツタ由 途中不時着ニ対スル疑問カラデアッタ

午後東漸寺ニテ帝国飛行學校ノ校葬ニ出ル 江川練習生ノ告別式アリ 淋シクナイカト心配シ(ママ)ガ先ヅヨカッタ

◆▼110ページ◆▼ 昭和13(1938)年4月14日(木)

天気 晴

久シ振リニ上京 十日死ンダ獨逸飛行士ノイリス商会葬儀ニ行ク 少シオクレテ行ツタラ間モナク終ツタ ソレデモ間ニ合ツテヨカッタ。小栗ニ會フ 飛行機賣ル様進メル。試験所ニヨル 航空館會議デ誰レモ居ラズ 東日ニ行ク 松岡氏ニ會フ イロ、氏ノ研究ヲ聞ク 参考トナル。奈良県ノ体育主事ガ來テ居ルトノコトニ待ツタガオソク、清平ハ本社へ 自分記者クラブへ行ク マダ楓井氏ノ外タレモ居ラズ 石尾氏ニ名刺ヲ置イテ帰ル。夕方五時過ギ体育主事來 六時過ギ帰ル 式台決定 一台福西名儀(ママ)ニテ寄贈スルコトトス。山崎氏ニ會フ 式百円渡ス。タンバツクル、タップ借リル

◆▼111ページ◆▼ 昭和13(1938)年4月15日(金)

天気 晴南風

朝安岡來 留都(ママ)中ノ話ヲナス 九時工場 章氏本社へ行ツタ由 部品代價決定ノ爲メ委員ヲ作り自分委員長トナル 浅草寺發行ノ觀音世界到着 夜ホトンド讀ミ終ル 二時半迄眠レズ 角看護婦ヲツケル 発熱尚一進一退

◆▼112ページ◆▼ 昭和13(1938)年4月16日(土)

天気 晴

終日在所 午後二時過ギ役員來場 岡田氏東宝ノ常務増谷氏同道 四時頃迄居タノデ會議オクレル 四時半ヨリ會議 今日ハ小イサナコトバカリデアッタ。岡田氏ヨリ金ノコト相談シタイガ此次ギニスルトノコトデアッタ 岩間氏ヨリ松山ノ報告アリ コトニ歸リニ特ニヨイカラ安心シテ呉レトノコトデアッタ。材料購入ニツキ三河屋ノ△ニスパーヲ例トシテ注意ス 安岡カラ云ワセルツモリノ處、山崎氏來 講演ガ初マツタノデ自分カラ云フ。六時講演ガ終ツテ階上會議室ニテ安岡、太田、青島、出席 會談有効デアツタ 青島中々熱心デアル 今村出席セズ 一番不熱心デアル 角ニ今日カラ看護婦ヲツケル 病勢ハヨカッタガ手ガサガルノト本人ガ遠慮スル爲メ

◆▼113ページ◆▼ 昭和13(1938)年4月17日(日)

天気晴

角平熱トナリ気分モヨク食事モ進ム 昨夜ヨリ少シ変ナコトヲシヤベリ初メル 発熱時頭ガ痛ガツタ爲メラシイ
朝八時ニ清平婚約ノ父母富田氏來ルトノコトニ大サワギデ待ツ 十時過ギ來 清平工場ヲ案内後自宅ニ來 単ニ挨拶ダケデスグ千葉へ行ク 自動車デ送ル ヨサソウナ人デアッタ 十一時頃ヨリ君子ヲ連レテ青島ノ自動車デ家内ヤ小供成田二行ク 不在中三月末ノ決算表ヲ調べ、後チ二時頃ヨリ裏庭ノ植木ヲ四本植替エ、趣キヲ替エル

▲▼114ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月18日(月)

天気晴

工場出 上京予定オクレル 奈良原氏ト同乗自動車ヲ飛バス 正午本社着 角、岩間氏ト晝食ヲ共ニス 松山町方面ニテ六万株絶対大丈夫 其他ノ三万株モ集マラナケレバ必ズ他ニ出來ル方法アリ安心シテ居テ呉レトノコトデアッタ。岡田氏小沢サンガ來テ居ルノデ一所ニ中川中將ノ處へ行ク 用件ハ將校ヲ貰フコトダトノコト 一言注意シテ居ク。航空局ニ行ク 千田サン不在 南波氏ヨリ組合組織ノ話シアリ。奈良原氏ト東京会館ニ行ク 一時間程待チ三時半頃久保田氏ト会フ 日本クラブニ行キ六時二十分頃追色々話シテ聞ク 有益デアッタガ少シツカレタ 飛行館ニ行キ桑原優作君ニ久シ振リデ会フ 夕食ヲ共ニス 後チ五階ニテ事變陸軍航空記者石尾君ト上海南京防空視察ノ某工學博士ノ講演ヲ聞ク

▲▼115ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月19日(火)

天気晴

午前中工場 角昨夜睡眠剤ヲノマセタノデ今日ハ平素ノ通りニナッタ
午後ヨリ上京 ビルノ入口デ久松氏ニ会フ 久シ振リデ一時間程話シテ帰ル
岡田、福(ママ)社長木沢氏ト本廠行キ 午後清平モ同道東京飛行機見学ニ行
五時ヒサゴニ行ク 間モナク奈良原、久保田両氏來 食事ヲ共ニシ九時過ギマテ語り合フ。最後ニ権利ヲ取ル事ヲ教ヘラル
十時半帰宅 清平居リ十二時迄話シス

▲▼116ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月20日(水)

天気晴

福西ト相談スベク七時頃電話シタガ居ラズ 奈良原氏來 十二時又電話シタガマダ帰ラズ 章氏上京ス

一時頃福西ヨリ電話アリ スグ上京 清凌亭ニ行キ福西ニ來テ貰フ スベテ奈良原氏話
ス 岡田氏ヲ呼ブトノコトニ四人デ話ス 松山出來ナイコトハ二人モ同意見デ其爲メ岡
田氏工作シテ居ルトノコト。増資ニツイテハ利益ヲ見ルコトヲ考慮シテ居ルトノコトデア
ツタ。兎三角松山問題ニカギリ二人ノ意見モ同ジデアリ富尾氏モ同様ノ由 ソレニシテ
モ柳父氏ヲ大分アテニシテ居ルノハ心細イ。日活デ忠臣蔵ヲ見テ帰ル
十時帰宅 大蔵清平ト來タ由

▲▼117ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月21日(木)

天気晴

拂下處分ヲナサシム 富尾氏出社ナク傳票ダケ作ラセテ居ク
山形ヨリ柴田氏來 安岡會フ

午後上京 二時頃東日着 大蔵ニ會フ お茶ヲノミ分レテ本社ニ行ク 五時ヒサゴ三行
ク。六時半頃協会側ノ人來 四王天氏少シオクレテ來 前年來伊藤氏ハ來ナカッタ
加治木氏ハ富尾留雄氏ノ中學時代ノ後輩デ富尾氏トハ大分深い關係デアッタラシイ
ガ三十五年振りノ會合デ大變嬉(ママン)デ居ラレタ。十時散會 帰宅 又十二時トナ
ル

▲▼118ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月22日(金)

天気晴

航空局桜井サンニ會ツテ羽田へ新ロックヒードヲ見ニ行ク予定デ自動車デ出懸ケタ處
大蔵ト局へ行ツタラ會議ガ初マツタバカリノ處デダメ 社ヲ石原大尉ニ聞クトロッキード
ハ昨日立川へ行ツタトノコト。社ニ立寄ル 新潟ニテ昨日プライマリーデ仲山四郎墜死ス
社ニ立寄ル 鷺津來テ居タ。拂下代金ヲ章氏へ届ケタ處 手續キニツキ不都合ナリトテ
本社へ届ケシメタトノコト副社長、岩間ヨリ質問アリ狀況ヲ説明ス 不快ナリ。三河屋
ニ立寄り買物シテ四時帰場 安岡鷺津、久次郎ヲ呼ビ協議 取アエズ章氏へ久次郎手
續キニツキ御詫ビニヤル

明日重役會議ニカケルトノコトデアッタ

▲▼119ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月23日(土)

天気 曇リ雨

松山町長外二十五名十時半來場 工場見学 晝食後一時帰ル 本社ヨリ皆來 章氏
一人來ラズ。マダ例ノ問題カトタ方安岡ヲ差ツカワス 松戸ノ方へ行ツタトテ不在 妻
君ノ話シデハ兄ト又ケンカシテクシヤ、スルトオコツテ居ルトノコトデアッタ

午後田中来 一日ニ飛ンデ貫ヒタイトノコトデアッタ 安岡トキメサセル
今日午後役員会開カズ福西、留雄氏スグ帰ッタ。留雄氏スグ帰ッタコトデ章氏来ナイ
ノニ何ニカアッタカモシレナイ。後子岡田、岩間両氏ト雑談ノ内ニ軍人入レルコトノ不可
ヲ論シデ居ク

▲▼120ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月24日(日)

天気 晴

思ワヌ上天氣トナル 今日ハ過日來頭ガツカレルノデ静養スルツモリノ處磯部サンガ來
ル事ニナツテ居タノデ待ツ 朝工場ニ出ル 九時頃白戸ヨリ妻君ト小川君挨拶ニ來 工
場ヲ見テ家ヘ行ク。十時頃帰ル 十一時磯部氏來 工場ヲ見セ、鈴木館ニ行ク 風呂ニ
入レ食事ヲナス 四時頃焼蛤ヲ土産ニ駆込送ル
グライダー發送ニ対スル御礼心 帰リニヒメリンゴノ盆栽ガ目ニツキ四円五十錢デ買ヒ
入レル 高クハナサソウダ
白カナリヤノメス五円デ買ツテ帰ル

▲▼121ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月25日(月)

天気 雨

雨 昨日静養出來ナカッタノデ終日自宅ニテ休ム
キミ子キミ江和子千葉へ忠臣蔵ヲ見ニ行ク

▲▼122ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月26日(火)

天気 晴

朝航空局ヘ行ク予定デ工場ヘ行ク 出カケル途中家内ニ會フ 君子スグ帰レトノ電報ガ
來タトノコト

今日ハ靖国神社ノ臨時大祭デドコモ休ミラシイノデ君子ヲ東京見物サスコトニシテ家
内、和子、君子ヲ連レタクシーニテ上京 途中章氏ヲ訪フ 昨夜帰ツテ來タトノコト
先ヅヨカッタ。 両国附近カラ増上寺泉岳寺、目黒不動、明治神宮宝物殿、繪画館、
靖国神社上野、ヲ見物 国際ゲキ場ニテ自動車ヲ帰ヘス 六時ヨリ九時迄ニ二時間映画
トレビューヲ見ル 和子一錢入レテ動ク馬ニ往帰リニ乗ル 観音堂ニ参詣 夕食後自動
車ニテ帰ル

偶然又ニコ、ノ自動車ニ乗ル。安岡ヲ浅草迄送ツテ來タトノコト

▲▼123ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月27日(水)

天気曇

安岡今日ハドウカト心配シタガ朝宅ニ立寄りヨク帰ッテ來タ。角昨夜ヨリ自宅ニテ食事ヲスル様ニナル 午後稲毛迫行ク ヨクナツタガ今月中休メトノコト
朝上京 葺氏岩君子連テ十一時本社着 日野氏來 山形ヨリ木下氏來 君子ニ歌舞(ママ)坐、日比犀谷、議會、宮城ヲ見テ東京駅ニテ晝食後清平ト共ニ見送ル。東日ヨリ協会へ中山四郎君ノ葬儀ニ参列 局ハ又會議ノ由南波氏ヨリ聞ク 行クコトヲ止メテ奈良原氏ト久保田氏ニ會フ。昭和飛行機ヲ取ツタ機械ノ件 建物ハ大森組デアト金デヤラセル件等ニツキ話シアリ 聞合セテ貰フコトニヨツテ自分ノ方針ヲ決定スルコトニ申合セ帰途本社ニ明日ノ件モアリ立寄ツタガタレモ居ラズ 帰途章氏ヲ訪ネタガマダ帰ラズトノコトニ帰宅 清平來

▲▼124ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月28日(木)

天気晴

八時工場ヲ出富尾章氏ニ立寄り上京 局ニ行ク 技術部長乗員課長不在 駒林其他モ不在 南波氏ニ會フ。カントク課ニ行キ事業法案ニ対スル、工場方針ニツキ意見ヲ聞ク 取アエズ増資書類ヲ提出スルコト。片桐事務官ニモ會ヒ口頭ニテヨク話シ南波氏ヨリ尚口添ヲ依頼ス 三十日旅行ノ由 其節話シスルトノコトデアッタ。青年團ノ篠田君ニ會ヒ飛行館迄同道。指導者ノコトヲ頼マレ久田ナラヤルコトヲ引受ケル。西山君ニ北海道ノ金ニ日ニ送金方タノム 川辺君竹崎君ニ會フ。航空本部ニ今西大佐ヲ訪問 C二型輸送方ニツキ打合セ関東軍ヨリ通知有次第知ラセルトノコトデアッタ。本廠森中佐ヲ訪問シタガ不在 中川中将ニローカデ會ヒ小沢サンニ行ツタ札ヲ述ベル。ヤハリ逋信省ト連絡スル様話シタトノコトデアッタ 渡辺君ニモ一寸會ヒ本社ニ立寄り
兄大坂ヨリ來 千足屋ニテ會ヒ商用ニテ清平宅ニ泊ル

▲▼125ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月29日(金)

天気 晴風

ヨイ天長節デアッタ

八時丁度工場ニ出式ヲ揚ゲ後チ帰宅 植木ノ植替ヲ一時間程ヤツテ後チ安岡、木下君ト羽田ニ満航ノハインケル一六型獨逸ヨリノ到着ヲ迎ヘニ行ク 三時過ギ二機無事到着 大変ナ歓迎デアッタ 兄玉サン其他ニ挨拶シテ宴ハ失禮シテスグ帰ル 船橋ニテ自動車ヲ下り第一ニヨリ見舞ヤラ悔ヲ述ベテ六時頃帰ル 兄十二時頃帰ル 話シハ不調ニシタトノコトデアッタ

▲▼126ページ▲▼ 昭和13(1938)年4月30日(土)

天気 快晴

八時過ぎ工場出 局維持奨励金願書ノ下書き四通作り清平ニ渡ス
佐野清三郎來 一週間以内二百円及百五十円送ルコトヲ約ス 式百円希望シテ居タ
山本良平君來
柴田木下君來 晝食後帰ル
奈良原氏來

午後二時過ぎ役員來 福西來ラズ 岩間大分不足ラシイ顔デ昨日岡田、留雄両氏ニ
国際銀公司手ヲ切ルコトヲ痛切ニ論難シタトノコトデアッタ。自分ニモ通信省ガ主デ日
銀ガ従ト云ツタトテ不平ヲ云ツテ居タガ後諒解ス。
會議ハ機械利用ノ件 販賣方針拡充ノ件外ニ三協議 増資ニツイテハ岩間氏ヨリ會議
以外ノ話シアリタルノミ 六時散會

▲▼127ページ▲▼ 五月

増資計畫確實性ニ努力スルコト

▲▼128ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月1日(日)

天気 晴

朝区長ヲ訪問 海岸購入ノ件ニツキ想(マ)談 区ノ返事ヲ求メテ帰ル 散髪ヲナス
伊賀男爵來 家族五六人ト共ニ奈良原氏モ來 晝食後同乗飛行ナドシテ帰ル 奈良
原氏ノ方ハ南部君ノ弟ガ來ルトノコトデアッタ 話シハ順潮ニ進行中ノ由。山口君來
晝頃ヨリ四時頃迄長々ト話シ聞ク

本廠へ電話ス 海津氏居ラズ 森中佐明日会见ヲ約ス
夜夕食後兄清平出發ス 船橋迄見送ル 海岸ノ件大島サンニ話シテ貰フコトトス

▲▼129ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月2日(月)

天気 曇リ雨

工場出 九時ヨリ上京 羽田ニ直行ス 梅津氏ツヒニ來ラズ 日空ト打合せ 取りニ行
ツテモヨイコトニキメ運賃ハ本社デ打合せスルコトナル 朝日ニテ巻取りノ切断機ノス
ケツチヲナシ日本飛行學校ノ練習機ヲ見ル 工作ハ成テ居ナカッタ。木村氏ニ會フ氏
ノ自動車ニ同乗シテ大森ヨリ京浜ニテ有楽町迄本廠ニ行キ森中佐ニ會フ。シユワルツノ
話ヲシタガ先ヅ見込ミナイダロウトノコトデアッタ 其他ハイクラ話シテモ結局ハ工場ガ
出來上ラネバ仕様ガナイコトニ帰着スルノデ深クハ話サナカッタ 梅津氏ニ會見 コゝデ

モイツ引取ツテモヨイコトニ話シラキメテ、本社ニ帰ル
天王寺谷ニ羽田ニテ會フ 奉天へ工場ヲ置イタラトノコトデアッタ。部品工場トシテ有
望ノ由 尚同君ノ特許品製作ノ件モアッタ。本社ニテ其話シラナシ 皆飛ビツイテ嬉(マ
マ)ンダガ自分カラ今少シ研究スルカラト云ツテ居ク

▲▼130ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月3日(火)

天気 曇雨

八時工場出 設計部督励ス 章氏ト懇談

午後一時半ヨリ上京 本社ニ立寄り三時前局ニ清平ト會フ 南波氏ト懇談後本省へ行
ク 場長會議ノ終ルヲ待ツ 石橋航空官ニ會ヒ六時正午航空本部へ迎へ二行クコトニ約
束ス。浜名氏ニモ會フ 五時佐倉氏約束ス。カーテンノ不足ヲ買ヒ浅草カラ押上ニ出テ
京城(ママ)デ帰ル 七時半ノ自動車ニ間ニ合フ

▲▼131ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月4日(水)

天気 曇リ

八時半工場出 安岡昨夜木下へ行クトテ上京 帰ラズ 木工部職人不隠(ママ)ノ兆ア
ル時無積(ママ)任ナリ

十一時出 天王寺谷ヲ満空ニ尋ネ○屋ヤ婦人ト共ニ同道ス 四時迄食事ヲ共ニシ満州
進出ニツキ彼レノ意見ヲ聞ク 予算十万乃至二十万トシテ部品ハ現在五六万外注シ
ツナル由 月三万ハ必ず取り得ル由。寺谷ガ將來ノ自分ノ安定ノ爲メ努力スルトノコ
トデアッタ 即チコチラノメンバートシテ満空ニアト五年程在任 軍ト満空固定ノ連絡
ニ當ルトノコトデアッタ。人物ハ過已ニ於テ面白クナイガ自カラ年モ年ダカラ眞面目ニ
ヤルト云ツテ居タ 勿論自分ニ対シテハ過已ニ於テモ何等問題ハナク好意アル交際デア
ッタ。六日更ニ會見ヲ約シテ分レル
五時帰宅後松ノ植込ミヲナス

▲▼132ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月5日(木)

天気 曇リ

午前中工場 奈良原氏來 十一時ヨリ上京 本社ニヨル 章氏金取りニ行ツテ居テ今
月ノ支拂千五百円ダケシカ呉レナイトテ頭ヲヒネテ居ラレタ。岩間、南、鷺津兄ト晝
食ヲ共ニシ一人航空局ニ行ク 監督課事務官ニ會ヒ書類ヲ提出 口頭デ尚ヨク依頼ス
課長不在。乗員課長ニ會フ 鈴木ノ方ハアレデオシマイトノコトデアッタ 山口ノ事ハア
トデ返事スルトノコト 要スルニスベテノ民間ハ十五年迄ノ寿命デアルトノコト 修理ノ

事ヲ聞ク 軍ノ機体ダカラ支廠デヤラセルコトニナルダロウトノ石原航空官ノ話シデア
ツタ
井上サンニ無尾ノ件手数上ノ件諒解ヲ得 甲乙種ニツイテハ制限付甲種デ御願ヒシテ
居ク 明日返事スルトノコトデアッタ。東日ニヨリ電話デ清平ト連絡シ出田ニ行ク 協
会ノ願書マダ終ツテ居ラナイトノコトデアッタ

◆◆133ページ◆◆ 昭和13(1938)年5月6日(金)

天気 曇リ

八時工場出 諸般ノ打合せ後十一時ヨリ上京 本社ニヨル 天王寺ト三時會フ約ヲナ
シ奈良原岩間氏ト安田氏母堂ノ告別式ニ行ク 花環ノ数ノ多イノニ驚イタ
岡田氏ヨリ増資問題ニツキ岩間氏ノ案ニヨリ話シアリ 又大久保氏ノ方ガ百万トナツ
テ居タ 之レハ自信ノナイ証コトモ見ラレル ツイテハ一百万位現重役ノ収入トナルベク方
針ヲ講ジルトノコトデアッタ ソレニ誰レガ見テモ合理的ナ方法ヲト希望シテ居ク
三時飛行館ニ行ク 天王寺谷ニ會ヒ調査事項ヲ依頼ス 運動費ヲ要スル場合電報ヲ打
ツカラトノコトデアッタ 之レハ昨日カラ金ガアレバ五十カヤリタカッタノダガ出來ナ
イコトハ残念デアッタ 今後ノ氏ノ会社ニ対シテ任関(ママ)ヲ考慮シテ呉レ一切マカセル
トノ話シモアッタ 川辺君居リ拂下ヲヤリタイトノコトデ同君ノコトモ考テヤツテ呉レ
トノ天王寺ノ話。安藤孝ニ會フ 石橋航空官ニモ會ヒ明日正午ヲ約ス 四王天中将ト
モ二十分程話シス
局ニ行ク 吉原ニ會ヒタンバツク二十台分讓テ受ケル 一ヶ三十銭。甲斐サン大場サンモ
會フ

◆◆134ページ◆◆ 昭和13(1938)年5月7日(土)

天気 雨曇リ

八時前工場出 九時ヨリ上京 局ニ行ク 監督課長ニ會フ 温ナシイヨイ人デアッタ
色々事業法案ニツキ教ヘテ呉レタシスデニ会社ノ増資案モ見テ居タ イヅレ技術部トモ
想(ママ)談スルトノコトデアッタ。ヨク依頼シテ技術部長ニ面會ヲ求メタ處アイニク來客
中デ一寸待ツテ呉レトノコトデアッタガ時間ガナイノデ更ニ來ルコトトシテ南波氏ニ會
フ 大庭氏モ行クトノコトニ本社ニヨル 商工省デハ百十二万五千円全額拂込ミニセヨ
トノコトデアッタ由。ソレハ絶対ニ五百万円ヲ必要トスル旨ヲ強調シテ居ク 時間ガナイ
ノデスグ飛行館ニ石橋サンヲ待ツ 二十分程デ來 局ニヨリ南波大庭、青森ノ飯塚氏
モ同道ヒサゴニ行キ晝食 清平先キニヤツテ居イタニモカ、ワラズ二時迄待タサレ其爲メ
石橋氏ハツヒニ津田沼ニ行ケズ残念 三時ヒサゴヲ出テ工場三時四十五分着
KHIC内容検査ヲ終リAニモ進メルコトノ諒解ヲ得テ五時半工場ヲ出安岡道行、玉

宮サンノ獨逸ヨリ帰朝歓迎会ニ行ク 今日ノ一日ハ最モ有効デ愉快デアッタ 石橋サン
ダケガ残念デアッタ 少シツカレタ

◆▼135ページ◆▼ 昭和13(1938)年5月8日(日)

天気 雨

七時過ぎ起床 九時工場出 信太郎友人塚本君來 徳次宅へ帰ス
弘中君へ発動機ノ礼ト不足部品、満州進出ノ意見ヲ聞ク長文ノ手紙ヲ出ス。佐渡島へ
モ見舞手紙出ス。今日ハ在工場ノ予定ノ處、縣庁ノ松木氏外銚商、館中、師範ノ先生
等來 午後島村ニテ夕食ヲ提シ奈良原氏島モ列席 グライダー坐談会ニ終ル 今日ハ
少々ツカレタノデ夜早く床ニ入ル 明日活動ノ準備ノ爲メ

◆▼136ページ◆▼ 昭和13(1938)年5月9日(月)

天気 晴

六時起床 久シ振リノ好晴ニ氣持チヨカッタ
八時出九時航空局着 玉宮駒林両氏ニ會ヒ増資ノ件懇談ス 玉宮氏ハマダ内地ノ状況
ガヨク分ラナカッタガ駒林氏カラヤ、クワシク話シアリ局ノ方針モホゞ分ル 技術課長ニ
一寸會フ 初メテデアッタガ感ジハヨカッタ 來客多クスグ辭シテ南波氏ニ會ヒ試験所ニ
行キ佐々木航空官ニ會フ。氏ハ増資問題ヨロコバズ 相羽モンシナ話シガアッタガ合同シ
タ方ガヨカロウトノコトデアッタ 練習機ノ修理ハ賛成シテ居タ 村田氏ニ會ヒ検査ノコ
トヲタノミ本社ニ帰ル。正午過ぎ岩間日銀ヨリ帰り様子ヲ聞ク 商工省法政課長ハ三
百万円位ニシテハトノコトデアッタソウダガ事務官ガ百万円位ヲユヅラナイラシイトノ
コト 大蔵省ハ課長事務官不在デア要領ヲ得ナカッタトノコトデアッタ

商工場(ママ)ニ南氏岩間ト同道 事務官ニ會フ 殊(ママ)ンド命令的デ百五十万円ニ
セヨトノコトデアッタガ色々話シノ末ソレデハ旧株共三百万円迄認メルトノコトデアッタ
ガ決定ヲ保留シテ帰ル。陸軍省ニ大久保中佐訪問シタガ不在。自分一人久保田氏ニ
會フ 機械ト云フノハ東京辨器製作所ノモノデ新ラシク輸入シタノハ十八台 アトハ古
イモノデ使用中ノモノ 合計四十九万円バカリデ賣ルカドウカモ分ラナイガ一應聞イ
テ貰フコトトス。本社ニヨル タレモ居ラズ 福(ママ)社長ニ一寸話シス 山東ヨリ人事問
題ニツキ又新ラシク入レルラシイトノコトデアッタ 支拂ヒ等モ聞ク

◆▼137ページ◆▼ 昭和13(1938)年5月10日(火)

天気 晴

時事 航研長巨離機今朝五時木更津飛行場出發ス

七時半工場出 八時十分前工場出上京 九時十分前本社着 岩間、南氏ト航空局ニ
行ク 監督課長ト器材課長玉宮駒林氏ニ會フ 駒林氏ハ大変ヨカッタガ玉宮氏ハ僕ノ
爲メニ心配シテ呉レタコトガ南君等ニヨクナカッタ 監督課長ノ印象モ彼レ等ニヨクナ
カッタラシイガスベテハ自分ノ爲メニ考ヘテ呉レテ居ルコトデアッタ。午後南氏商工省ノ
佐枝事務官ニ會ヒ昨日ノ通り二百万円デヤレト云ワレテ來タトノコトデアッタ。社ハソ
レデ進ムコトニ一決ス

今日重役全部集マル。章氏ヨリ会社引續キノ時ノ六万円ノ處置方ニツキ提案アリ 營
業權トセヨトノ意見ガ多カッタガ決極(ママ)田山氏ノ意見ヲ聞クコトトナッタガ十四日
迄名古屋へ旅行中トノコトデアッタ。清平ト北島氏ニ會ヒ三行ク 一時半程話シ合ツテ
帰ル。明日又商工省へ挨拶ニ行ツテ呉レトノコトデアッタ 工場モ氣ニナツタガ午前中ニ
スマセルコトニス

◆▼1388ページ◆▼ 昭和13(1938)年5月11日(水)

天気 晴

五時起床 安岡佐藤一三デ小名浜へ出張ニツキ七時工場出 補助金ノ委任状ヲ貰ワ
セルコトニシテ出發サセル

八時半出 九時半本社着 秋田サンニ行ク 不在 福西へ電話スル 今日午後工場へ野
呂氏ヲ同道スルトノコトデアッタ 岩間南ト商工省へ行ク 佐枝氏多忙ノ爲メ面會出
來ズ。スグ自分ハ局へ行ク 他ハ松山へ出張 駒林氏ニ面會 雑談ノ中ニ増資問題ヲ諒解
セシム 渡辺一英ニ會フ 六月五日ノ件局長ニ會ツタラ公務差支ナキ限り行クトノコト
デアッタ由 南波氏ニ會ヒ関西カラ五十円價上相談アッタトノコトヲ話ス 清水録ヲ呼
ビ上野ノ丸万デ晝食後帰場 二時 福西、塚本野口三氏來 野口氏ノ慶應ノ友人三
井某(三井家)ガ出資シタイトノコトノ由 明日會見トノコトニ依頼スルコトニス。福西照
(ママ)介ノ中村某明日ヨリ來ルトノコトデアッタ

◆▼1399ページ◆▼ 昭和13(1938)年5月12日(木)

天気 晴

昨夜七時半床ニ入り今朝七時起床

終日在所 章氏午後上京

安岡佐藤午前中小名浜ヨリ帰ル コツクガ全開ニナラナカッタダケノ故障。奨励金ハ呉
レルコトニナッタ由

手紙五六通ヲ書ク

午後明日昨年度ノ決算報告書ヲ調査ノ爲メ稅務署ヨリ來ル由。其準備ヲノ爲メ内訳
表ヲ作ツテ居ク 萱場四郎外二名技師來

夜墓地用般若心経ヲ写経ス。

北海グライダー協会ノ三機ノ内式機トゴム分四百五十円補助金ヲ受取ル 内百円佐野清ヘ電送ス。今村ヘ三十円渡ス

◆◆140ページ◆◆ 昭和13(1938)年5月13日(金)

天気 晴

時事 航研機三度飛ブ 午前四時五十五分木更津飛行場出発

六時十五分前起床七時工場出

安岡又東京ヨリ電話アリ出ズ 昨日今日税務署カラ來ルコトヲ云ツテアルノニ困ツタヤツダ

十一時頃岩間君ヨリ電話アリ 通信省ノ爲メ増資認可出ナイト中々ノハゲシイ言葉デアツタ。兎三角上京 一時半局二行ツテ見ル 玉宮氏ニ会フ 丁度工場ノ増資案ガタイプニ打ツテ居イテアツタ 松山町ノ出資デハ不讚(ママ)成ダトノコトニ他ニ有力出資ノアル事ヲ話シタガ諒解ヲ得ルニ到ラナカッタ 監督課ニ行ク 丁度事業法案ノ会議デタレモ居ラズ第二監督課長ニ會フ 事務官ト話シタガマダ決定ヲ見ナイラシイ 明朝來テ見タラトノコトデ名刺ヲ置イテ事ム所ニ行ク 岡田氏ヨリノ話シニ野口氏ニ昨夜會ツタ由 月曜日三井辨蔵氏工場見ニ來ル由 其上ニテ決定方針ヲ立テルコトニ決ス 後福西モ來 ムシロ通信省ヲ許可シテ呉レナイコトヲ祈ルトノコトデアッタノデ明朝局ヘ行クコトヲ中止ス。七時半帰宅

◆◆141ページ◆◆ 昭和13(1938)年5月14日(土)

天気 晴

時事 航研機好調ニ飛行ヲ續ク

五時半起床 章氏來場 増資問題懇談

十時ヨリ利根川君自動車デ上京 奈良原氏同道十一時半東京会館ニツク 十二時半久保田氏來 晝食ヲ共ニス 要ハ岡崎ヘ話スルニツキコンドハ眞険(ママ)ニナルノデ増資準備委員トデモ云フ委任状ノ様ナモノヲホシイトノコトデアツタ 最モト思ワレルノデ議員ニ計ツテ火曜日ニ返事スルコトトス 二時東日ニ行ク 明朝航研機ノ活動ヲ取りタイトノコトデアッタノデ色々相談ノ上作業ノサルヲ借りルコトニス スグ帰宅 安岡トモ打合せル

夜帰宅スルト電話ト電報デアスノ飛行取止メルトノコトガ來テ居タ ナンノコトダ。夜

又工場ニ行キ作業ヲ取消ス

太神宮ノ宮司來

教練ノ先生キマル

▲▼142ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月15日(日)

天気 晴

時事 航研機午後三時五分ツヒニ世界記録ヲ破リ尚快翔中

七時起床 サンパツ後朝食 工場二行ク 十時帰宅

清平午後重細亜ノ五周年ト駒林氏宅ヘヤル

午後池田某元千葉ニ居タ写真屋工場へ來 又行ツテ會フ

今日ハツカレテ午前午後三十分程ヅ、横ニナル 増資対策ニツキ考へ様ト思ツタガ出來
ナカッタ 特ニ静養ス

▲▼143ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月16日(月)

天気 曇リ

時事 航研機昨夜七時二十一分廿九周シテ着陸 時間六十二時間余 巨離一万六
千余キロ

朝航研機ニ対シ祝電ヲ發ス

塚本八時頃來 三井氏今日來ラレナクナッタトノコトデアッタ 章氏出社後福西ニ行

ク 岡田氏ニモ來テ貰フ 久保田氏ノ話ヲナス 久保田氏ノ信用問題ニツキ岡田氏ハ自

分ト同一ノ意見ヲハイテ居タ 結局明日ノ返事ヲ一週間程延期スルコトニス。カタワラ

三井ノ方ヲ動行(ママ)ヲ見ルコトトス 野口塚本來 明日ノ三井重役會議來ル日ヲキ

メルトノコトデアッタ

山東君工場へ行ツタトノコト三時半工場 居ラナカッタガ丁度稅務署ガ來テ歸ツタバ
リ(ママ)ダトノコトデアッタ。尚若干内訳ヲ呈出スルコトトナル

近藤正夫ノ父來 軸ヲ一本賣付ケラル 十五円寄附シタツモリデア買フ

夕方山崎氏來 十時過ギ歸ル

数日來頭ガハッキリセズツカレヲ覺エル

▲▼144ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月17日(火)

天気 曇小雨

八時前工場出 終日ウインチノ切断器ノ圖面ヲ作ル

夕方福西ヨリ電話アリ 六時半迄ニ上野へ來テ呉レトノコトニ五時終業後章氏ト上京

六時二十分清凌亭ニ入ル 間モナク岡田、留雄両氏、福西、塚本、野口來 野口氏ヨ

リ今日三井弁藏氏ニ會フタ結果工場方針トシテ部品ノ製作ト操縦士ノ養生ヲヤツテハ

ドウカトノコトデアッタ由 モーツハ古クカラヤツテ中島ヨリ遅レタ理由ヲ聞キタイトノ

コトデアッタノデ他重役ノ諒解ノ下二部品製作ノ必然ナルコト 操縦士養生ハ航空局ノ方針ヲ話ス。拾時頃散会 十二時二十分船橋着 帰ル途中電車デ作業ノ妻君ニ會フ

▲▼145ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月18日(水)

天気 雨

終日雨

奈良原氏來場 青年學校學科担任ヲ定メ來週ヨリ初メルコトニ發表ス
夕方清平大坂ノ生田連レテ來ル 明日正午會見ノコトニキメル

▲▼146ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月19日(木)

天気 曇リ雨

章氏出張後十時ヨリ上京 本社ニ立寄り航空局ニ行ク 駒林氏ト部品製作ニツキ懇談ス 永渕氏 禰徳留氏ト挨拶ニ來局セルニ會フ

正午清平、生田氏、吉原氏、來 南波氏會議ノ爲メ會合ヲ夕方ニシ。パノンスニテ晝食ヲ取リツヒデニ組合ノ取キメヲナシ、タイプライターニ打タセニヤル。東日ニ行キ時間ツブシヲナス。五時半東京駅ニテ落合ヒ清凌亭ニ行キ十時迄會談 南波氏ニ組合ノ規約ト値上ゲ表ヲ見セ六月号雜誌デ發表スルコトトナル 尚南波氏ノ台湾行ニ対シ餞別トシテ金貳百円ニ相當スル写真機ヲ贈ルコトトシ目錄ダケ贈呈ス

▲▼147ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月20日(金)

天気 晴

久シ振りニ上天氣トナル 夕方ヨリ又曇リ夜雨トナル

奈良原氏來場

安岡クラブ專念シタシトノ希望アリ今日瓦斯電へ行ク 弟ニ高砂ノ軸ヲ祝ニ持タセテヤル

夜清平來

昨日寺谷君ヨリ手紙來 今日弘中ヨリ來ル 満州ノ事情ヤハハカル

▲▼148ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月21日(土)

天気 曇リ

終日在所 イツ行クガダシヌケニ行クカモ知レヌト云フノデ當分ドコニモ出ラレナイ 章氏午後佐野中将へ行ク

弘中へ手紙出ス 朝鮮ノ慎カラ電話アリ 明日遊ビニ來ル様云フ
夜阿彌陀経ヲ書ク
清平一日寢テ夕方起キル ダラシノナイ奴ダ

◆▼149ページ◆▼ 昭和13(1938)年5月22日(日)

天気 曇リ

來客高見氏父子汐汗(ママ)ニ 拡張記念トシテ家内ト自分ノ湯吞ヲ貰フ 楠公訣別ノ
辭ノ額貰フ 奈良原氏ト二十円寄附
夜鳥飼氏引越シテ來ル 元安岡ノ居タ處 ダシヌケデ驚イタ 高橋君ノトラックデ來
タ以上仕方ガナイ 何ントカセネバナルマイ
章氏明日本社へ行ク由 自分立替金式百七十円余ヲ請求シテ貰フコトトス クラブニ
テ瓦斯電ノ三式五百円デ買エル爲メ
夜写経 阿彌陀経第二回 九時半就床

◆▼150ページ◆▼ 昭和13(1938)年5月23日(月)

天気 曇雨

朝福西ニ電話スル 今日野口ニ又會フトノコト 夕方本社へ出ル由 満州ノ話シモアルノ
デ會フ約束ス 夕方上京シタガ福西會エズ、岡田氏ニタノム 章氏僕ノ金持ツテ帰ツタ
由 ビルノ空屋一ツ小サイノヲ今日カラ借りテアツタ。廿八日ノ支拂三千円バカリ不
足ノ由 之レニツキ岩間一万円程借りニ歩イテ居ルトノコト 五時約束ニヨリ帝国ホテ
ルニ慎ト會フ 瓦斯電ノ井上亜細亜ノ山田三モ會フ。萩原ガイケナイ事ト一四式発動
機井上へ送ルコトノ話シデアツタ。六時新橋ノ宇喜代茶屋ニ行ク。待ツコト少時篠塚浮
谷両氏來 渡辺ノ挨拶アリ。歓談二時間程 九時三十分分レル 終始篠塚ノ大キナ話
バカリデ国家本位ヲ振り廻シテ居タ。今エタパイガ影(ママ)氣ガヨイカラ中々元氣ダ。
大ニ参考ニハナツタ

◆▼151ページ◆▼ 昭和13(1938)年5月24日(火)

天気 晴

來客 山形柴田氏、武崎氏、野口君グライダー雑誌ニ三月分分五十円出シテ呉レトノ
コトニ忝十円ダケ内渡ス
検査官金井氏來場 四時頃ヨリC五型飛バス 成績良シ
縣ヨリ松木氏見學ニ來場
木製半金属プロペラ研究開始

夜阿彌陀經全部書終ル

▲▼152ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月25日(水)

天気 曇リ

朝寒カッタガ夜ハ熱カニナル

九時四十分福西着 野口ノ話ヲ聞ク マダ何ントモ分ラナイラシイ 廿八日ノ支拂ヒニツキ念ヲ押ス 福西自分デ都合スルトノコトデアッタ。急イデ本社ニ行ク 高見氏父子デ來テ居タ スグ局ヘ行ツタガ南波氏石原氏不在 協会ニ行 協会モ航研機ノ標賞(マ)式デ不在 三時トキメテ分レ日野サンノ見舞ニ行ク 病院ハ昨日退院シタトノコトニ自宅ヘ行ク 赤松トカ云フ老人ガ居ラレタ ライトノ飛行ヲ最初ニ見タ人デ軍ヘノ報告ニ初メテ飛行機ノ文字ヲ用ヒタトノコトデアッタ 日野氏手紙デヤカマシイ様ナコトガ書イテアッタガ何ンノ話シモナク帰ル。協会ノ井上小野両少将ニ招会(ママ)ス。出田ノ金吉原ノニ出テ内ノニハ出ナイトノコト 小野サンニ一機ダケデモト頼ンデ居ク。本社ニ帰ル 局ヨリ会社ノイロ、ナ資料ヲ出セト云ツテ來タトノコトデ打合セシテ七時半ノ乗合デ帰宅

▲▼153ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月26日(木)

天気 晴

章氏上京

終日プロ。ヘラ研究 先ヅ金鋼ト木材ノ膠着、ボスノ設計

岩間、南波氏黒田某ヲ連レテ來場

青木浜松高工ノ學生連レテ來場

今日教練ノ先生又來ラス

夜早く寝ル

宅へ午後高山來タ由

▲▼154ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月27日(金)

天気 晴

朝増資問題ニツキ考慮 松山、三井共ニ不調ノ場合久保田氏ニ頼ル外ナシト考ヘタノデ東京会館デ会フノハウルサイノデ朝ノ内自宅訪問ヲナスコトトシ奈良原氏宅ニ行キ同道シテ十時過ギツク 先客アリ少時待ツ。自分ノ心境ヲ述ベ同意ヲ得ル 先般話シノ委任状ハ出來ナイコトヲ話シ目下交渉中ノ機械ニツキ依頼状ヲ出スコトトシテ帰ル 帰途局ニヨリ南波氏ニ会フ 千田大佐ニ山口君ノコト聞ク 山口ハ何ントカシテヤルガ學

校ハ自然ニマカセル外ナシトノコトデアッタ。器材課長ニ會ツテ會議ノ模様ヲ聞キニ行ツタガ監督課長ト話中デ引上ゲ本社ニヨリスグ帰場 二時半。久保田氏ノ手紙雜用デ忘レル

大坂兄ヨリ南波氏又分土地ノ事デ明朝行クトノ入電アリ 之レハ局ノ南波氏ヨリモ話シアッタ

▲▼155ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月28日(土)

天気 晴

今日ノ給料日一時頃章氏本社ヨリ來 スベテヲ差引イタ支拂高ダケ持参 賄其他一切支拂不能。三十一日ニ重役会ヲ開キタイトノコト

南波氏來場 時間ウマク行カズ手違ヒシタガ兎ニ角土地ヲ案内シテ鈴木館ニ少休 相談シテ居クトテ帰ル 惠美氏來 中島航空官ノ手紙ヲ持参 安岡貸シテ呉レトノコトデアッタ 月曜日返事スルコトトス

第一ニヨリ山口ト打合セタ方鈴木館ニ妻君ヲ呼び學校閉園ノ止ムナキ事情ヲ話シ善後策ニツキ協議ス 結局ニ山口縣ヘ引コモル外ナキコトニ歸結ス

▲▼156ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月29日(日)

天気 晴

時事 學生航空聯盟ニ片岡前局長會長ニ推戴式

朝曇リ予報モ後チ雨トアッタノデ傘ヲ持ツテ出タガ天気ハヨクナッタ 羽田ニ直行ス 輸送会ニ過日ノ發動機ノ件挨拶ニ立寄ル 丁度知人ニ會ヒ新シイロックヒードヲ見ル 巡航三百八十キロ出ルトノコトデアッタ ライトノ千馬力式台付 全金属胴体ノ割ニ羽根ガ小サカッタ 乗客十四人ノ由

十時十分前朝日ニ行ク 片岡前局長ノ外控室ニ山田大佐飛行場長福士氏加治木氏等アリ 間モナク式初マル 學生約二百五十名 式後學生ノ飛行アリ 終ツテ茶ノ會ニ入ル 丁度中尾監督課長ガ局長代理デ來テ居タノデ会社ノ事デ礼ヲ述ベル 一寸部品ニツイテ話シアリタリ。終ツテ渡辺ニツカマル 同道シテ飛行館ニ歸ル 篠塚ノ話シトテ僕ニ入用ナラ一万円位イツデモ用立ルカラトノコトデアッタ由

駒林氏ニ電話シタガ丁度外出サレタアトダッタノデスグ帰宅 途次奈良原サンニヨル 津田沼ヘ行ツタトノコト スグ工場ニ出ル。久保田氏早速前方重役ト會見ノ結果機械ハ現品出資トシテ株デ貰ヒタイトノコトノ由 話ハマコトニ順潮デアアル 明日會フコトトス

▲▼157ページ▲▼ 昭和13(1938)年5月30日(月)

天気 曇り晴風アリ

今日ハ急(ママ)ガシカッタ 朝起キルト小林区長來 昨日先方ヨリ全部買イタイトノ話シアリシモ半分當方へ譲ルコトニシタ ツイテハ全体二万二千五百円ノ内一万円ヲ買ツテ呉レトノコト 高イガ交渉ノ余地ヲ残シテ南波氏ニ相談 親父今朝十時ノ汽車デ帰ッタ由 スグ速達ヲ出ストノコト 尚條件トシテ増資ノ場合一ヶ年以内二万五千円デ買戻ス約束シテモヨイ旨ヲ述ベル 金六イツデモ東京デ間ニ合フ由。

玉宮氏ニ會フ 空氣宜シカラズ。片桐事務官ニヨバレル 十万円ノ会社ヲ四十万円ニ見タ増資ノ理由ト内訳ヲ出セトノコトデアッタ。中島航空官モ安岡貸ス件後■ニキメタコトヲ述ベテ諒解ヲ得。井上四郎閣下妻君ノ老母葬儀ニ列ス。

久保田氏ニ會フ 福西ト会見シテ貰フコトヲ打合ス 東日ニヨル 大蔵ニ會フ 一三式スグニモ持ツテ行ツテヨイトノコトデアッタ 自動車ノ都合トシテ福西ニ行ク 土地ノ件、久保田氏機械ノ件ヲ話シテ帰ル 八時半区長カラ來テ呉レトノコトニスグ行 今日町ノモノ會合ノ結果工場ノ方モ埋立テ貰ヒタイトノコト希望 イツレ埋ルコトニ承認ス。處ガ値段ガコチラノ方が一万式千五百円ダトノコトニ驚ク。明朝先方ノモノト町長ノ宅デ會フ由 同道シテ呉レトノコトデアッタ

夜清平來 局提出書類作製ノ爲メ 十二時迄カ、ル

◆▼1588ページ◆▼ 昭和13(1938)年5月31日(火)

天気 晴

朝区長來ラズ 工場ヨリ町長宅ニ電話スル 広瀬出テ來ル 値段ヲ出來ルダケ安クスルコトヲ交渉 アトハ安岡ト鈴木ニタノミ上京ス 本社ニテ通信省書類マダ出來ナイコトニツキ岩間大声ニサワギシモ結局慎重ヲ期スルコトトサセル 福西、岡田、留雄、章、岩間、清平出席 岡田氏ヨリ會計状態ノ説明アリ 五日ノ支拂延期ノ止ムナキ旨ヲ述ベル 之レニ対シ章氏自分ヨリ材料屋ノ支拂ヒダケハナス、ベキコト 財源トシテ青年團萱場ノモノヲ當テルコトトシ、金融ヲ依頼ス

◆▼1600ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月1日(水)

天気 曇り後晴 三十一度

本日ハ暑カッタ

午前中工場 一時頃ヨリ奈良原氏ト上京 事ム所ニテ局提出書類ノ下書ヲ作ル。五時ニナル 福西來 清凌亭ニ行ク 自分ハ東京會館ニ久保田氏ヲ迎ヘニ行ク 七時半散會 福西モヨク分ツタラシク奈良原氏ニ福西氏ニ先キニ相談シタコトヲ嬉(ママ)ンデ居タトノコトデアッタ

協会ノ金這入り役員ノ報酬支拂ヒヲナス

◆▼161ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月2日(木)

天気 晴

午前工場

朝区長訪問 一万式千五百円承認ノ旨返事ス 向八四日ニ登記スル由 コチラハ來週中
取引ノコトニシテ居ケ

散髪ヲナス 鈴木菊雄來 土地ノコトデ自分ノ方ノコトガ氣ニナツタノデアロウ。関保
俟(ママ)屋來

正午ヨリ上京 本社ニヨリ局提出書類點檢 一ヶ所直ス 二時日産館ニ荒蒔閣下訪問
満州進出ニツキ部品ノ下請ヲ相談スルトソレハ大變結構ダ 最(ママ)非ヤツテ呉レトノコ
トデアツタ。アイスクリームノ馳走ニナリイロ、話シヲ聞イテ四時帰宅 高山來タガス
グ帰ツタトノコト ユツクリ小松ナド植替ナス 夜モ早ク床ニ入ル

◆▼162ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月3日(金)

天気 晴

午前中工場 正午過ぎ章氏ト重役会ニ出ル 三時半福西來 漸ク開催 五千円ダケ
金融出來五日ノ支拂ヒニ當テラレトノコトデアツタ 右ニ対シ手形發行ノ件ヲ承認ス。
機械ノ件全部ニ話ス。今朝岡田清平岩間三人ニテ片桐事務官ニ面會 書類提出シタ
由 片桐氏ノ伊藤工場ニ対スル認識不足甚ダシイトノコトデアツタ ヨツテ五日長官以
下來場セラレルノニ重役皆來ルコトニス 工場モ休日ナレドモ作業サセルコトニ決ス
木村氏ニ會フ 小林氏給百五十円ニテ八月ヨリ來ルコト 六月中ハ暇ダカラ一週何回
カ行ツテモヨイトノコト 之レハ旅費日當ヲ出スコトトス 外ニ二名検査エヲ引取ツテ貫
ヒタイトノコトデアツタ

◆▼163ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月4日(土)

天気 晴風

終日在所 銚高名命式章氏モ行ク 六時頃各機無事歸ル

終日自室ニテ各部長ヲ呼ビ昇給者ノ率ヲ決定 山口來 見習センバン工ノ件 アンリオ
整備ノ件依頼ヲ受ケル。中來 就職ノ依頼 田母沢氏來 千葉中グライダー寄附ノ
件。

宇賀ニ明日ノ準備ヤラセル 然ルニ、カンジンノ衝立風ノ爲メニコワサレ明日ニ間ニ合ワヌ
トノコト 幕張ノ方買入レ成功 安心ス

大坂ノ兄ト姉ニ來ル様打電シタガ丁度其アトへ手紙デ行ケナイカラトテ津ノ潮ノ岩コ

ンヲ送ツタトノコト

明日家内ガ八柱へ見ニ行ツタガ何ニモ出来テ居ナイトノコトニ高山へ電報ニテ間ニ合フカ
今夜カ明朝來ル様打電ス

◆▼164ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月5日(日)

天気晴

野武士会ニテ一日終ル 局長監理部長、乗員航空両課長共來 盛会デアッタ 各重役
モ來 渡辺ノ令嬢アカエニ、ササレ醫者ヲ呼ブ 帰リハ自動車デ送ル 各會員ニオ土産ト
シテグライダー模型ヲ出シ、予(ママ)興ニソアラノ曳航ト曲技ヲ見セル。料理ノ準備
ガ悪ルカッタガ外ノモノデ埋メ合セ出來ル。六時頃終ル クラブへ招イタ木下飛行士着
任ス

高山來 明日明後日ノ打合セヲナス

◆▼165ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月6日(月)

天気晴

終日在宅 明日ト今夜ノ準備ヲナス

來客 富野某元七氏ノ孫來 三和銀行ニツトメテ居ル由 晝食ヲ出ス 大森ビルヲ三
万円ダケデ買取レルトノコト 至急返事ヲ乞フトノコトデアッタ

七時過ギ善照寺二人高山來 八時十分前ヨリ讀經五十分間 終ツテトギヲ出ス 安

岡外旧部長全部 鳥飼、鈴木、山口、來

縣君母堂下妹來 飛行機ニ乗ル

富尾章、岡田両氏來 明日ノ支拂コチラ五百円シカナイトノコト クラブヨリ五百円
出ス

◆▼166ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月7日(火)

天気晴

五時起床 工場員へノ供養其他ヲ命ジ九時十分自動車ニテ出ル 奈良原氏昨夜中沢
氏ニ泊リ寺へ先キニ行カレテ居タ 思ガケナク川辺君來 佛前ノ經ヲ終リ十一時予定
通リ出發 自動車三台八柱着 ホトンド出來テ居タ 五輪塔ノ形モヨカッタ 埋葬手
續キニ手間取り納メ終ツタノガ一時過ギニナル

信太郎、満、照子永イ間カワイソウニ。ドウカ安ラカニ眠ツテ呉レ 五輪塔ノ裏ニ父母
ノ爲メノ阿彌陀經ヲ納メル 永年ノ重荷ガ降りタ氣持チ

一時半重野屋ニツキトギヲ出シ四時頃終リ寺ハ自動車デ送り自分等ハ電車デ帰ル

夜七時半頃ニ眠クテスグ床ニ入ル ツカレタラシイ

◆▼167ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月8日(水)

天気 曇リ小雨

今朝ハユックリス 頭ノ工合モ非常ヨカッタ 墓ガ出来タ一安心ト昨夜ヨク寝タ爲メ 朝保俣(ママ)屋醫者モ連レテ來ル 身体検査ヲ受ク 異状ナイトノコトデアッタ 十時出社 事務ヲ見十二時ヨリ富尾氏ト上京

三時半漸ク福西來 會議 岡田ヨリ五日支拂漸ク曲リナリニ終ツタコトヲ報告アリ 岩間ヨリ、局ノ中尾氏トノ会見ノ決(ママ)果部品ノ受注先キ予定等ヲ書イテ出ス様云 ワレタトノコト 又岡田氏ヨリ部品ニヨリ収支予算ヲ作ツテ呉レトノコトデアッタ。差當 リ下請スベキ工場ニ決定スル必要アリ 成可速カニ方針ヲ建テルコトシテ散会ス グライダーニツイテハ全役員非(ママ)歎論アリ 猫ノ眼ノ様ニ方針ヲ変エル人々ダ コレハ、コ ツチガヨホト強クナラナケレバダメダ

五時二十分飛行館ニ行ク グライダー組合ノ人々ト局ノ南波、飯塚、井上三氏ト明治神宮へ参拜 規約文ヲ南波氏ノ手カラ分ケテ貰ヒ銀坐裏ノ水茶屋ニ会食 飛行協會、局ニ対スル希望事項ヲ協議シ十時半散会ス

◆▼168ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月9日(木)

天気 雨

梅雨ラシクナル

組合員來ルトノコトニ晝食迄用意シテ居タガ來ラズ 午後上京ノ予定狂フ 中止ス 奈良原氏來 大牧今夜大坂行キノ爲メ挨拶ニ來ル

朝鈴木菊雄ヲ呼び土地ノ金ニツキ相談 式千五百円出サセルコトニシテ契約ヲナス 夜持参ス。夜帰宅後奥山君來テ貰フ 第一ノ件交渉 妻君行ツタ事アルトノコト 山口君共來テ呉レルナラ一万円位出サセルカモ知レヌトノコトデアッタ

南波氏契約原案作り午後行ク予定ヲ明朝トス

◆▼169ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月10日(金)

天気 雨曇

工場出 九時半ヨリ上京 本社ニ立ヨリ拂下代金ヲ受取り局ニ行ク 四十円七十銭支拂ヒヲナス

南波氏ニ契約書草案ヲ示シ之レニ税金ノ分担額ヲ記入スルコトトシテ承認ヲ得。会社ノ件二十五万円出資サレテ居ルコトニ対シ十万円シカ出テ居ナイ様ニ玉宮氏ナド思テ

居ルカラヨク話シタ方ガヨイト云ワレタノニ冷汗ガ出タ 尚杉浦氏ノ談トテ南波氏ヨリ軽飛行機グライダー修理ヲナルダケノ資金ヲ認メテヤルトノコト事ヲ聞ク
今日駒林氏ニ会ッテソノ辺タシカメ下請ニツイテモ相談シタカッタガ、明日ノ講演会ニ譲ルコトトス

四時半帰場 南波氏ヨリ電話アリ 仮登記デスマセルコトニシテハトノコトデアッタ

▲▼170ページ▲▼ 昭和13(1938)年6月11日(土)

天気 晴

今日ハ終日航空局ノコトガ気ニナッタ 駒林氏ニ會ヒタカッタガ學會ニ出カケタノデ會エナカッタ

午後ヨリ上京 學會ニ行ク 満員デ這入レズ 一寸ノゾイテ三時半ヨリ東日ニヨリ四時帝國ホテルニ慎ト会フ 一四式ニ大坂デヤラセルコトトス 満州進出二十五万バカリ入用ニツキ出來ルカ聞イテ見ル 目論見書ヲ作ッテ與レトノコトデアッタ 大シテ當ニナラナイ 尚二三話シ合ッテ五時半又學會ニ出席ス 清平ガ席ヲ取ッテ居テ與レタノデ、カケラレタ 講演ガオクレ從テ宴會ノ終ッタノハ五時半 ソレカラ木村氏ト銀坐三行キ話シヲ聞ク。小川サンガ一度工場ヲ見タイトノコトデアル由 案内ニ行クコトヲ約ス 十二時半帰宅 一時過ニ就寝

▲▼171ページ▲▼ 昭和13(1938)年6月12日(日)

天気 雨

朝眠イノニ鈴木來 第一ヲ秋田ノ伊藤ニ買ワセタイトノコトデアッタ 一万式千円位ニ云ッテヤッテ貰フ

保俚(ママ)屋又來 今度八千代田ニヤッテ與レトノコトデ又醫師ヲヨコス由 此間ノハ自分ガ胃カイヨウヲヤッタト云ッタノデダメニナッタラシイ

工場出 晝稲毛ノ醫師ニ行ク 左ノ方ニカケテ腸カタルガアル由 アタタメタ方ガヨイトノコト 薬ヲ四日分貰ッテ帰ル ツイテニ血液検査モタノム

山崎氏來 安岡ニ夕食ヲ共ニスル様命ジテ先キニ帰ル。今日駒林氏ニ會フベク電話シタガスデニ不在 明日ハ大ニ活性セネバナラナイ

▲▼172ページ▲▼ 昭和13(1938)年6月13日(月)

天気 雨曇

工場ニ出ズスグ局ニ行ク 南波氏ヨリ契約書ノ草稿ヲ貰フ 宇賀ヲ千葉ノ登記所ヘ手續キニヤル。器材課長ニ會フ グライダーヲオリンピックニ入レルコトヲ熱心ニ説イテ居タ

乗員課長ニ會ヒ製作ノ件依頼シテ居ク 練習機君ノ處デヤラセルトノコトデアッタ
本社ニ行ク 岩間日銀ニ今朝行ク 航空局ヨリグライダー飛行機部品製作ノ方針ヲ
許可セラレタイ 資本高ハ差(ママ)圖シナイトノコトデ通知アリタル由。其爲メ部品トシ
テノ書類書替ヲ要スル由 明日尚來テ呉レトノコトデアッタ 今日ハ立川行トス 午後
飯沼ニ立寄り中島ノ状況ヲ聞き引合セラタノミ、グライダーノ注文ヲ受ク。立川ニ行
ク
千賀氏ニ會ヒ後吉原氏ニ會フ 部品イクラモアルトノコト タンク點檢マドナド適當ナ仕
事ト思ツテ、少シ大キク話シテ居イタガ設備ガ足りナイ。近ク見ニ行クトノコトデアッ
タ
羽太氏ニ會ヒ夕食ヲ共ニス。十二時帰宅

▲▼173ページ▲▼ 昭和13(1938)年6月14日(火)

天気 曇リ

ツカレタノデ七時起床 九時工場出 宇賀ニ契約書ヲ書カセ尚書類作ル爲メ午後千葉
ノ登記所ヘヤル

正午ヨリ上京 本社ニヨル 岩間打合ガアルトノコトデアッタガ何等ノコトモナク二時半
日本橋へ買物ニ廻リ四時半帰宅 今日ハ非常ニツカレヲ覺エタノデ夜食後スグ床ニ入ル
酒井姉ト共ニ挨拶ニ來

▲▼174ページ▲▼ 昭和13(1938)年6月15日(水)

天気 曇後雨

午前中工場 今日ハ千代田生命カラ醫者ガ來タ 一万円位這入ッテ居イタ方ヨサソウ
ニ思ワレタノデ決心ス 受取人ヲ徳次トス

正午ヨリ上京 本社ニヨル 局ニ行キ南波サンニ會ヒ打合セ 契約書尚訂正箇所アリ取
引ハ來週月曜日トキメル 今日ノ支拂ヒニ対シ一時的千円立替ヲナス

副社長ヲ連レテ飛行館へ小川太一郎先生ニ會ヒ小林氏ノコトヲ礼ヲ述ベル。清水君ニ會
フ B七間ニ合セテ呉レトノコトデアッタ 万一間ニ合ワナイ時ハBニデヨイトノコト。五
時帰宅 本社ヨリ電話ニテ明朝九時半ヨリ重役会 資本百五十万ノ全額拂込カ式百
万ノ三分ノ二拂込ガ大坂ノ佐渡島ニ意見ヲ聞イテ呉レトノコトデアッタガコチラカラハ
芦屋へ電話通ジナイノデコンナクトハ許可方針ニモトヅクコトトシテ進メルコトトス

▲▼175ページ▲▼ 昭和13(1938)年6月16日(木)

天気 曇リ

七時半宅ヲ出ル 奈良原氏ニ立寄り 午後本社へ來ルコト 午前中千葉醫大へ御嬢サンニツイテ行カレル由
九時半丁度本社着 留雄氏、岡田氏、岩間氏アリ 田山氏モスグニ來テ居タガ清平、福西一番オソク十時半頃ソロウ 百五十万円全額拂込ミノ書類ニ署名捺印シテ岩間氏十一時日銀へ行ク

十二時過ぎ岩間氏帰り書類ニ訂証(ママ)スル處アリトテ仮認可申請書トスル事。増資株引受人ノ氏名引受株数ヲ書イテ出セトノコト 之レニ対シ福西ハソシモノスグ書ケト云ツテモ書ケナイト岩間トノ間ニゲキ論アリ 結局十八日迄ニ作製提出スルコトトシテ散会ス 仮申請書ダケ岩間氏提出ニ行ク

二時頃奈良原氏來 同道シテ東京會館ニ岩永氏ヲ訪問 今日ハ來ラズスグ帰場ス 教練ト運動會ノ練習ヲ見テ帰ル

今日ハ身ノ工合ハ大分ヨカッタ 朝数回便所へ行ツタキリ晝食モ取ツタガ後一回モ行カナカッタ 今日ハ一回船橋駅へ帰タ時フートナツタ

▲▼176ページ▲▼ 昭和13(1938)年6月17日(金)

天気 雨

終日ヨク降ル 非常ニ寒カッタ

区長へ取引火曜日ト云フコトヲツタエ工場ニ行ク

晝頃岡田氏ヨリ電話アリ 今日岩間君片桐サンへ行タ處立川ヨリ注文確實ナリトノ

回答ヲ得タイトノコト ソレハ駒林氏ノ話ト大分開キガアルノデス駒林氏ニ電話スル片

桐サンニ駒林氏ヨリ話シテ呉レルトノコトニ午後上京 タ方駒林氏ニ會フ。ヨク話シテ

呉レタノデ明朝自分片桐氏ニ會フコトニ本社ニヨリ岡田岩間ニ話シテ居ク

今日佐渡島へ二十二日上京方依頼ノ手紙出ス

佐野ヨリ此際イクラカ都合タノムトノ手紙來

清平昨夜來 今夜會フ。竹崎ニテ式百五十円月曜日夕方迄貸シテ呉レトノコトニ承認

ハシタガ奈良原氏ニ相談ニヨツタガ不在。行ケナケレバ明日來テ貰フコトヲタノンデ帰ル

▲▼177ページ▲▼ 昭和13(1938)年6月18日(土)

天気 晴

カラリト晴レ氣持チヨイ天氣デアツタガ非常ニ寒イ日デアツタ。奈良原氏早ク來 竹

崎貸シテハ駄目トノコトニ安岡ヲ呼ビニヤツタガ居ラズ 今日終日出社セズ 明日休ミ

ナノニ又困ツタヤツダ。徳ニニコトワリ方ヲ教エテ八時ヨリ上京 九時五分本社着 スグ

岩間南同道局ニ行キ片桐氏ニ自分ヨリヨク説明ス 昨日駒林氏ヨリモ話シテアツタノデ

タチマチ諒解 後チ局長ニ會ヒヨク依頼シグライダーノ件モ話シ合ヒ先日ノ写真ヲ贈リ

帰ル。岡田、富尾両氏ニ報告シテ、帰リニ佐藤ニヨリタンバツク二百十個買ヒ集メ帰所
駒林氏ニ礼状ヲ出ス

▲▼178ページ▲▼ 昭和13(1938)年6月19日(日)

天気 晴後曇リ

久シブリニユツクリシタ日曜ヲ迎ヘタ 八時頃ヨリ稲毛ノ醫者ニ行ク 血液検査ノ決(ママ)
果中性ダトノコトニ早速注射シテ貰フ 午後非常ニサム氣ガシタノ床ニ入ル 卅七度
八分迄上ガツタ タ方直ス 注射ノ性力風力兎ニ角今日モ寒イ日デアッタ
山口君來 妻君昨日山口縣カラ帰ツタ由 鈴木ノ話シラスル 來週中ニハ來ル予定
健康保俚(ママ)ノ運動會 個人賞ハ大分取ツタツウダガ十七八點トノコト 北越製紙
ガ百十何點デ優賞(ママ)シタ由
夜早く寝ル 腰ノ水銀注射ガ少シイタム

▲▼179ページ▲▼ 昭和13(1938)年6月20日(月)

天気 曇小雨

終日在所 大島氏トノ契約書作製 明日仮登記ノ準備ヲナス 夜更ニ南波氏へ電話シ
テ時間ノ打合セヲナス
佐渡島ヨリ手紙來 堅実ナル増資方針デアッタ 章氏ニ渡シ明日福西岡田氏等ト協
議 明後日ノ対策ヲ購(ママ)ジテ貰フ事トス

▲▼180ページ▲▼ 昭和13(1938)年6月21日(火)

天気 曇小雨

七時ヨリ川口爲ノ助氏訪問 昨年中ノ礼ヲ述ベル 其後ノ模様ト増資計畫ヲ話ス 金
ガアレバ参加シタイノダガトノコトデアッタノデ誰レガ五十万円位出ス人ヲタノンデ居
ク 九時半工場ニ帰リニ三安岡ヨリ話シヲ聞キ千葉ノ登記所ニ行ク 町ノ人七人居リ
代書ノ手續キヲナス 十一時半南波氏來 書類ヲ登記役場ニ提出 待ツ間ニ教育會館
ノ食堂ニテ晝食ヲ出ス 一時半仮登記終リ 一万円ヲ九八拂小切手ニテ弍千五百円
ヲ現金ニテ支拂 大島氏名儀(ママ)ニス 本登記書類ヲ受取ル 但權利書ハ外地ト一
括サレテ居ル爲メ受取レズ 契約書ニ其旨書キ入レテ終ル
工場ニ帰ル

長島參百円程又金ガ入ルトノコト 外ニ加藤五十円借りタイ由

岩間ヨリ明日立川へ同道シタイトノ電話アリ。アトヨリ福西ヨリ立川へハ行カナイ様ニシ
テ貰ヒタイトノ電話アリ

◆▼181ページ◆▼昭和13(1938)年6月22日(水)

天気 曇晴

七時半工場出 八時半奈良原氏同道上京 堀留署ニ出頭 桑原俊作君ノコトニツキ答申書ヲ提出

三越ニ行キ大坂へ信太郎ノ三週忌志ヲ送ル 七階ノ盆栽ヲ見晝食ヲ取り時間ヲツブシテ十二時半本社出。出田氏使來 協会補助金ノ件 佐野清三郎來 十円ダケ渡ス
アト月末ノコト

二時ヨリ株主總會 佐藤氏一人外ハ役員ノミ。營業報告ト決算ハ次期ト一所ニスルコト増資ニツイテハ認可尠積極的ニ出ナイコト等

終ツテ三時岩間君ト商工省ニ行ク 受注ハソレヲ確定シテ來レバスグ認可スルコトデアッタ。指山氏ニ会ツテ何ントカシテ貰フ決心シタガ岩間君一所ニ行クト云フニ外重役ハ一人デ行ツテ呉レトノコトニ一寸困ル 席ヲハツシテ日本航空ニ行キ指山氏ノ住所ト電話ヲ調べ電話シテ見タガ夜ノ帰りハ分ラナイトノコト 朝ハ七時頃出ル由 八時半帰宅

◆▼182ページ◆▼昭和13(1938)年6月23日(木)

天気 晴

六時半指山氏ニ電話スル 立川へ來テ呉レトノコトニ八時ヨリ出ル 十時半同製作所着一時晝食ノ馳走ニナリ約二時間半語り合フ 結局陸軍ノ方針ニヨラネバナラナイ事ニナルノデ設備出來テカラデナイト注文ノコトハ云エナイトノコト 予定通りデアッタ
岩間ヲ連レテ行カナカッタノデ其マ、帰宅 明日本社へ報告ニ行クトトス 帰途第一ニヨリ一時間程語り合ッテ五時半帰宅 朝顔ノ植替ヲナス

◆▼183ページ◆▼昭和13(1938)年6月24日(金)

天気 晴後雨

五時半起床 八時前工場出 九時過ギヨリ上京 昨日ノ報告ニ行ク 岩間、岡田ニ報告ス 結局今後持久戦ニ入ルコト 会社トシテハ進メズ岩間君裏面工作ヲナストノコトデアッタガ監督官ヲ目標ニシテ居ルラシイノデ之レハ出來ナイ事ハ明ラカデアッタ。航空局ヲ運(マ)カセバ出來ルト思フガ云ワナカッタ。後チ局ニ行ク 駒林氏ニ以上ノ話シ道アルラシカッタガ、シイテ依頼セズ。今日又佐渡島ヨリ手紙來 十万余ニ十万ノ増資ナレバ持株ダケノ事ハシタイトノコトデアッタ。二時帰場 宇賀ヨリ講習ノ報告ヲ聞キ工場整頓他安全週間中ノ事ナド章氏、安岡、宇賀ト打合セヲナス

◆▼184ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月25日(土)

天気 雨

終日雨 午前中工場にて安岡、章両氏にて別々ニ來月ヨリ黒字化ニツイテノ方針ヲ話ス

午後章氏ト上京 氏ハ本社へ金ノ想(ママ)談ニ行ク 自分ハ東京會館ニ久保田氏訪問シタガ會エズ 東日ニヨリ大原部長ニ初メテ會フ 五時帰宅
清平岡田両氏行違ヒニ來タ由

◆▼185ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月26日(日)

天気 晴

朝工場ニ出ル 工賃計算 昇給セズニヤツテ居タノデ注意スル 章氏來 來月カラニスルツモリデアッタトノコト ソレデハ職工ガ納マラナイダロウト思ツタノデ三月以來ノ熟練工ダケデモ上ゲルコト アトハ來月ト云フコトニシテキメル

九時帰宅 散髪入浴後徳治ヲ連レテ布施サンニ行ク 徳次ハ何ントモナカッタノデ一心 自分ノハ食腸ガンニナル恐レアルトノコトデ注意ヲ拂フコトナル 注射後終日休息ス

今朝ハイクラデモ眠レタ 午後一時間半程眠リ夜又ハ八時過ギヨリ床ニツク

◆▼186ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月27日(月)

天気 晴

八時工場出 スグ久保田氏ノ会见奈良原氏ニ依頼スベク市川ニ行ク スデニ上京ノアト、デアッタノデ後チ本社ニ電話シテ奈良原氏ニ連絡シテ貰フ

市川ノ帰途第一ニ試験ノ模様ヲ見ニ一寸ヨル 日新工業返事ナク安岡ヲヤルコトトス明日ノ給料支拂ヒニ関シ昇給ハ七月カラトキメタ由

タンバツクルノ設計ヲナス。

黒字化ニツキ經常費ノ調査ヲ富尾氏ニタノム 富尾氏來客 満州出資ノ人

家内夜稲毛ノ大越へ行ク 大口ナホノ件

玄關側へ尾長鳥ノ小屋ヲ作ル 今日一日デ中バ出來上ル 岩崎ガ一寸ヨク作ツタ

岩間ヨリ電話アリ 立川製作所へ明日行キタイトノコトデアッタ。久保田氏明日午後三時半會フ由

◆▼187ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月28日(火)

天気 雨

時事 木綿使用類内地向販賣禁止サル

昨夜來大分降ル 終日降リツゞク

正午ヨリ上京ノ予定ノ處慎君來 工場ヲ見セ自宅ニテ豚肉デ昔ヲシノバセ三時半帰ル
久保田氏トノ会见ハ奈良原サンニ依頼ス

安岡日新工業ヘヤル 午後材料パイプ來

今日ノ給料日心配シタガヤツト給料ダケ支拂フコトガ出來タ 章氏ノ話シデハ少シ又
高イ金ダトノコト 明日会議ヲシタイカラ本社ヘ來テ呉レトノコト

今日ハ午前太田ヲ呼びプライマリーノ作業状態調査 午後肥田木ニ昇給ニ関シ諒解ヲ
求ム

◆▼1888ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月29日(水)

天気 雨

時事 今日一日ノ雨量一万ミリヲ越シ大正十年ノ記録ヲ破リ六十年來ノコトノ由

東京駅ハ午後三時以後一車ノ発着モナキ由

前中工場。各部長研究所見学。午後重役会ニ上京 福西例ニヨリ四時頃來。廿一日
ノ支拂ヒ三三四千福西ノ手デ金融シタコト 五日ノ支拂ヒニ飯沼ヲ當テニシタイコトノ
由。商工省認可ノ件岩間ヨリ商工省デ教ヘラレタトテ通信省ヘ承認ノ願書ヲ出スコト
トナル。自分ノ考ヘテ居タコトニ氣ガツイタラシイ結果來ル 十日迄待ツコトトシ十日迄
ニ認可ナケレバ十萬円程度ノ金融ヲ以テ漸進主義デヤルコト。出資ハ光音工業トノコト
デアツタ。人々トヨサソウデアル 無尾ノ試飛行料三百円承認ヲ得

◆▼1899ページ◆▼ 昭和13(1938)年6月30日(木)

天気 雨後晴

時事 水害甚ダシ

九時工場出 試作部調査ス ドウモ今日ハウマク行カナカッタ

明日ヨリ安全週間準備ニイソガシ

晝前金工部ミールینگノ處ヘ崖クヅレシテ柱一本折り窓一間破ル
佐渡島ヘ手紙出ス

今日ハ思ヒ事マトマラス

◆▼1911ページ◆▼ 昭和13(1938)年7月1日(金)

天気 曇小雨

時事 安全週間

皮革類使用禁止令出ル
五時半起床 七時半丁度工場出 君ヶ代で国旗掲揚式 皇居遙拝 終ッテ一場ノ訓示ヲナシ航空神社ヲ奉拝 作業初ム
岡田氏ヨリ電話アリ 金見込ミツキ來テホシイトノコトニ午後上京ス 四時頃岡田氏帰社 野口へ福西ト行ツタ由 軽井沢へグライダー持ッテ行クコトニキメタ由 ドンナモノカタヨリナイ話シダ。山口氏ノ方モ進メルト三井ノ話シニジヤマナルトノコト
岩間ト岡田今日柳中佐ノ處へ行ツタガダメデアッタトノコト。収入予算ヲ立テ今月一万三千円ばかり有り之レニヨリ明日福西ト相談シテ見ル由
七時帰宅

▲▼1926ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月2日(金)

天気 雨

時事 又大雨

午前中工場 組立整備剰余人員ノ處置ニツキ部長ト打合せ安岡ニ命ジ別箇ニ教育スル方針ヲ取ル 十一時章氏出 以上ノ報告ヲシ其他打合せ 長島ノ件モ方法ヲキメル 晝食後上京 沢田ト佐藤ニヨリ本社ニ行ク。清平山東休 岡田山口氏へ行ツタトノコト 金ノ爲メト思ツタガツヒニ会エナカッタ。日章商会ノ沖トカニフカラ電話アリ 神戸岡崎銀行ノ整理ニ當ッテ居ルノデ會ヒタイトノコト 今頃変ナコトヲ云ツテ來ルヤツモアルモノダト思ツタガ今後上京ノ時電話カケテヤルコトニス
木村氏ト四時半飛行館ニ会ヒ練習機ノ圖面ヲ貰フ
六時ヨリ石原大尉ノ送別会ニ列席ス
今日モ又ヨク降ツタ 佐藤氏ノ工場モ休ンデ居ル由

▲▼1933ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月3日(日)

天気 雨

今朝ハ大雨後終日降ル 庭ノ右隅一間程クツレル アジサイツブレル。ユックリ寝ルツモリガ眠レズ六時頃起キル 朝湯ヲ立テサセル 第一ノ山口來 十一時頃奈良原氏モ來 自分失礼シテ湯ニ入り稲毛へ行ク 下腹ガドウモヨクナイノデ薬ヲ一週間分貰フ マンセイ大腸カタルトノコト。注射シテ帰りニ鳥飼宅ニヨル。カジヤト鈴木、奈良原、安岡ノ連中デアッタ 四時過ぎ迄カハル 帰宅シタラ尾長鳥ガ來テ居タ
幕張入口ニ行キニハ大シタコトナク帰りニハ大キク崖クツレシテ道ヲフサキ海迄這入ッテ居タ

◆▼194ページ◆▼ 昭和13(1938)年7月4日(月)

天気 曇南風

漸ク雨止ム 朝福西へ電話スル 岡田ト會ワナイ由 今日連絡取ル様タノム 後チ岡田ヨリ電話アリ 午後來テホシイトノコト 章氏來ラズ手紙持タセテヤル 今朝上京シタ由 無尾ノ地上テストヲ見ル エレベターハキクガ補助翼ハ足ニツカエテ余リキカズ 方向舵ハヨク分ラナイガ余リキキソウニモナカッタ

二時ヨリ上京 三時着 間モナク福西モ來。岡田ヨリ光音工業トノ交渉ノ話シアリ 工場財團ヲ設立スル必要アリ 金額八十万円 光音ヨリ國際ガ借り國際ヨリ伊藤へ出ス 國際ノ株主へノ申訳ケニ財團設立ノ必要アリトノコトデアッタガ富尾兄弟ヨリ來年ノ五万円ガ引當ニナルノデハイヤダトノコトデ話シマトマラズ 結局十五日迄二一万円バカリ這入ルノヲ目當ニ支拂ヲ十五日迄延期スルコトス。尚中島へ交渉 機械モ貸シテ貰ッテ自力更生ヲヤツテ行キタイカラ自分ニ交渉シテ呉レトノコトデアッタ 之レニテ今日ノ会議ヲ終ル

◆▼195ページ◆▼ 昭和13(1938)年7月5日(火)

天気 曇小晴

終日在所 七時半出場 国旗掲揚 皇居ヲ拝ス 章氏夕方ヨリ満州進出ノ件ニツキ上京ス

本社へ金取りニヤッタガ一文モ出來ズ クラブヨリ六百元ヲ入レ百円自分取りアトアルダケノ金デ一部分支拂ヲ行フ 中台四百円トス

午後竹崎來 六百元高利貸ヨリ借りル 預リ飛行機ノ保証ヲナス 期日八月卅一日迄

軍人後援会ノ寄附募集ニ來 特別会員トナル 一時拂四十円支拂フ 之レモツラカッタガ自分ヤ小供ガ出征シタト思エバ輕イ負担デアル。梅沢仙吉君來 宅ニテ夕食ヲ出ス 倍(ママ)食安岡宇賀。八時頃清平帰ル

◆▼196ページ◆▼ 昭和13(1938)年7月6日(水)

天気 晴

今日モ終日在所 工場人員調査ヲナス 章氏ハ賞與ノ調査ヲナス 検査官今日モ來ラズ 明日早ク來ル由

岡田ヨリ電話アリ 中島へ一所ニ行ッテモヨイトノコト モウソロ、出來ルダロウト思ッテ居タ

一方飯沼電話ナシ 明日行ッテ見ルコトトス

神戸大水害 佐渡島ト下伊那ノ松下へ電報デ見舞出ス 松下無事トノ返アリ

▲▼1977ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月7日(木)

天気 曇小雨

時事 安全週間最終日

十時頃ヨリ上京 東日ニ行キ十一日全額受取ルコトニキメ、中島ヤ中村氏へ電話スル。
今丁度手が明イテ居ルトノコトニスグ行ク。タンク等ノ仕事モアルダロウトノコト 一番
困ツテ居ルノハヤハリ機械仕事ノ由 明後日太田へ行クカラ相談シテ返事仕様トノコト
デアツタノデ行クコトニシタ 明後日ハ本部長が行ク由ニツキ月曜日行クコトニス 佐久
間氏係ノ由 本社ニヨル 副社長居タガ間モナク出ル 岡田氏不在 帰場四時。検査
官金井外一名來 帰リニ旭航空へ行ク 平松迎へニ來テ居タ

▲▼1988ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月8日(金)

天気 曇リ

晴レタリ曇ツタリ小雨モアリ

午前中工場事務

午後章氏ト成田サンへ参詣ニ行キグライダーニ付ケル御守リ三十個求メテ五時帰宅

▲▼1999ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月9日(土)

天気 曇晴

終日在所

晝頃山口親子來 月曜日カラ初メルコトニナツタトノコトデ其相談デアツタ 母ノ方ハ
一文デモ金ヲ放サマイトスルニ子ノ方ハキレイニシタイ考ヘガアツテ、ウマクオレ合ズ相談
ニ來タラシカッタ。又一骨折レルコトダ

午後三時過ギ福西ノ外全部來 六時頃迄会議 増資問題打切ルコト 願書ハ其マ、ト
スルコト 明後日自分太田行 小沢氏ト岡田氏監督官行キ 其結果十二日会合ノコト
ト取キメル 尚ソレ迄ニ金策ニツキ考慮スルコト。グライダー式十台賣上ゲヲ主張ス。先
日ヨリ調査ノ工場状況ヲ報告ス

▲▼2000ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月10日(日)

天気 晴

朝早ク山口來 十時頃母來 成ベク現金ヲ出サナイ方針ヲ取ルコトトス 今夜山口ノ

送別会ヲ玉川デヤル由
晝頃北島氏來 自宅ニテ晝食ヲ共ニス 色々工場能率ニツキ話ヲ聞ク。作業悪イトノコト 急ガセルコトトス
三時頃ヨリ醫者ニ行ク

▲▼201ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月11日(月)

天気 曇リ

五時半起床 八時十分浅草発太田ニ行ク 知ラナイノデ、タクシーニ乗ツタラ三丁程ノ處デ七十銭取ラレタ 佐久間氏上京シタ由 栗原氏休ミデ止ムナク総務ノ増田氏ニ会ツタガ初会ノ人デ普通ノ挨拶ダケデ帰ル 十時三十分發ニテ二時浅草着 目黒ノ南波サンへ挨拶ニ行ク 荷造デ大変ナサワギデアッタ 十四ノ飛行機デタツツモリトノコトデアッタ 間モナク辭ス 宮本君手傳ニ行ツテ居リズツト帰ル

▲▼202ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月12日(火)

天気 曇後晴

検査官辻本、岡田氏來

萱場ヨリ伊藤外式名來 写真ヲ取ル 風洞実験ヲ承(ママ)細ニヤツテ貰ヒタイトノ希望ニテ帰ル

三時本社行ク 昨日小沢氏ト岡田氏倉片監督班長ト会見 今朝、片山技師ト会見 工場状況ヲ現在六ヶ月後トテ書イテ出セトノコトデ其上ニテ立川カ中島イツレカニキメ会社ノモノヲ同道スルトノコトノ由 結局設備ヲ自分ノ處デヤラネバナナイトノコトデアル

金融問題行ツマリ誰レニモ案ナク止ムナク自分ヨリ必要ナ金約五万円ヲ各重役一人五千円乃至一万円ツゝ分担シテ作ル案ヲ出シタガ、タ、佐渡島ダケヲアテニシテ何等マトマズ。兎ニ角十五日ノ支拂ノ金ヲ日日、亜細亜、協会ヨリ取ルコトトシテアトハ其後ノ問題トス。日日ニ奈良原氏ト同道ス。プライマリーノ金協会デ支拂フコトニナツタトノコト。

清平下痢デ休ンデ居タノデ今日ノコトヲ電話デ話ス

▲▼203ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月13日(水)

天気 晴

ドウヤラ本格ノ天気ニナツタラシイガタ方少シ曇ル

早朝飯沼ニ電話シテB二ノ金明日残金千百円貰フコトヲ取キメル。清平ニ協会ノ方ヤ

ラセル

終日在所 家内ト徳次和子御寺カラ墓へ御参リニ行ク

昨日高山來 墓ト佛壇 明旧盆迄ニ作ルカラトノコトデアッタ由

▲▼204ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月14日(木)

天気 晴

五時半起床 七時二十五分ノ自動車ニテ上京 安岡同道、奈良原氏宅ニヨル 共ニ上京シタガ羽田ニ行カレズ安岡ト二人デ行ク イリス商会招待ノ獨逸練習機ノ飛行ヲ見ル 離陸スグ背面飛行ノマ、上昇旋回ヲヤッタノニハ一寸驚カサレタ 終ツテ木暮君ニ會ヒ共ニ遠藤君ニ餞別ヲ持ツテ行ク 之レヨリ先キ原愛次郎氏ニ會フ 今度東日ニ這入ツタ由 大蔵ニモ會フ。佐野ニ會ヒ 開解散 同意書ニ判ヲ貫フ

本社ニ行ク 協会ノ金受取ル爲メ寄附金ト中元ヲ式百五十円支出スルコトトシ清平ニヤル。岩間ヨリ富尾氏ヲ積極化スル様ノ話シアリ(十万円金融ノ件ニツキ)

小田君來 青年航空ノ爲メニ昔話シヲスル。東日ノグライダー競技会ノ会ニ行ク 會議ニ出ズ帰り章氏ニ立寄り

▲▼205ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月15日(金)

天気 曇晴

夜雨

終日在所 章氏本社へ金取リニ行テ遅クナルトノコトニ機ヲ取り皆帰ヘス。夕方六時頃自宅へ來 御盆ノ手當共千七百四十円ヨリ持参セズ、ソレニテ支拂方針ヲキメル

操縦士試験アリ。藤崎サント園山氏來場 第一日無事終ル

日進ヨリ山本氏來

終日作業促進ニツトム

夜中台來 富尾氏ヨリ百円ダケ貰ツタガ困ルトノコトデアッタ。アト式十日頃心配スルコトトス

▲▼206ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月16日(土)

天気 晴

藤崎氏來 クラブニ名帝国三名実地試験ヲ終ル

終日在所 御盆ノ手當ノ代リトシテ全職工ニ一日ノ休暇ヲ(日給ヲ給ス)與ヘルコトトス 社員ニ平均半月分ヲ與 皆勤者八名ニ一名十円ツ、賞與ヲ與ヘル

TC、日新作業ヲ督励ス

夕方清平來 KH無尾ノ風筒(ママ)試験成績ニヨレバ重心位風モ中心ガ多ク非常ニ前ニアルノデ明日之レガ対策ヲ相談スルコトトス

▲▼207ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月17日(日)

天気晴

熱イ日デアッタ 正午醫者ニ行キ第五回目注射 エミ子チブスノ予防注射ヲナス
伊藤万吉來ラズ。乗池君來 ポツシユプラグ百個渡ス 金ヲトノコトデアッタガ取ラズ。
三式ヲ早クキメテ貫フコトトス。自宅ニ同行シ夕食後帰ル 其間イロ、瓦斯電ノ内部
ノコトヲ聞キ大ニ参考トナル
清平夕食後帰ル

▲▼208ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月18日(月)

天気晴

八時半福西着 約一時間財政問題ニツキ相談 福西ハヤハリ三井ダケヲアテニシテ居ル
ノデ、ソレガイケナケレバ岡田案カ自分ノ案ヲ実行スルコトトシテ帰ル
秋田伊藤氏待タセル 四百円受取り残金五十円トガソリン代ハ帰ッテスグ送ル由。局
手續キ書類奈良原先生ニ事傳ル
午後第一二行キ鈴木トクラブヘアンリオ千六百円デキメルコトヲ報告ス
夕方帰ル 木村氏居リ計算書清平持ッテ帰ッタ爲メ分ラズ明日トゞケルコトトス。安岡
トタノ■ヤル 山崎氏來 C六ノ改造ノ爲メ

▲▼209ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月19日(火)

天気晴

TCノ爲メ終日在所 昨夜角徹夜 今夜モ翼取付部徹夜ノ予定 夜九時頃見ニ行ク
清水君來
章氏ニ昨福西ヘ行ッタコト話ス。山田ノ方出資ハ章氏ノ言デハ引カキ廻サレル恐レアリト
ノコトデアッタ 植田ト云フノガ中 人情味ノナイヤリ手ノ由 出來ルダケ皆デ手分け
シテ、アツメル方ガヨイトノコトデアッタ。満州行キニ三日中ニキメルトノコトデアッタ

▲▼210ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月20日(水)

天気晴

福西岡田ヨリ電話アリ 野口ノ方良好ノ由

ソレニシテモ月末ノ事ニツキ章氏ト相談 午後章氏本社へ行ッテ貰フ
T.C翼取付部中々ハカドラス夜ニナッテモマダ仕上ラナカッタ
夜船橋込帽子ヲ買ヒニ行ク 帰途工場ヲ見廻ル
ヒンヂ間ニ合ワズ滑車ト両方共鉄板デア作ルコトトス

▲▼211ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月21日(木)

天気晴

風ナク暑シ 鈴木菊來 父死亡ハ二時間バカリデア生還ッタトノコトデアッタ。宗里ノアン
リオガラクタ明日引取り方取キメル 又氣ガ変ルト困ルカラ
T.C中々出來ズ又一日遅レル 試飛行廿四日 清水へ知ラセル
鹿島講習会祝電ヲ打ッ
章氏ノ話シ後チ岡田氏ヨリモ電話アリ 山田ノ方交渉ハ續ケ居ルトノコト 金六自分案
デヤル方ヨイトノコトニキマッタラシク廿八日ハ亜細亜サエ貰エレバイトノコトデアッタ

▲▼212ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月22日(金)

天気晴

章氏上京

終日工場 午後三時ヨリ第一ノアンリオ部品鈴木へ引渡シニ出張 丁度山口帰ル 六
時帰場 T.C胴体塗り方ヲ見テ帰宅
明日役員会 午後一時ヨリ來テ呉レトノコト

▲▼213ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月23日(土)

天気晴

午後役員会ニ上京 野口ノ方確實ナリトノコト 廿六日監督班ヨリ中島立川両方連レ
テ來ル由 ツイテハ廿八日ノ支拂ヒニツキ又五日ノ分ニ対シテモ安全ノ爲佐渡島ヨリ一
万円以上借りタイトノコト 明夜自分ニ行ッテ呉レトノコトニ承認ス 章氏同行スルコト
トス
コンナコトカトモ思ッタノデアラカシメ今朝手紙ヲ書イテ居イタノヲ東京駅カラ出サセ
ル

▲▼214ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月24日(日)

天気晴

一番ノ自動車デ醫者ニ行き注射ヲシテ帰ル

TC試飛行迄出來ナカッタ 明日ニナル

清水、松下、飯塚奈良原氏來場 北風涼シク氣流ノ悪イ日デアッタ 明日ノ打合せシテ章氏三時頃自分四時半帰宅 船橋駅デ会ヒ八時五十五分ニテ出發 車中明日ノ話工合ニツキ一寸打合せテ早く眠ル。二等ニシタノデ大変スイテ居タ、爲メカヘッテ寒カッタ

▲▼215ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月25日(月)

天気 曇リ

今日モスズシカッタ。章氏堂ビルニテ休ミ其間宅ニ帰り新世界ニ行き竹島ノ判ヲ貰フ 十一時過ぎ佐渡島ヨリ電話アリ 二時半カラ用事が出來タカラスグ來テ呉レトノコトニ章氏ヲサソヒ行ク。章氏ハ京都迄來タコトニシテ話シス 章氏中々上手ニシヤベッタノト人格的ニヨイ印象ヲ與タラシカッタ 結局五万円ツクルニツキ二万円ヲ富尾氏側 一万五千円ヲ福西 一万五千円ヲ佐渡島デト云フ話シニシテ承認ヲ得 スグト云フ訳ニ行カナイノデ今月末頃ニ入用ニナルカラト頼ンデ居ク 一時半間(ママ)ノ会谈デ終ル 一安心 帰宅 章氏腹工合悪ク何ニモ喰ワナカッタ 南氏ニ來テ貰フ 職工ノ件タノム タンバック來月十五日頃ニナル由 九時半ニテ出發ス

▲▼216ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月26日(火)

天気 曇リ雨

八時東京駅着 ヨク眠レタノデ氣持チヨカッタ 今日ノ会見ニツキ色々ト考慮ス

本社ニヨル タレモ居ラズ、青木ダケ 福西へ電話シテ居イテ帰宅 船橋カラ家内ニ會フ 鈴木ノ恵美子昨日午後突然死シタトノコトデアッタ 帰宅後サンパツシテ鈴木ニヨリ、焼香シテ工場ニ出ル 二三出來テ居ナイ處ヲ直サセル

午後TC二回飛行 清水操縦

午後二時半片倉少将山下技師石原中佐等來 会社側トシテ中島立川ヨリ各四名位ツゝ來 結局班長ノ判定デハ現状デハダメ。設備スレバ無論ヤツテ貰フトノコト 之レハ今迄モ同ジデアッタガタ、山下君ト相談シテヤレトノコトガ一進歩デアッタ 夜大坂デノグライダー競技大会ノ打合せ会デ東日ニ行きAワンデ会合 帰宅十一時トナル

▲▼217ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月27日(水)

天気晴

監督官へ御礼ノ爲メ上京 岡田氏ト行ク 山下技師不在 班長ニ會フ 丁度長沢少将 居合ワセル 種々注意ヲ受ケ好意ヲ謝シテ帰ル スグ帰場シタガ章氏帰宅後デアッタ ノデ小沢氏行キ中止ス

◆▼218ページ◆▼ 昭和13(1938)年7月28日(木)

天気晴

九時迄眠ル 夜中カラ左ノ足例ノ神経痛ラシキ痛ミアリ眠レナカッタ 起キル頃ハヨク ナツテ居タ。高山來 十一時工場出 章氏上京シタアトデアッタ。北海道ノ金千葉縣 庁ヨリ受取リ

TC試飛行 八百八十米ヨリ十五分間

佐渡島へ手紙出シテ呉レトノコトニ東京カラノ方ガ早イカラ出シテ貰フ事トス

協会金受取レズ 亜細亜不明 明日ノ支拂残業ダケ残ルトノコトデアッタ

夕方山崎氏來 製作講習会ノ打合せ 出張人員等C六不明個所取キメル 十時ニナツ タノデ送ル。十一時就床

矢野甲府へ帰ル 木材運送方法ヲ調査シテ送ル様話ス

◆▼219ページ◆▼ 昭和13(1938)年7月29日(金)

天気晴

村田、渡辺両氏検査ニ來 清平同道

TC、C二、A二、四百、十年式完成等七時頃終ル

本日来客多ク朝日ノ中野氏外一名、美津濃ノ梅沢外一名等々

TC最後ノ飛行ニ工場幕張間ヲ十数往復ヲナシ低空五十乃至三十米ニテツヒ三十三余 分飛ブ。肥田木モCニテ五百米ニテ十三分余飛ブ

本日工賃支拂ヒヲナス 少シ不足ノ爲メ部長級ダケ明日ニ延期ス

夜食事中上岡來

◆▼220ページ◆▼ 昭和13(1938)年7月30日(土)

天気晴

朝青木來 本社へ來テ貰ヒタイトノコトニ章氏ト小沢サン行キノ約束デアッタガ上京ス 野口今日静岡縣ノ三井ノ別荘へ行ツタトノコト ソレ二百円渡シタ由。佐渡島ドウダア ウカトノ心配モアリ自分ニ大坂へ行ツテ貰ヒタイ様ナ口振りデアッタガ一日ノ模様ヲ 見テ行クコトトスル 佐渡島ヨリ希望ノ書類速達デ送ル。丁度小沢閣下來 岡田氏ヨ

リ経過ヲ報告シ、味ノ素ビルニテ晝食ヲ共ニス。七百円受取り三時半帰場 章氏ニ渡シ
今日ノ話シヲナス ドウモ野口へ余リ金ヲ取ラレルノデ少シアヤシイト思フノダカ章氏
モ同感デアッタ
夜早ク床ニツク

▲▼221ページ▲▼ 昭和13(1938)年7月31日(日)

天気 晴

奈良原氏來 第一妻君來 秋田トアンリオノ件聞きニ

久次郎朝買物ニ上京 夜帰ル

午後山崎氏來 講習会ノ打合せヲナシ清平太田安岡ニ命ズ C六ヲ見夕食ヲ宅デスル
鳥ヲベタトノコトデアッタガ余リウマクナカッタ

夜上岡來 一昨日ノ話シノ件今朝先方ニ会ツタ處非常ニ乘リ氣デ今夜大坂道行ッ
タノデ四五日後ニ帰京 最(ママ)非見セテ貰ヒタイトノコトデアッタ由

今日支拂ヒ出來ズ 工場ヨリ四十円借りタガ内三十円清平ニヤル

▲▼223ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月1日(月)

天気 曇リ

五時起床 大坂ノ兄ニ電話シテ佐渡島ニ會ッテ様子ヲ見テ貰フコトヲ頼ム

章氏晝頃來 四時頃帰ル 來客ノ由

中台金後氏ノサル處分シタノト鈴木菊ヨリ内金取ッテ貳百五十円渡ス 夜本社ヨリ三
百円小切手野谷持参 之レモ渡ス

鈴木菊第一へ同道 九百二十円ニテアンリオ取引キメル

大坂ヨリ返事ナシ

▲▼224ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月2日(火)

天気 晴曇雨

大坂神戸間又水害アリ

朝五時半兄ニ電話スル 昨日會エナカッタ由 今日行クトノコトデアッタガ夕方電報ニ
テ今日モ會エヌ來タラドウカトノ事デアッタ

朝早ク章氏訪問 佐渡島ノコト昨夕電報アリ 収支計算書見タイトノコト 之レニ対シ
章氏上京 岡田氏其他ト相談ノ上返電ト急グ旨打電シタ由 自分ニ上京ノ必要ナシ
トノコトデアッタノデ一安心 午前中ニ鈴木ヲ連レテ第一二行キ取引ヲ済マセ工場ノ貸
シモ全額受取ル

◆▼225ページ◆▼ 昭和13(1938)年8月3日(水)

天気 曇晴雨

五時半起床 二番ノバスデ上京 九時本社着 九時半岡田氏ト太田ノ中島ヘ出カケル。
野口ノ方進メテ間違ヒナイトノ由ダガマダ會エナイ由
十二時半太田着 晝食ヲカンタンニシテ会社ニ行キ先ツ總務ニ會ツタガ話シニナラズ
過日來タ吉田氏ヲ呼ンデ貫ヒ更ニ浜田課長ニ會ヒ懇談 会社ト館林航空器材工場ヲ
見學シテ帰ル 六時半請地ニテ京成ニ乗り替章氏訪問 今日ノ報告ヲナシ明日早ク立
川ヘ行クニツキ三時頃本社ヘ役員會合ノコトヲ依頼シテ帰ル
今日モ検査官來ラズ 佐渡島ヨリ手紙來 決算書ニ疑問アルラシク一度自分ダケニ會
ヒタイトノコトデアッタ

◆▼226ページ◆▼ 昭和13(1938)年8月4日(木)

天気 晴曇

新宿デ岡田氏ト會ヒ共ニ立川ニ行ク 十時会社着 丁度會議中デ二時間待チ正午
中島氏ト會見 中々親切ニヨク話シテ呉レタ。監督官原原(ママ)中佐ニモ挨拶スル 石原
氏ハ消極的デムシロ現在ノマ、デ進ンダラドウカトノコトデアッタ
三時本社着 役員會決極(ママ)明晩大坂ヘ行ツテ呉レトノコトデアッタ 七日スマセテカ
ラニシタカッタガ行クコトニス。岡田、福西野口ト會ヒニ行ク 大變順潮トノコトデアッタ。
帰場 工場ヲ一寸二見ニ行ク

◆▼227ページ◆▼ 昭和13(1938)年8月5日(金)

天気 晴曇

章氏來ラズ 九時工場ヲ出福西ニ行ク 岡田野口ヲ呼ブ 兄大坂ヨリ來 二千円金ヲ
持ツテ來タ由 福西例ニヨリ清凌亭ニ同行ク 兄ニ話シ式十円ダケ会社ヘ融通サセル
野口ニ対シ岡田ヨリ最(ママ)非會見方ヲ進メル様依頼ス 早速其手配ヲスルトノコト
福西ノ話シデハ野口ハ其必要ナシト云ツタ由 ドウモ會ワナイ内ニシツカリシタ方針ガ
立タナイ 二時急デ津田沼ニ帰リC六ノコト角ニ話シスグ仕度シテ上京 本社ニヨリ五
十円旅費受取り五時二十分朝日新聞社ニツク 奈良原氏居リ清平來 其他ノ人々オ
ソク七時頃南波氏モ見エ會食 河内氏ヨリ一場ノ挨拶アリ 奈良原氏ニ答礼シテ貰フ
少シモノ足りナカッタ。

朝早ク安岡來 小松使ツテ呉レトノコト 自分ハ見込ミアリト思フガ章氏ニ聞クコトヲ
命ズ

夜八時五十五分出発

◆▼228ページ◆昭和13(1938)年8月6日(土)

天気 晴

本格的ノ夏晴レ

七時半大坂着 スグ芦屋ニ行ク 相(ママ)像モ及バヌ惨状ニ驚ク 幸ヒ佐渡島宅ハヨカッタ

八時着 正午ヲ過ギ三時迄前後七時間話シ合ッタガ別ニ苦痛ハ少シモ感ゼズ時間ガ早クタツ位デアッタ 要スルニ広島ノ方折角ヨクナッタラ人ニ取ラレタノデ名儀(ママ)上社長ダガ今後當社ノ方ヘカヲ入レテ見タイ希望ニテ随分コマカク聞カレタ。工場能率増進ニツキ大分研究セラレタラシイ。三時半梅田ヨリ本社ト津田沼へ今夜佐渡島氏ト同行スル旨打電ス

帰宅後南氏ト會ヒタツペラ十日頃百本送ル由

九時一分大坂発ニ乗ル

◆▼229ページ◆昭和13(1938)年8月7日(日)

天気 晴雨

七時四十五分東京駅着 帝国ホテルへ同行後羽田へ行クコトトシテ出 途中散髪ヲナス。羽田十一時着

福前ノ一号機離着ノ際今朝破損シタトノコト 二号機ハ左右バランス悪クタブツケテ今日ダケ飛行スルコトニナリ堪航証ハ出ナイコトニナッタノデ大分シヨゲテ居タ 吉原ノハ大分工合ガヨサソウデアッタ 立川へ二機行ツタ 無事着

五時東京会館へ行ク 岡田、福西、來 章氏業者ガ海水浴帰デオクレ七時頃來 慎君來 輕旅客機ノ件話シアリ 九二ノコトモタノム

◆▼230ページ◆昭和13(1938)年8月8日(月)

天気 晴

章氏來ルノヲ待ツテヤハリ正論デ工場根本方針ヲ定メテ進メルコトニキメ上京 岡田、福西、副社長等ト協議シタガ岡田、福西ハ野口ノ話シデアク進メ得ルモノトシテ此際一時的ニ借入レヲ頼ミタイトノコトデアッタ 其他ハ自分ノ意見ト同意見デアッタガ、イヅレニシテモ根本方向ハ定メル必要アリ 之レニヨルモ三年ニヨルモ同ジコトナノデ両方進メルコトニ一致 佐渡島へノ話ハ岡田ノ任意トシテ、佐渡島氏ト電話デ話ス 明日午前中工場へ來ルトノコトデアッタノデ午後本社デ話シ會フコトトス

五時帰宅 注射二行ク

▲▼231ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月9日(火)

天気 晴

朝十一時頃佐渡島氏來 其前章氏ヨリ昨日日本社へ野口來 昨夜辨蔵氏上京 明日會フ機會ヲ作ルトノコトデアッタ由 佐渡島へハ三井ノ話ト共二万一ノ場合ノ爲メヤハリ根本策ヲ講ジルコトトシテ出資ヲ乞フ様打合せス

広島ノ金ヲコチラへ轉還スル意志アルコトヲ話シテ居タ 本社ヨリ電話アリ 今日會エルカモ知レヌカラ來テ呉レトノコト。工場ヲ見セ飛行機ニ同乗後上京 本社ニ行 誰レモ居ラズ三越へ見ニヤル 三人共帰ツテ來タ 今夜輕井沢ニ行クノデ明日又野口ガ打合せニ行キ其上輕井沢へ行ク由

岡田氏単刀直入的ニ三井ノ出來ル迄ハ一時借りヲ申入レタ。ハタシテウントハ云ワナカッタ

今夜八時五十分デ立ツコトニナリ六時半本社ヲ出途中夕食ヲ共ニシコトワラレル。モウ覺後(ママ)ヲシテ居タノデ。尚今月中ニ必ズ根本策ヲ以テ行クコトニナルカラ其時ハ最(ママ)非タノムト云ツテ居ク

▲▼232ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月10日(水)

天気 晴

アツイ日

昨日ノ結果ヲ福西へ電話デ知ラス 岡田ニモ電話シタガ十時頃マダ出テ居ナカッタ 後電話アリ 章氏ト三時三越ニ行ク。間モナク福西、野口等來 明朝十時ノ汽車デ輕井沢へ行キ明夕方迄ニ會見日知ラセル由 野口塚本帰ツタ後佐渡島ノ話シニナリ岡田ハ大分非難ノ口調デアッタガ結局福西ノ手形成策ガ行ツマリトナツタコトノ原因ガ佐渡島ガ出シテ呉レルモノト決定的ニ考ヘテ居タ爲メト云フコトニナツタ ヨク聞イテ見テ手形ヤリクリノ相當六(ママ)理ヲ知ツタガ兎ニ角一万円ノ金ガアレバ又一回轉出來ルトノコトニ皆デ努力スルコトトシテ散會 自分ハ早速慎二九ニヲ買ワセル爲メ會ヒニ行ク 見積リ早速出シテ呉レトノコトデアッタ。局デ相談ノ上決定スルトノコトデ急ノ間ニワ合ワナイ

▲▼233ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月11日(木)

天気 ■

時事 天皇陛下木更津海軍航空隊行幸

終日在所 C六急ゲ

第一妻君來 局へ提出書類ノ件 木下ヲヤツテ處理サセル

◆▼234ページ◆▼ 昭和13(1938)年8月12日(金)

天気晴

五時起床 五時二十五分出 七時亜細亜三行ク 飯沼不在ノ由 マダ寢テ居ルノダロ
ウ 山田君ニ會ヒ兄ニ頼マレタダライ粉ノコトヲ聞キ後チグライダー注文ニツキ話シ帰
途福西ニヨル 丁度九時 岡田氏モ來 輕井沢ヨリ電話アリ 今日午後四時上野着列
車デ帰ルトノコト 内容不明 丁度晝迄居テ岡田氏ト出テソバ屋ニヨル 岡田氏ニ万
三井ダメノ場合ヲ考慮シ大体手形等ノヤリクリノ期日モアルコトダカラ期限ヲ定メソ
レ以上ハ確固タル方針ヲ立テルコトヲ進メテ居ク 尚岩間福西ノ問題ニツキ三井ガ出來
タラ岡田モ止メ自分ガ二人ヲ連レテ出ルトノコトデアッタガ之レハ考慮ヲ要ス。工場ニ
帰り章氏ニ報告。後チ岡田ヨリ電話アリ 明日ノ手形ノ爲メ亜細亜何ントカナラヌカ
トノコトニ飯沼ニ電話ス。結局注文ハ少シ先キ二前ノ殘金明日受取ルコトトス 其旨本社
へ知ラス。野口ヨリ又電話アリ 汽車賃不足次ギノ汽車ニスルトテ金送ツタ由

◆▼235ページ◆▼ 昭和13(1938)年8月13日(土)

天気晴

朝工場出 安岡先キニ航空局辻本氏ヘヤル 十時頃ヨリ自分出カケル 本社ニテ安岡ヨ
リ様子聞ク。清平、飛行協会ヘ電話スルノ二局カラ検査ノ爲メニ後レテ居ル様ニ云ツタノ
ヲ辻本氏ガフンガイシタダケ外ニ何等ナイトノコトデアッタガ一應自分ニ來テ呉レト
ノコトニ安岡ヲ同道シ辻本氏ニ會ヒ甲斐氏ヨリ一通リ話シヲキキ、無事終リ月曜日來
テ貰フコトトス

野口ノ方來週東京デ御目ニカ、ルトノコトデ帰ツテ來タ由 今日モ四時頃三越デ會フ
ベク岡田、福西、留雄氏等出テ行ク。今日ノ五千円手形ハ福西ノ手デ形ヅケタ由 増
島ノ手形ト何ントカシタラシイ

山東カラ初メテ聞イタガ岡田ガ二百円単ニ利子トシテ持ツテ行ツタ由 渡シ先キガ分
ラナイ。コンナノガイクラモアル由 帳簿ノ件岩組本社ヘヨシテ山東ト打合せサセルコ
トトス

福西ヨリ三井關係後ノコトニツキ話シアリ 岡田ニ対スル予防線ナリ

◆▼236ページ◆▼ 昭和13(1938)年8月14日(日)

天気晴

午前中工場 章氏モ午後兄カ岡田ニ会ヒニ行クトテ出懸ケル。安岡十一時頃帰ルア
トヲ頼ム

明日ノ支拂ハ兄ノ金ヲ一時借リルコトトシ清平ニ明日持タセテヨコス様ニス。B二四台二
十日迄ニ仕上ゲル爲メニ休ミヲ二十日後ニ延バスコトトス

二時ヨリ自動車ニテ八柱へ兄ト家内仁三郎和子照子デ行ク。塔婆ガ出来テ廻リモ出
來テ居タガ、マダ門ト下段ガ出来テ居ナカッタ

夕方奥山君來 第一機材ト格納庫別々ニシテホシイトノコト ソレハドラデモヨイカ
ラ價格モ君ノ方デ適當ニスル様ニス、メル

夕食後兄、清平ト会社ノコトニツキ話シ合フ

▲▼237ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月15日(月)

天気晴

章氏本社行キ 自分工場 阿部君來テ貰フコトニ電話シテ明日トキメル

大坂ノグライダー競技大会参加ノ爲メ肥田木久田、職工吉野出張ス 島東京ヨリ出
張手當十日分十五円ヅ、支給スルコトトス

奈良原氏モ今夜出發スル由

本日ノ工場支拂ヒニ対シ八百円兄ノ金ヲ融通ス 本社ノ方ハ延小切手ノ由 困ツタモノ
ダ

辻本氏検査ニ來 安岡夕食ニ同伴ス 豊田君來 共ニ行ク行ク

▲▼238ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月16日(火)

天気晴

工場員佐藤己代吉動員アリ 一時出發式ヲ行ヒ京成津田沼駅迄賑カニ送ラセラル

女工ト太田ノ組本日出 Bニヲ急グ

足立君夜來 タゞ見ニ來タダケデ材料其他ノ打合セヲナシ十七、八、九、完成ノコトト
シテ帰ル 十円車馬賃トシテ渡ス

清平今夜八時半ニテ大坂へ行ク

夕方青木來 旭へ高度計速度計ヲ持ッテ行ク

▲▼239ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月17日(水)

天気 晴ニワカ雨

工場出 女工大ニ働ク 二台完成ノ見込ミ立ツ

章氏ト上京 本社ニヨル 岡田氏獨リ居リマダ会エヌトノコトデアッタ 自分ハ研究所へ

行キ木村氏ニ會フ 所長宛小林君ヲ貫ヒタイトノ云フ願書ヲ出シテ呉レトノコトデアツタ 下記キヲ貰フ 練習機胴体ハ鋼管製ニシテ貰フコトトス 本社ニ帰りタイプヲ打タセテ居イテ帰場

四時安岡ツヒニ帰ラズ 誠ニ不都合千万デアッタ。夕方モ夜モ工場見ニ行ク 女工ハ大ニヨカッタ 太田組モヨカッタガ角組ハ○

清平ヨリC六大坂着ヲ知ラセテ呉レトノコトデアッタ

▲▼240ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月18日(木)

天気 曇リ

安岡帰ラズ 宇賀、太田、角休 正午B二機完成 写真取り局へ持参サセル 夜取りニ來ル由 荷造リヲナス

終日イソガシイ思ラシタ

四時頃小林君來 明日カラ出社ノコト

夕方終リテ兄ト帰宅 早ク床ニ入ル

女工今度ノ努力ハ非常ナモノデアッタノデ祝儀ヲ出ス ツヒデB二ニ努力シタ金工八名ニモヤル 一人當リ五十錢ヅ、

▲▼241ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月19日(金)

天気 晴

終日在所 章氏モ工場 三井イヨ、ダメラシイ予感ノ由 明日ノ約手手配出來ズ

岡田ハ或ハ不渡リヲ出スカモ知レヌ由 自今朝八時福西へ電話シテ労ヲネギライナガラ聞イタガ野口モ金融モマダノ由 今日本社へ行クトノコト。本社デハ十一時頃章氏電話

シタ處タレモ居ラズ 岡田、副社長ハ小沢氏來 共ニ出タ由。今日少シモ金ガナイノデ

鈴木へアブロン金交渉サセタガ明日トノコト二百円兄ヨリ借りテ章氏ニ渡ス 夕方清平

ヨリ電報アリ B二ノ引渡シト小野氏ニ金ノ件タノム様返電ス。生駒ヨリTCノ垂直安

定板破損シタ由電報アリ 夜中清水ヨリバルクヘット取りニ行クトノ入電アリ 章氏ト

善后策ニツキ協議ス

▲▼242ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月20日(土)

天気 晴

朝早ク一番デ船橋ニ行ク 奥山君ニ會フ 之レカラ中島へ行クトノコト ヤハリ部品ラシ

イト見タ 大矢君ガ明日帰ッテ來テカラ決定注文スルコトニナル由 第一ノ方ハ一寸遅

レルトノコトデアッタ。章氏ニ立寄り東京へ行ッテ貰フコトトス 工場へ帰ッたら清水ガ來

テ居タ 角ヲ貸シテ呉レトノコトニヤルコトニス。岡田氏今日出發スルトノコトニ本社へ行く 四時半頃迄待ツ 野口ニ會ヒニ行ツテ居タ由 野口ノ方ハ三井直接デナラ中島ヲ通ジテ出スコトニナル由ニテ月曜日カ火曜日迄ニ中島カラ會見ヲ申込み由ニツキ居テ貰ヒタイトノコト 章氏ノ話シヲ聞クト少シ不安ノ點アリ 岡田ニ聞クト最モラシイ。廿五日ニ先付小切手ガ出テ居ルノデ其支拂等ニツキ協会ノヲ間ニ合セルコト等打合セテ帰ル

▲▼243ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月21日(日)

天気晴

兄帰坂スルノデ仁三郎同行ス 東京迄久次郎徳次送りニ行ク 八時半發午後四時半着

夜電話シテ呉レトノコトニ清平ニ電話スル 小野氏ノ話シ金六支拂フガ霧ヶ峯デ朝日ガ非常ニ當方ノ機体ニ対シテ悪感ヲ持シテ居ルノデ遠慮シテ居ルトノコトデアッタ 兎ニ角明日連絡ノ爲メ大坂ニ居ル様ニス

九時頃工場ニヨリ醫者ニ行ク 丁度十本目 腸ノ薬ノ方モヤメル。検査ノ爲メ血脈ヲ取ル 帰宅 横ニナル 午後山東君新妻ヲ連レテ來 晝食ヲ出ス 二時過ぎ稲毛迄行クトテ出ル

▲▼244ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月22日(月)

天気晴

工場デ章氏ニ會ヒ安岡ニ六練習ニ行ツテ居タノデ用件ヲ書キ残シ上京 本社ニヨリ帝国飛行協会最后ノ一台ノ写真等青木ニ渡し、飛行協会ニ行ク 霧ヶ峯カラ持ツテ帰ツタ桁ノ折レヲ見タガ之レハ説明ノ様ナコトデ折レルワケガナイ。静岡ノ分ノ塗料ガバリ、割レルノハヨクナカッタ アトハゴムガ切レタモノデアッタ 石橋ニモ會。高草木氏ト金ノ件ニツキ相談 五千円余リノ内四千円ダケ貰ヒタイ ツイテハ小野サンノ承認ヲ貰ツテ呉レトノコトニ、帰社 大坂へ電話ト電報ヲ出ス。研究所へ電話スル 小川氏在所 スグ行キ小林君ヲ貰ヒタイ 書類ヲ提出 田中先生ニモ會フ 帰社スルトスグ小林君カラ電話アリ 木村氏ト共ニ一度會ヒタイトノコト ドウモ變ダト思ツタガ明日晝社へ電話カケテ貰フコトニス

福西氏來タソウダガ電話スルトテ帰ツテ會ワズ 六時過ぎ迄來ラズ。高見ノ倅ニ會テ帰ル

夜清平ヨリ小野氏ノ承認ヲ得タ電話デ云ツテケレル由電報アリ

▲▼245ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月23日(火)

天気晴

大坂行ノ準備シテ八時半工場出 章氏スデニ來テ居タ 無尾ゴム二本デヤツタガ融(マ
マ)陸セズ 考ヘルコト

章氏同道上京 本社ニツイテ協会へ電話シタガ高草木休ミ 崎本ニ話ス 小野氏ヨリ何
等通知ナシトノコト 更ニ夕方電話シタガ崎本スデニ帰り電話係リニ聞イタガ小野氏ヨ
リ電話ナシトノコト 六時ニナツテモ清平帰ラズ 下宿へ電話シタガヤハリ帰ラズ 明日
ノコトハ章氏ニ依頼シ八時半出發スルコトトス

三時過ギ福西、章氏ト三越ニ行ク 四時二十分迄待ツタガ野口ツヒニ現ワレズ 帰社
後第二ノ対策ノ必要ナキヤヲ福西ニ聞ク 絶対ニイラヌトノコトデアッタ。章氏ニハ佐渡
島ヲ入レル第二案ニツキ富尾側トシテ幾等出資出來ルカラ聞ク 同氏ハ之レニ対シ佐渡
島カラ、イクラ出スカライクラ出セト云ツテ貫ヒタイトノコトデアッタ

清平宛今夜最(ママ)非立ト打電ス。京都ステションホテルノ富尾岡田宛明朝アイタシト
打電ス。八時半乗車

▲▼246ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月24日(水)

天気晴

六時十七分京都着 ホームニ來テ居テ呉レタラ次ギノ急行ニ乗レタガ來テ居ナイノデ、
ホテルニ行ク 午後一時デ立ツ由 野口來ナイコトヲ話シ小野少将ノ方ハ九時ニ梅田ホ
テルへ電話スルコトニ打合せ、電車ニテ大坂へ四十五分 スグ梅田ホテルへ奈良原氏ニ會フ
小野氏一昨夜兄ガ馳走ニテ昨日一日沈ボツ 今朝奈良原氏ト帰ツタ由 其爲メ電話
セズ今朝写真電報打ツタ由 夕方〇トシタ 三井心配ナイトノ入電アリ

羽太氏南京ノ帰リトテ來 山崎氏朝會フ 午後一時帰ル由 南甫園ニテ大毎主催ノ
宴會 九時終ツテ帰ル

▲▼247ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月25日(木)

天気晴

五時半起床 久シ振りニラジオ体操ヲ行フ 近來大分元気ニタツタノデ少シ運動シタ
方ガ宜サソウニ思レタ 九時半梅田ホテルニ行キ横山、藤田両少佐ト奈良原氏デ楯津
ニ行キ十一時ヨリ閉會式 正午午餐ヲ共ニシ分レル。奈良原氏ト中山氏ニ會ヒ今迄ノ
経過ヲ話シ相談ニ乗ツテ貰フコトトス 來月十日迄ハ大坂ニ居ル由。後子佐渡島ニ行キ三
井ノ方マダ思ヒ切レズニヤツテ居ルノデ、ソノ方手ヲ切ル迄待機スルコトヲ申合ス 辭職
届ハヤハリ當方自分保(ママ)故スルコトニ話シテ居ク 帰宅 新世界ニモ顔出シシ六時ヨ
リ兄ノ招待デ津田沼係ノ者全部十二三名ヲ南海支那食堂ニ集メ會食。張竹中等モ
出席。九時一分發ニテ奈良原氏ト出發 角、仁三郎其他九時ニ乗レオクレル

◆▼248ページ◆▼ 昭和13(1938)年8月26日(金)

天気 曇り雨

五時頃目ヲ醒シ洗顔朝食 利根川君來 七時四十五分東京駅着 時間ガ早イノデ次ギノ到着ヲ待ツ 八時半一同到着ス。本社ニ行ク 午後役員会ヲヤルトノコトニ待ツ間 一時間程横ニナル 岡田氏ニ二三井へ直接ブツカッテ見様ト提案ス 結局福西ヨリ野ロヲアオラセルトノコトデアッタ。ソレデハドコ迄行ツテモ同ジコトデアル 午後会合 月末ニ対シ章氏提案ニヨリ株券デ融通スルコト 其方法ハ先章氏知り合ノ足立氏ニ交渉 尚福西氏ヨリ例ノ木綿問屋サンへ話ス由。岩間君ニモ何ニカ心當リアリトノコト 株券ハ国産ヨリ三万円提出スル由 外ニ岩間南ノ友人關係ヨリ片倉へ話シアリ 近日會ヒタイ由 六時頃清平ト帰ル

◆▼249ページ◆▼ 昭和13(1938)年8月27日(土)

天気 曇り晴雨

明日館林製作所見学ヲ命ジ晝頃章氏小林ト上京 本社ニヨル 福西來 小川ヨリ一万五千円借りルコト決定ス 利子二十銭ハ高カッタ 内五千円ト三千円ノ手形ヲ落シ五千円ガ廿九日ノ支拂ヒニアテラレル筈 章氏同道東京高工荏原分教場ニ滑空機製作講習会ヲ見ニ行ク 校長築島氏ヨリ工場経営上有益ナ御話シヲ聞ク。今日カラ女工七名泊ルコト 明後日文科大臣來ル由。山崎氏ト三人デ羽田事故ノ操縦士五名ヲ祭ル本町自性院へ行ク 丁度山口君ガ居タ田中ノ兄ト云フノニモ會フ 今日迄丁度五十名ニナッタ由 東日ニ寄り夜十一時五十分發ニテ奈良原氏ト霧ヶ峯へ出發ス 其間朝日ニユースヲ見後チ清平ト會フ 遇(ママ)然飯沼ニ會ヒオデンヤデ話ス 來月十日格納庫開ヲナス由

◆▼250ページ◆▼ 昭和13(1938)年8月28日(日)

天気 晴

五時目ヲ醒シ洗顔ス 七時上諏訪着。空ノ萩原君ト三人デ一度鷺ノ湯ニ入り朝食後自動車デ上ル 霧ハ次第ニ晴レタガ風強カッタガ第二会場ノ方デヤツテ居タ 晝食後下山 鷺ノ湯デ休ミ 二時四十分ニテ帰途ニツク 車中横山少佐ニ會フ 中々コム 出征ガ多カッタ 九時半帰宅ス アト奈良原氏ニ五十円渡シテ來ル

◆▼251ページ◆▼ 昭和13(1938)年8月29日(月)

天気 晴雨

八時過ぎ工場出 少シツカレヲ覺エタガ十一時半ヨリ鈴木ト羽田事故ノ合同葬ニ行ク
少シ遅レ二時ツク スデニドン、取方付中デアッタ爲メ御参リハ出來ナカッタガ誠意ダ
ケハ通ジタデアロウ 帰途本社ニヨル 月給ヲ受取り尚出張旅費計算ヲナシ内金五十
円ダケ山東ヨリ受取ル 章氏マダ居タガスグ出カケタ 現金ニナルノガ遅レタラシイ
四時野口ニ會ヒ三福西、岡田、留雄四人デ例ノ三越ニ行ク 中々自信タツプリノ言葉
デアッタガ何ントナクタヨリナイ、上ニウタガエバハリウタガヒ得ル素振りモ感ジラレタ。
監督班長ハ三井ノ方カラ話シテアル筈ダトノコトデハ、ソレヲ、タシカメテ貰フ様タノム
歸リニ第一二一寸立寄り帰宅ス 今夜山口福岡へ行ク由

▲▼2552ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月30日(火)

天気 晴雨

昨日カラ風気味デアッタガ夜中ニセキガ出來テヨク眠レナカッタ 午前中自宅ニ居ル
四ノ宮ノ甲四ノ件ニテ安岡來 午後工場ニ出ル 章氏ヨリ今村解雇方ニツキ相談アリ
考慮スルコトトシテ分レル
夕方安岡ヲ呼び協議ス 工場革新ニツキ考慮シ且ツ若イモノダケデ立案ヲ命ズ

▲▼2553ページ▲▼ 昭和13(1938)年8月31日(水)

天気 曇雨

颱風來 夜半房総ニ上陸スル由

朝山川航空官ニ呼バレ上京ス 瓦斯電ノ井上氏先着シ居リ終ッテカラ會見 別ニ之レト
云フ用件デハナイガトテ工場ノ現況ニツキ聞カレ、クワシク話ス 千鳥出來ナイダロウナ
トノコトデアッタガ出來ル旨強調ス 尚一度工場ヲ見テ貰フコト。プライマリーノ製作
ニツキ各縣廳デ一年分ノ予約募集シテ各製作所ニ割當ルコトヲ話ス 非常ニ協賛成
シテ尽力シヨウトノコトデアッタ 帰途本社ニヨリ正午工場ニ歸ル 今朝、安岡ヨリ岩垣
小林ニ工場革新案ニツキ打合セタル處小林ハ相當大ゲサナ意見ヲ有シ四五日マトメル
迄待ツテ呉レトノコト 尚同意見ガ通ルカ通ラヌカニヨツテ進退ヲモ決シナケレバナラナ
イトノコトデアッタ由 少シ生意気ダカラ出花ヲ一度タタイテ居ク必要アリ
夕方戸シマリヲ廠ニシテ歸ル

▲▼2555ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月1日(木)

天気 颱風

午前四時前后最モハゲシク明ルクナッテカラハ次第第二弱クナル 東北ノ風ト思ッテ居タラ

東南デアツタ 明ルクナル頃八南ニナツテ居タ 氣ニナルノデ工場へ行ツテ見ル 宿直ノモノガ大分奮闘シテ居タ 事ム所ガ二階ノ窓カラ吹き込シダ水デ二寸位タマツテ居タ 臨時休業トナス 電気モ來ナイ

颱風昨夜ノ放送デハ房総半島ニ上陸ストノコトデアツタガ事実ハ横浜ノ西方ニ上陸 爲メニ東京方面ノ方ガ反ツテヒドカッタ様ダ 例ニヨリ被害ハカナリアツタ 颱風ハ七百三十五ミリ 風速東京三十一米 熊谷ヨリ新潟方面へ出ル
午後奈良原氏來

▲▼256ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月2日(金)

天気 曇雨

颱風ノアトト云フノニ天氣定マラズ

章氏早ク來タ。三井ノ方ダメノ場合山田ノ方デヤルトノコトデアツタ。尚場合ニヨツテハ一万五千円ダケ借リテ工場ダケ獨立ラ計ルコト。

小林岩垣等若イモノニ計畫ヲヤラセルコト等ヲ打合せ 同氏ハ和波中將ノ見舞ニ上京ス 小林氏來 立案ニツキ打合せヲナス
船橋へ家ヲ見ニ行ク

▲▼257ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月3日(土)

天気 曇リ後晴

新颱風南洋ニ現ワル

八時出社 章氏來 早引ケシテ帰ル

小林ヨリ工場ノ改善ニツキ口頭ニテ話シアリタリ。四五日休マセテ貫ヒタイトノコトニ許可ス

竹崎ノ十年四ノ宮へ譲ルコトニ決定 百円手金山口ニ持タセテヤル

奥山來 一三式整備ノ話シツヒニ式機共コチラノヲ整備シテ六千円 一台分ノ計器ト式台分ノ不足部品全部ハ局デ持チ弍千円 内金一台出來テ弍千円 アト弍千円ト云フコトデ明後日決定ノコト

▲▼258ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月4日(日)

天気 晴

久シ振リノ快晴

試作機二号C六型試飛行 ゴムニテ安岡ニ回飛行 頗ル良シ 三回目飛行機曳行ヲ行フ 過流ニ入ツテ直線ニテ終リ 次ギニ肥田木ニヤラセル ゴム一回スグ曳行 二百六十

米ニテ離ダツ 四分余ニテ着陸 氣ニナツタ補助翼モヨクキク
山崎氏早クヨリ來 晝食ヲ宅ニテ安岡、山崎、肥田木、清平、木下ト共ニス。三時半ヨ
リ醫者ニ行キ注射ヲ初メル 少シ残ツテ居ルトノコトデアッタ 久次郎モ同行ス 耳ハ直
ツタ由。帰ツテ床ニツク
夜清平帰ル 協会、文部省、其他打合ス

▲▼259ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月5日(月)

天気 晴後曇

颱風兵庫縣ニ上陸 鳥取方面ニヌケル 當地方安心 関西ニ高潮アリ 大阪三分ノ一
水ニツカル 神戸港アレル
終日在所 奥山來ヲ待ツ 朝電話アリ午後行クトノコトデ待機セシモ明日夕方ニナル
トノ通知アリ

朝日中野氏ヨリ電話アリ C六譲リ受ケタイノデ今日行クトノコト。明日ナラコチラカ
ラ行クト云ツタガ來ルトノコトデ待ツタガ之レモ來ラズ

四時散髪ニ行キテ帰宅ス

工場改造策ニツキ案ヲツクル

章氏今朝五百円鷺津ニ持參サセ上京 午後本社へ電話シタガ山東ト女ノ外一人モ居
ラズ支拂出來ナイラシイ ドンナコトニシタノカ

▲▼260ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月6日(火)

天気 曇風雨

降タリ止ンダリ無気味ナ天氣デアッタ

奥山ノ一三タ方來テ呉レトノコトデ行ク 明日契約スル 三千円渡シテモヨイカラ今月
中ニ一台間ニ合セテ貰ヒタイトノコトデアッタ 出來ルダケヤツテ見ルコトニシテ三田浜
デ夕食ノ馳走ニナリ帰ル 帰宅九時

海洋團ノ萩原氏來 五百円位デ三式整備シテ貰ヒタイトノコト 部品一切ハ持ツテ來
ル 修理箇所増加ノ場合ハ別ニ考慮スル由

章氏來 材料購入コチラデヤルコト 局関係同ジク自分ノ考ヘヲ話ス

午前局ニ行ク 坂本氏ニ會フ 朝日トノ話シ貸與ダトノコト 朝日ニ行ク 立川デ使用
シタク一ヶ月ノ予定ノ由 東日ニ立寄り帰社

▲▼261ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月7日(水)

天気 晴

今日ハイソガシカッタ 風ヤ、強カッタガ辻本氏來 C六試験 奈良原、清水、利根川、萱場ノ原技師來 山崎氏來 C六補助翼キカス器構改造スルコトナリ改造計畫ニ夕方迄カ、ル

中沢長二郎來 十円ヤル

七時帰宅 夕食

弘中ヨリ明日返事來タノデ発動機ノ調査ヲ清平ニ命ズ

▲▼262ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月8日(木)

天気晴

朝上京 福西ニヨリ清平昇給ノコト 立替金結婚費用ノコト 野口ノコト(十五日迄ニ決定スルコトニナツテ居ル由) 工場改造ノコト等ニツキ会谈。然シ福西ニモ會フ 元氣ガナサソウデアッタ。青龍社展ニ見ル 作品全部デ四十點位ダカラ見ルニ丁度ヨカッタ 院展ノ様ニ多イトアキテシマウ 入場券代リノ説明書モヨカッタ ユツクリ皆頭ニ這入ッタ。本社ニヨル 岩間一人 他重役居ラズ山東岸田、等

一時半ヨリ小笠原中将葬儀ニ行ク 終ツテ渡辺一英ヲ待チ合セ赤坂ノカフェーニヨリ懇談 例ノ意氣デ組合攻撃ヲヤツテ居タノデソレハソツトシテ工場広告ヲ出シテヤルコトトス。四時船橋着 奥山ト同道工場ニ行キ一三式機契約ヲナス 半金三千元受取ル

▲▼263ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月9日(金)

天気 晴後雨

工場 十二時頃萱場四郎氏泉君木村君來 無尾、人ヲ下ゲテ重心位置ヲ一米四百六十二合スコトニ決定ス 晝食後二時半サソワレテ船橋ニ行キ 三田浜樂園ヨリ女三人ヲ乗セ、アミ打ニ出ル 萱場氏打テルト思ツテ船頭ダケシカ組マナカッタ處、ヨク打テズ泉君ト二人デ女ノ頭カラアミヲカブセル珍藝ナドアリ。クラクナツテ帰り一サワギシテ十時散會 萱場氏支拂フト云ツテ居タガ、拂ツテ居ク 六十余円 船四円一寸 七十円余リカ、ッタ 出ガケニ章氏が余リツカワナイ様ニトノ言葉ガアッタ 十一時帰宅。安岡帰ラズ

▲▼264ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月10日(土)

天気 晴

昨日章氏何ニカ事ム員全体ニ當リチラシテ明日カラ出ナイト云ツテ帰ツタ由 困ツタ人ダ 余リ正直過ぎル

安岡又今日モ帰ラズ 之レモ原因ノ一ツノ由

朝予定ニヨリ成田山参拝 製作機ノ無事ヲ祈願シ御札五十枚ヲ受ケテ帰ル 正午
二時半迄工場ニテ一三不足部品ノ件奥山へ電話 明日局提出ノ圖面 C六改造圖ヲ
作ルコトヲ命ズ 帰宅ノ上湯浴シテ醫者ニ行ク 第二回目注射 今日ハ氣持チ悪カッタ
スグ床ニツキ夕食後モ早ク眠ル

▲▼265ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月11日(日)

天気晴

安岡今日モ帰ラズ家内カラモ心配シテ聞合セニ來タ 午後宇賀東京へ見ニヤル
章氏九時過ぎ出勤 出勤簿ヲ嚴重ニシタ様デアッタ デモ出テ來タノデー安心ス
今日ハ朝高野ト云フノガ來 元河野木工場ノ鎌倉河岸ノ店ニ居タコトガアルトノコトデ
大貫氏ノ野心ノ犠牲ニナッタラシイ 氣ノ毒ナ人ト思フ。セロハンノ人二人來 晝前帰ル
一時頃奈良原氏更ニ二人連レテ來 食事ヲ出シテ呉レト コレニ困ツタガ色々セロハン
ノ智識ヲ得タ

富尾氏松戸へ行クトテ三時頃帰ル

大連ノサル羽田ニツイタカラ明日取リニコイトノコト 手配ス 後東日ニタノム 明後日
ニナル由 今日運賃百二十円ばかり持參サセル 旭へ一三ノ部品見ニヤル

▲▼266ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月12日(月)

天気晴

安岡帰ル 第一ノ買人ハ東京高工トノコトデアッタ 注意ヲ與ヘル
小林君來 昨日木村氏ト會ツタ由 ヤハリ松山ガ出來飛行機ヲヤル予定ガ出來ナイノ
デ止メタイ希望ヲ持ツテ居タ由 練習機ヲヤルコトデアツテ來ルコトニナッタラシイ
今日カラ早速工場改革案ヲ作り初メル
辻本氏來 C六補助翼今度ハ重過ギルトノコトデ又ダメ D一ノ内部検査終ル
章氏出社ナシ

▲▼267ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月13日(火)

天気晴

▲▼268ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月14日(水)

天気晴

朝福西へ電話スル 今日アタリ相談シタイ事ガアルトノコト
午後 役員会ヲ開クコトトナル 章氏ト上京ス 三時ヨリ会議ヲ開ク 副社長、岡田、
福西、章、氏ト五人 岡田ヨリ経過話シアリ 結局今日迄ノ處依然トシテ進行シテ居
ラナイノデ自分ニ固(マ)人的ニ中島へ聞合セルコトトナル
午前日本飛行機ヨリ電話アリ 明日多田サント東京デ会见スルコトトス 部品ノ製作
ヲヤツテ貰ヒタイトノコトデアッタ 此方ガ有望カモシレナイ
船橋迄帰ツテ空襲警報デ一時間バカリ自動車動カズ 七時半頃帰宅シタ
奈良原氏福西へ二百円借金ヲ申込ミ百円貰ツタトノコト 福西ノ話シ。何ニ其金ガ入
ルノカ不思議デアタマラナイ

◆▼269ページ◆▼ 昭和13(1938)年9月15日(木)

天気 晴

五時半起床 昨日カララジオ体操ヲ初メル
時間前工場出 国旗掲揚ニ参列ス
八時半出発 上京 十時日本飛行機ニ行ク マダ來テ居ナカッタノデ其間ヲ利用シテ
東京工藝ニ行キ宮本氏飛永氏ニ會ヒ學生月収五十円ニナル様 日給ナレバ一日八十銭
ヤツテ呉レトノコトデキメテ居ク 宮本氏ニペンツノシヤフト交換ノ件ヲ依頼ス
十一時多田少将ニ會フ イキナリ三式ノ翼ヲヤツテ貰ヒタイトノコト 有難カッタ 小
サイモノハ今相羽ノ處デアツテ居ルトノコト 出來ダケ早ク監督官ニ來テ貰フコトニキメ
テ中島ノ中村氏訪問 物産ノ人カラ話シハ一寸聞イタガ内容ハ知ラヌ ソウ云フコトハ
社長以外ニ絶対ニシラセナイソウダ 之レダケ聞イテ東日ニヨリ本社ニ行ク 味ノ素ビ
ルニ居ルトノコトニ行ク 国産ノ資本家高谷氏ト会食 明日工場へ來ル由。木村氏ト連
絡 田中、小川氏モ明日來ルコトトナル
今日ハ非常ニ愉快ナリデアッタ

◆▼270ページ◆▼ 昭和13(1938)年9月16日(金)

天気 曇雨

時事 防空演習最ノ日

今日ハ來客日 章氏ニ昨日ノ経過ヲ話ス 松原大佐外ニ名來場 見積書ト不足部品
書イテ渡ス

十時過ぎ、田中、小川、木村氏來 清平小林共ニ來 工場見テ十一時過ぎ三田浜へ送
リ雨がポロツイタノデ船ニ艘ヲタノミ送り出シテ自分ダケ帰社 晝食 二時頃福西來
後チ岡田、留雄両氏ト客二人晝食ガ間ニ合フ 福西岡田ト打合セ海軍ヲ進メルコトニ
決定 三井ハ成行ニマカセ他ニハ資金工作ハシナイコト。岩間君ノ今ヤツテ居ル片倉ハコト

ワルコトニキマル。佐渡島ヨリ手紙來 皆ニ見セル
夕方帰ル 五時過ぎ清平ヨリ 電話アリ 三田浜ニ行ク
十二時帰宅 田中、小川氏泊ル

◆▼271ページ◆▼ 昭和13(1938)年9月17日(土)

天気 晴

九時出社 安岡ニ工場改革方針ニツキ指示ス 來週早々決定スベキコト
奈良原氏ヨリ車中便り受取ル
夕方尾崎君小野ヒアノノ人二人連れて來 色々話シ工場ヲ案内ス
山崎君來 D一前縁合板張り方ニツキ勝手ニ変更シタコトニツキ抗議ヲ申込デ來タノ
デスク張替サセルコトニ言明シタガ結局明日考慮ノ上返事スルトノコトデアッタ
大坂ノ佐渡島ヨリ電話シテ呉レトノ電報アリ 船橋カラデナイト懸ラナイノデ山崎、
角ヲ連レテ樂園ニ行キ芦屋へ電話ス
十九日ノ会合小サク固クヤルナラ行クガソレガ決定シナイナラ行カナイ方ガヨイトノコ
トニマダ十九日ニハ決定出來兼ルト思ッタノデ委任状ヲ送ッテ貰フコトス

◆▼272ページ◆▼ 昭和13(1938)年9月18日(日)

天気 快晴

快晴ノ第三日曜

工場二十時行ク 大牧來テ居タ 醫者ニ行キ正午帰ル
福島良子工場見學ニ弟ヲ連レテ來
御祭リノオマンジウニケ、フカシ立ハウマカッタ 晝食ノ代リトシテ 床ニ入ル
三時頃清平來 八時帰ル
会社ノ方針積極力消極力決定ノ必要アリ考慮ス

◆▼273ページ◆▼ 昭和13(1938)年9月19日(月)

天気 晴

午前中工場 十一時ヨリ上京 会社役員会ニ出席 正午カラト予定ガ三時トノコトニ
其間航空局ニ行キ士官學校ノ件飯塚及青木航空官ニ札ヲ述ベ山川氏ニ挨拶シテ帰ル。
朝日ノ鈴木氏來 其ノ話シヲ聞キタイトノコトデアッタ 次ギニシテ貰フ
三時ヨリ役員会 三井ノ件発表ヲ十日間以内トキメテ速(ママ)進サセルコトトキメル。
片倉ノ方福西氏今日岩間ト同道 板野氏ト会見 スグ五十万円出ストノコトデアッタ
由之レモ返事ヲ一週間延バシテ來タトノコト 尚五時頃岩間氏先方へ行ク 明日午前

中野口氏ニ會フベク上京ノコトニキメル

▲▼274ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月20日(火)

天気 雨

朝出ガケニ仁三郎靴ガヒドクナツテ居ルノデ、カワイソウデアッタ ゴム靴ヲハカセヨウト思ツタガドウシテモ、ハカナカッタ 學校デシカラルカヲトノコト

工場出 安岡ヨリ第一ノ件聞キ注意ヲ與ヘル 今日粕谷來ルトノコトデアッタガツヒニ來ナカッタ 正カサンガ買フト云フコトハ一寸考ヘラレナイ

章氏ト上京 三越ニテ野口氏ニ會フ 晝食ヲ共ニス 岡田氏ヨリ野口氏ニ急グ理由ヲコソ、話ス。ソレデモドコヤラハレモノニサワル様ナ話シ方デハガユカッタ 一週間内ニキメテ返事スルトノコトデアッタガ、ソシナ話シハナカッタ様デ何シモ云ワナカッタ。野口ノ返事ハ頗ルタヨリナイモノデアッタ 辨藏氏見三行ツタラマダ來テ居ナイトノコト 夕方又會フトノコトデアッタガ自分ハ先キニ帰ル 海軍ノ爲メノ工場職工調査ヲ行ツテ居ク小林今日來タガスグ本社ヘ行ツタトノコト

矢野ノ母危篤デスグ行クラシイ

▲▼275ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月21日(水)

天気 晴

終日在所 工場員中今月昇給者ノ件決定ス

午後宗里ソノ君來 粕屋明日來ルカラ委任状云々トノコトデアッタ由ダガ取引ト同時ニスルコトトス

▲▼276ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月22日(木)

天気 晴

終日工場 昨日一三洲崎ニケ片脚ヤハラカイ處ニ入り逆立。ペラヲ折リ日本飛行學校デ借りタ由

TC十時クレムニ引見 清水操縦立川ヘ飛行 十時四十分着 離脱後三十分飛ンダ由 今日助川金工ペンズデ負傷 原因ハ上ノハンドルヲ持ツテ居タ小供ガ休ミ時間ニ急イデ、放シタ爲メ作業中ノ手ヲ抜ク暇ナク、ハサマレタトノコトニ夕方全員ニ注意ヲ與ヘル

夜清平來 船橋ノ家借ルコトニホゞキメル 明日見ニ行ク筈。大坂ノ兄今夜立ツトノ入電アリ

▲▼277ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月23日(金)

天気 曇り

兄今朝本社へ來テ居ルノト洲崎ノ安岡へ六十円届ケル爲メ十時頃工場ヲ出ル 奈良原氏昨日朝鮮ヨリ帰ラレ來場 發明家石田急死 香奠五円呉レトノコト 渡ス 共ニ上京洲崎ニ行ク 田中ノ格納庫ハタオレタマ、ニナツテ居タ 亜細亜ハ更ニ立テ居タ 飛行場ハヒドイモノデアッタ。正午本社着 岡田氏清平、兄トグリルニテ晝食 一時半帰ル 章氏來テ居タ 副社長大坂へ不幸ノ爲メ出張中ノ由 金融ノ爲メ遅レタリトテ福西氏來金融ノ経過報告ナク福西ノ手デハダメトノコトデアッタ。廿六日岡田氏ト二人デ野村銀行へ行クコトニキメル 野口氏ヨリ三井関係スルコト発表シテモヨイトノ報告アリタリトテ発表 主トシテ岩間君ニ聞カセル爲 ソレ等モ初メテ聞クツモリ。然シ何ントナク、頼リナイモノデアッタ。七時兄ト帰宅

▲▼278ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月24日(土)

天気 雨

颱風來ニテ終日降ル

工場出 職工機械工補充ニツキ調査ス

岩垣本日ヨリ出勤 挨拶モナサズ不都合ナ奴ダ

章氏出社

午後三時ヨリ船橋清平ノ家ヲ見ニ行ク 四時ヨリ和子ノオサラエヲ見ニ行ク 初メデア

ツタ ニツ三ツ和子ノヲ見ル 思ツタヨリ、ウマクヤッタ 帰宅

安岡本日帰ラズ 三式航輸筑井行ク

▲▼279ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月25日(日)

天気 晴

工場出 午後二時頃安田氏宅ヨリ電話アリ 四五名デ行ツタカラ第一へ行ツテ貰ヒタ

イトノコトニ行ク 安岡、粕谷、家具家來テ居タ 長田ト其友人ト云フト來 三時半

頃デアッタ 結局手付金トシテ五百円受取り一週間内ニ取引ヲナスコトトシテ粕谷ニ

委任シテ五百円受取り内百円ヲ粕谷へ貸シノ型式デ渡ス ドコカエ行ケバヨイノダガ、

ソレハ中止ス 丁度木下君ガ來タノデ書類ナド書カセタ

合資会社ヨリ株式会社へノ不動産登記終ル

▲▼280ページ▲▼ 昭和13(1938)年9月26日(月)

天気 晴

時事 清平家ヲ持ツ

正午醫者ニ行ク 第四回目注射 此次ギニ血液ヲ調ベルトノコトデアッタ 一度工場ニ
帰り第一へ財産調べニ行キ、清平ノ家ニ行ク。荷物モ來テ丁度清平ハ工場へ行ツタアトデ
アッタ

奈良原氏朝來場 一時頃帰ラル

◆▼281ページ◆▼ 昭和13(1938)年9月27日(火)

天気 曇雨

検査官甲斐辻本外二名來場 ヒスパノ發動機ダケ残りアト全部済ム 夕方六時二ナツ
タ 食事フト思ツタガ甲斐氏辭退サレタノデ中止ス

朝福西へ電話スル 用事ガアレバ知ラセテ貰フ様ニ、暗ニ金ノ方ノ督促。ドウモ氣ニナル
ノデ章氏上京シテ貰フ 夕方ノ章氏ノ電話デハマダ工作中ダガ皆ダメラシイトノコト
正午千葉中ノグライダー命名式ニ参列ス 式中雨デビシヨヌレニナル 終ツタラ上ツタ
C六肥田木帰リテ試飛行ス
夕山崎氏來

◆▼282ページ◆▼ 昭和13(1938)年9月28日(水)

天気 曇リ

兄ト久次郎千葉ニ行キ久次郎名儀(ママ)ニテ登記終ル

朝日新ノアト仕事ヤルカヤラヌカヲ安岡長島ニヨク調査ヤルコトニキメル。太田、角、今
村、五十嵐ヲ呼びガゼリン膠着ニツキ注意ヲ喚起ス。Aニ主翼モトニ改造ノ件ヲ決定ス
大坂ヨリ紀小ノ友奥村君來 大分頭モウスクナツテ一寸見タノデハ分ラナカッタガ、ヤ
ハリヨク見ルト見覺エガヨミガエツテ來ル 東京へ出ルツモリヲ中止シ飛行機ニ乗セ工場デ
晝食ヲナシ午後宅へ連レテ行クツモリデ工場ノ用達ヲシテ居ル内急(ママ)ガシイト思ツ
テ帰ルト云ヒ出シ二時頃帰ツタ。本社ヨリ電話アリ 相談ガアルカラ章氏ト來テ呉レト
ノコト 章氏ハコレヨリ先キ本社ニ金出來ル見込ミナシトノコトニ多少デモ作ルベク上京シ
テ不在 自分ダケ行ク。手形ノ金ダケ四万円 其他ヲ合セルト五万円ニナルノデ国産
デ裏書キシテ居ル上ニアト三井ノ出來ル迄マカナウダケ出ス爲メ約十万円ト見テ工場
財團ヲ設定スル書類ダケデモ預ケテ居イテ貰ヒタイトノコト。先キ八山田ト相(ママ)像
サレル 止ムヲ得ザルコトトモ思ツタガ一抹ノ不安アリ 後チ福西ヨリ話シアリ 書類ダ
ケニシテ決議ニ何等カ付記スルコトトス。
帰りハ清平ト宅ニヨリ兄トモ相談ス

◆▼283ページ◆▼ 昭和13(1938)年9月29日(木)

天気晴

氣持ノヨイ上天気 毎朝ノ例デ神々ヤ佛壇ヲ拝シ今日ハ特ニ金ノ問題ヲ祈ル 三時頃ヨリ目醒メ対策ニツキ考ヘ手帳ニシルス 朝ガタ少シ眠ル

一番ニテ章氏訪問 其前安岡ヲ呼ビ今日ノ給料支拂ヒ延期ニツキ打合セ延期理由ヲ作ル

章氏清平ト十時本社着 副社長福西ソロッタノガ十一時半 会議ト云フ程デナク決議録ニ工場財團設定 根抵當トシテ国産へ書キ入レルコトヲ得ルト云フコトヲ記載調印ス 自分ハ横浜ノ日本飛行機ニ行ク。相変ラズ親切ニ多田氏ヨリ監督官へモ照(ママ)介シ又プウノ発動機ニツイテハ各課長ヲ呼ンデ調査シ價格ハアトカラシラセテ呉レルコトニナル

仕事ノコトハ昭和ガヤルコトニナツテ二十台発注シタ。工場ハ海軍監督官ガ自カラ見ニ行クトノコトデアッタ由 ヨイノカ悪イノカ一寸判断ニ苦シム 照(ママ)介状ヲ貰ツテ帰ル

◆▼284ページ◆▼ 昭和13(1938)年9月30日(金)

天気晴

朝工場ニ出清平同道十時過ギ海軍監督官ニ行ク。シバラク待ツテ栗谷大佐ニ會フ。ヨク聞イテ呉レズ其内見ニ行クトノ氣ノナイ返事デアッタ。然シコレハ大ニ努力ノ必要アリ スグ局へ千田大佐、桜井少将ヲ頼ミニ行ツタガドチラモ會エズ。飯塚氏ニ會ヒD一朝日デ借リニ來タコトヲ話ス。本社ニ帰ル 章氏一人 四時丁度岡田氏帰リ今日ニ二万円借り日歩五錢 銀行へ一万円入レテ來タ由 スグ六千円ヲ受取り自動車デ工場ニ行ク 五時半 皆待ツテ居タ 山崎氏來 D一ウマク行カナイ由 補助翼ノ、リンク持ツテ帰ツタ由

兄清平ト食事ヲ共ニス 今夜十時デ帰ル由 タンバクルノ金貳百五十三円五十錢 島へノ立替四十円合計ニ対シ三百円渡ス 外ニ自分ノ紋付ヲ作ツテ貰フコトニシテ百円預ケル

◆▼285ページ◆▼ 十月

今後ノ方針確立ノコト

◆▼286ページ◆▼ 昭和13(1938)年10月1日(土)

天気晴

終日工場 朝章氏ヨリ小沢中将ヨリ佐倉少将トノ会见談アリ 年内遅クモ年度内ニ
二三百万ノ設備ヲセネバ來春ハ一應小工場ノ整理ヲスルトノコトノ由

今日上京 本社ヘ右報告ニ行ク。自分ハ工場ニ止マル 奥山ツヒニ來ラズ。安岡船橋ノ取
引ニ行ク 夕方電話アリ 月曜日東京ニテ公証ノ上取引スル由通知アリ ツヒニ歸ラズ

▲▼287ページ▲▼ 昭和13(1938)年10月2日(日)

天気 晴

六時工場ニ行ク 朝日ヨリC六取りニ來ルトノコトニ準備ス 八時九五、三型ニテ飛來
立川ヘ飛行ス

帰宅シタラ洋服屋ガ來テ居タガ考ヘテ見ルト清平ノモノガ急グノデ船橋ヘヤルトニス
自分ハ飯塚氏訪問スルトシテ家内ヲヤル。清平來 昨日章氏ノ報告デ早速金町ノ
工場見ニ行ツタ由 中々大キナモノデアッタトノコト

飯塚氏訪問 十一時 急イデ種々話ス。二三手配スル ソレトナク、グライダーノ需用
(ママ)数ニ対スル工場数ヲ話シ、コレ以上ノ増加ハ共タオレトナルコト、試作機ニ対スル試
作費ノコト 飯塚氏ノ手デヤル由ナレドモ、練習機デハ金ガ取レニクイガ、参考書類ハ出
シテ居クコト等 尚、局トシテハ民間機専門(ママ)工場ヲ作ルベク考慮サレテ居ルトノ話。
駒林氏渡欧ノ由

晝食ノ馳走ニナリ帰途、醫者ニ直行

帰宅 床ニイル 眠カッタ

▲▼288ページ▲▼ 昭和13(1938)年10月3日(月)

天気 曇リ

第一ノ取引今日スルトノコトデアッタガ何等通知ナシ

十一時ヨリ上京 飛行協会ニ小野少将ト会见。宗里ノ件、練習機ノ件、出田ノ件交
渉 宗里ノハ局ヨリ尚手ヲ廻スコト 練習機ノ願書出スコト 出田ノ方ハ、プライマリー
出スコトニナツテ居ルトノコトデ調べルト中止シタ分デアッタノデ、ソアラニ替テ貰フコ
トヲ依頼ス

本社ニ行ク 野口君ヲ正式囑托(ママ)ニキメ岩間君ニ照(ママ)介ス ソレダケニ夕方迄
カ、ル

七時半ノバスニテ歸ル

▲▼289ページ▲▼ 昭和13(1938)年10月4日(火)

天気 晴雨

今日局へ行ク予定ヲ余リ降ルノデ中止シ午前中工場ニテ金町ノ空工場ヲ中心ニ予算書ヲ作ル

午後一時半岡田氏來 章氏ト三人デ小沢閣下訪問 過日章氏ノ聞イタ話ヲ更ニ聞ク 倉片少将ノ談 大型機一千台分ノ部品ヲ一ヶ年ニ引受ケテ呉レルナラバ勲章ヲ申請シテモヨイト思ツテ居ル位デアルトノコト 一機分部品約式万円ノ由 成ベク年内ニ或ハ來春早々迄ニ設備スルコト。万一軍縮ノ場合ハ親会社ニテ損害保証ヲサセル 親会社ニ對シテハ軍ガストノコト。三井ノ話シハ小沢閣下カラシタノデ倉片閣下ハ知ラナカッタトノコト。之レハ章氏ノ聞キ違ヒデアッタ 結局來ル 八日倉片閣下ヲ岡田、自分、小沢氏ト訪問 三井ニ對シ倉片氏ヨリ以上ノ話シヲシテ貫フコトヲ依頼ニ行クコトトス。四時辭シテ京成デ帰ル 第一ニ立寄り明日取引ノ打合セラナス

▲▼290ページ▲▼ 昭和13(1938)年10月5日(水)

天気 晴

氣持チノヨイ秋晴レ

工場ニ出ル 章氏モ今日ハ八時半頃來タ 奈良原氏スデニ來テ居タ 共ニ上京 自分ハスグ局ニ行ク 千田サンニ宗里ノ件ト海軍ノ件タノム 快諾 スグ電話ヲカケテ呉レタ 尚今後ノ事ハ山川氏ニ頼メトノコトニ同氏ニモ依頼ス

本社ニテ宗里カラノ電話待ツタガカゝラズ。安岡へ聞合セタラ十時頃粕谷ハ先方へ行ツタトノコト 二時半船橋へ電話シタガマダ何等音沙汰ナイトノコト モウ今日ノコトニハナラナイト思ツタノデ三越デ植木ヲ見テ東日ニ行ク D一ノ件東日カラモ願書出サセル 夕方帰ル。局ヨリ福西ニ行キ昨日ノ話ヲシ土地ノ利用ニツキ注意シ尚野口促進ニツキベシタツス

岡田氏ニモ同様 特ニ販賣ニツキ注意ス

▲▼291ページ▲▼ 昭和13(1938)年10月6日(木)

天気 晴

終日工場 氣持チヨカッタ

本社行中止ス 章氏ニ拡張計畫ニツキ予定ヲ話シ職工募集計畫ノ急務ヲ告ゲル 兎ニ角八日ノ結果ニヨリ十一日ノ會議迄待ツテ呉レトノコトデアッタ 章氏ハ三井出來ナイト見テ居ルラシイ 然ラバ其対策如何ハスコブルアヤシイ

奈良原氏來 夕方下ノ空家ヲ見セル

山縣ヨリ二名來 一三式借り入契約原案ヲ作ル

予備航空團一二試飛行ヲ行フ

◆▼292ページ◆▼ 昭和13(1938)年10月7日(金)

天気 曇り晴

午前中工場 十一時奈良原氏ト上京 本社三正午秋田ノ伊藤氏來 會談 材料ノ件。
二時十分尾崎氏來 岡田氏ヲ照(ママ)介シ山田氏ト小野氏ノ關係モーターグライダ
ーノコトナド一應尾崎氏へ話シテ居ク 明夕ハ相羽ト飯沼ダケダトノコトデアッタ。四
時工場ニ帰ル 章氏松戸へ行ツタ由

朝安岡ヨリ吉田退職手當昨日章シ絶対ニ出サナイト云ツタ由 困ツタ人ダガアマリツ
ツコミ過ギルカラデ佐藤ヲ呼ビヨク云ヒ聞カセル 退職手當合資会社ノ分ハ株券デヤル
筈ダカラ余リツツコムコトハヨクナカロウト云ヒキカス

山東ヨリ帳簿ト合計ニツキ書類デ申出アリ 最モノコトバカリデアッタ 早速善處ヲ要
ス

◆▼293ページ◆▼ 昭和13(1938)年10月8日(土)

天気 晴

マレナ仲秋ノ満月デアッタ

午後三時頃、岡田、福西、野口、塚本來 小沢サンへ行く予定デアッタガ不在トノコト
ニ明朝十時御伺ヒスルコトキメル 要件ハ月曜日三井竹藏氏ガ或ハ代理人ガ監督班へ
行クトノコトニ其前ニ小沢氏ヨリ倉片閣下へヨク話シテ貰ヒタイトノ希望デアッタ

四時近藤大佐、石原大尉、福地清水氏來場 工場ヲ案内シ鈴木館へ安岡ニ送ラセ自
分モ六時十分前迄相手シテ尾崎氏ノ話ヲシ失礼ス

七時十分松崎本店着 一時間十分ノ遅延デアッタ 小野氏ガ尾崎氏ノ爲メニ開イタ
宴デアッタ 飯沼、北尾、相羽ト自分デアッタ 十時半終ル 昔話シニ花ガ咲キ仕事ノ
コトナド出ナカッタ 十二時帰宅

◆▼294ページ◆▼ 昭和13(1938)年10月9日(日)

天気 晴

岡田、福西、野口、塚本、來 塚本ヲノゾキ章氏ト小沢氏訪問 自分ハ残ル 十一日午
前中ニ小沢氏監督班へ行キ三井午後行ツテ貰フコトニナツタトノコトデアッタ 遅イ晝
食後帰ル

福西ニ話ス機会ナク山東ノ書類ヲ渡シ讀ンデ居イテ貰フ 明日行クコトトス
千葉稅務署員來 山東會フ

第一へ安田、粕谷來 津田沼へ來ルトノコトデアッタガコチラカラ行キ会フ 今月中待ツ

テ呉レトノコトデアッタガ、ソレハ今奈良原氏ノ話シ中ノモノアルコトヲ告ゲソレガ極ラ
ナイ中ハ待ツコトトシ、万一キマル場合ニモ一應御コトワリシテキメルコトヲ約ス
四時醫者ニ行キ帰宅
夕食時風呂屋ヨリ一銭値上ノ件話シアリタリ

◆▼295ページ◆▼ 昭和13(1938)年10月10日(月)

天気 晴

朝九時海軍監督班着 モウ自動車デ道路ハ一杯ニナツテ居タ 栗屋大佐ニ面会 職工
数ナド現状ヲ書イタモノヲ持ツテ行 実ニ氣ノナイ返事デアッタ 協会ニ行キ小野サン
ノ來ルノヲ待チ、文部省ノ件ヲ聞ク 書類ヲ返シタノハ報告書ガ不備ノ爲メデ報告書
ガ出レバ、ソレデヨイトノコトデアッタ。桐生へ行ク必要ガナクナッタノデ福西ニ行キ山
東ノ書類受取り申儀書ハ福西カラ出ストノコトデアッタ 三井出資五十万限度位ラシ
イトノコトデ今日野ロカラ話シガアル筈ノ由。航空局へ行ク 山川氏不在 千田サンニ
會ヒ栗屋大佐ノ件話シテ居ク。清平ニ會フ 文部省ノコト話シテ居ク

◆▼296ページ◆▼ 昭和13(1938)年10月11日(火)

天気 晴

熱イ日デアッタ

午前中工場 陸士グライダー取りニ來ル 佐原中學校長來場 出カケル處デアッタノ
デ安岡ニ會ツテ貰フ 章氏ト十一時ヨリ上京 清平又寝テ居ルトノコトニ立寄ル 本社
ニ行ク 誰レモ居ラズ 航空局ニ山川氏訪問 海軍監督班へ出シタト同ジ書類ヲ提出。
福原監理部長ニ會ヒ現況ヲ一寸話シ練習機ヲ作ルコトモ話シテ居ク
文部省ニ関口氏ニ會ヒ尚課長ニモ會ヒ金ノコトハ云ワズアト残品ト交換デ仕上ゲルコト
ノ申出ヲナス 大変嬉(ママ)ンデ呉レタ
三時半本社ニ歸ル 小沢サン歸ル處デアッタ 三井來ラズ 止ムナク野口君ヲ三井ノ代
理トシテ倉片サンへ行ツテ貰ツタトノコト
野口ヨリ野口ヲ取締役 塚本ヲ監査役ニ外ニ一時金ト月給ヲ貰ヒタイトノ申出アリ
協議ノ上三井ノ方決定ノ上決定スルコトトシテ福西岡田ヨリ返事シテ貰フ 章氏右申
出中ニ歸ツテシマッタ
島安博大坂ヨリ歸ル

◆▼297ページ◆▼ 昭和13(1938)年10月12日(水)

天気 雨

朝福西へ電話ス 後チ岡田氏ヨリ電話アリ 明日自分ヲ辨蔵氏ニ會セルトノコトデアツ
タ
三式奨励金ノ下書ヲ作り徳次ニ書カセル
安岡昨夕上京 帰ラズ
丸山ヨリ購入計器章氏ニ見セ値段ヲキメル
午後三時帰宅 清平今日モ休ミ、ダラシノナイヤツダ
島安博來 營業方針ニツキ意見ヲ聞ク 清平ノ處へ打合せニヤル

◆▼298ページ◆▼ 昭和13(1938)年10月13日(木)

天気 晴雨

工場出 安岡出社 八時半ヨリ上京 十時迄ト云フノデ本社ニ行ク 重役誰レモ居ラ
ズ 岡田十一時過ぎ出
正午留雄章両氏來 清平ノ爲メニ午餐ヲ開ク 帰ルト間モナク野口塚本來 今日三井
ニ會ツタ處自分トノ会见ハ今日見夕書類ニヨリ出資ノ方法等ヨク研究シタイカラ來週ニ
シテ呉レトノコトデアツタ 倉片少将ト三井會ツタ由 岡田氏ヨリグラダーダケデ出資
ノ場合土地利用ノ方法ヲ聞ク 余リ行キ過ぎノ感アリ。章氏ヨリ根底(ママ)當ノ書類
見テ呉レトノコトニ石川公証役場ニ行ク。スグ公証書ニ捺印サセラレタ アトデ考ヘテド
ウモ間違ツタコトヲシタ様ニ思ワレタ 田山氏ニ相談スルコトトス
新宿ニテ木村氏待合ワセ五時半清凌亭ニ行キ練習機ノ打合せヲナシ急イデ貰フコトト
ス
野口塚本前カラ居タガ福中ハ來ラズ九時頃漸ク來 木村氏先キニ帰ヘス。野口塚本ヨ
リ国産側押出シノ話シアリ 自分モ社長ヲ止メルコト 三井ハ会社デナク伊藤ヲ援助ス
ルコトニナツテ居ルナド、勝手ナ話シアリ 福西ニツイテモ野口へ渡ス金ノ下駄ヲハイタト
カ悪ロアリ 福西來テカラハ福西ハ自分ノ地位ノ爲メノ今日ノ會合ト思ワレル
今カラ之レデハ中々ヤリキレナイ 之レモ田山氏ニ相談ノ必要アリ

◆▼299ページ◆▼ 昭和13(1938)年10月14日(金)

天気 曇リ

午前十時工場出 上京 本社ニヨリ一時ノカモメニ乗ル 清平二等ナク三等ニ乗ル 名
古屋ヨリ二等ニ乗換エル
九時大坂着 帰宅 話シツキズ十一時半床ニ入ル

◆▼300ページ◆▼ 昭和13(1938)年10月15日(土)

天気 雨

朝カラ降ッテ居タノガ午後ニナル程ツヨクナル
三時半丁度ニ嫁來 四時半ヨリ式初ム 雨ノ爲メ暗ク晝線ノナイ電気ハ不便デアッタ
ガ、漸ク燭台ヲツケタラ電気ガパツツイタ。式ト親戚ノ盃ハ自宅デシ披露ヲ雁風園
デ行フ 先方ノ父中々面白イ男デアッタ。竹島ノ主人モ來 非常ニハツム 十一時過ギ
散会 帰宅 十二時頃床ニ入ル

◆▼301ページ◆▼ 昭和13(1938)年10月16日(日)

天気 晴

朝九時頃ヨリ佐渡島ニ行ク 途中腕時計ヲ買フ
午後一時迄佐渡島デ話ス 二十万円位迄ハ出ストノコトデアッタガ、ソレデハ三井ヲコ
トワルカラト云フト差當ニ二三万程度ナラトナリ結局イツモノ通リトナル 明後日三
井会见ノ結果電報ヲ打ッテ呉レトノコトデアッタ 帰ッテ新世界ニヨリ夜ハアシベ館ヘ万
歳ヲ聞キニ行ク 十一時帰宅 就床

◆▼302ページ◆▼ 昭和13(1938)年10月17日(月)

天気 晴

本人二人ハ里帰り 自分ハ重ニヲ連レテ六時三十分上六発ニテ参宮シ待望ノ御札ヲ受
ケ時間ガアルノデニ見神社ニ参詣ス 二見ハ初メデアッタ タコ壺ガ面白カッタノデ
一ツ買フ。アトデ聞ケバ本當ニ使ツタモノデナイソウダ 二見ニテ晝食後一時半ニテ帰
ル 四時帰着
五時半ガスビルニ行き航空関係ト清平ノ友人佐渡島主人モ來 披露九時半散会 スグ
梅田ニ行き九時五十分発臨時列車ニテ出発ス
竹中新夫人(一週間前ニ貰ッタトノコト)ト共ニ送リニ來テ呉レタ 京都ニテ込ム

◆▼303ページ◆▼ 昭和13(1938)年10月18日(火)

天気 曇リ

八時東京着 本社ニ荷物ヲ置キ福西ニ行き土産物ヲ居イテ來ル 今日会见ニツキ塚本
丁度來 今ハ會ワナイデ、向ノ要求ヲ聞イテ來ルトノコトデアッタノデ早ク帰ルコトニス
田山先生カラマダ聞イテナイトノコトニ今日聞ク由。山東ニモ調ベル様命ジテ居ク。荷
ガ多イノデ久田來テ貰フ 徳次モ局ヘ行クトテ來
協会ニ行ク 小野サン明後日出ル由 東日ニヨリ帰社 四時頃後チ上野ノ代用品展ヲ
見テ來ル 其間ニ野口塚本來社 今日ハ辨蔵シ多忙ノ爲メ此次ギニシテ呉レトノコトデ

アツタ由岡田ヨリ聞ク 章氏モ來社シタガ、ウヤムヤ 三井ダメト見テヨカロウ 岡田氏山田ニ出サセル方針ラシイガ佐渡島ノコト少シ、話シテ居ク

◆▼304ページ◆▲▼ 昭和13(1938)年10月19日(水)

天気 曇少晴

時事 靖国神社臨時大祭 天皇陛下御親拝アラセラル

兄八時頃船橋へ着ク

工場ニ出ル 奈良原章氏來 工場ハD一ト無尾ノ外全休 章氏三井ノ件話シ會フ。岡田氏ノ山田ノ話シハ章氏余リ讚(ママ)成デナイラシイノデ佐渡島ノコトヲ進メテ居ククラブ昨日ヨリ一三式台デ練習シテ居ル由

安岡木下練習終ツテ會フ 明日山形へ行クコトニナル

正午船橋ニ行ク 荷物ハ廿一日頃着ク由 清平ハ明日出發ノ予定 夕方帰宅

和子ハ昨日カラ人形ヲハナサナカッタ

◆▼305ページ◆▲▼ 昭和13(1938)年10月20日(木)

天気 曇雨

工場出 各種事ムヲ方付ケル

十一時ヨリ章氏ト上京ス 一時頃福西塚本來 野口來タガ、マダ會エナイトノコト後チ電話シタラ三越へ買物ニ行ツテ居ルトノコト 塚本ト二人デ出テ行ク。福西氏ト田山先生ニ行ク 公証ノ件 財産ノ抵當並ニ讓渡ハ監査役ノ承認ガアレバ異(ママ)法ニハナラナイトノコトデアッタ 三井ノ件福西ヨリ有望ニ話シス。自分ハドウモアヤシイト思ワレル 後チ野口ノ報告デ、ツヒニ会社へ來ラズ會エナカッタトノコト 多分三越デ買物シテ、スグ帰ツタノダロウトノコト コンナコトデ事業ガ出來ルモノデハナイ 副社長、章両氏ハ甥ノ結婚式デ今夜カラ明朝ニカケテ神戸へ出張ス 章氏山東君ヲ目ノ敵ノ様ニスルニハ困ツタモノダ 夕方絹ノ羽布見本ニ買ヒニ行キ山東ト少シ話シス

◆▼306ページ◆▲▼ 昭和13(1938)年10月21日(金)

天気 風雨

時事 颱風來 銚子四十七米 北風ノ爲メ工場被害ナシ 廣東入城

久シ振りデ終日工場 但シ十時頃出ル

朝新聞ヲ見ルト颱風警報アリ 時スデニ房総半島ニ廻ツテ居タ 學校行ニ皆出デシマッタアトデラジオデ學校行ハ見合セナサイナドヤツテ居タ 昨日ノ夕刊ニハ何ニモ出デ居

ナカッタノニ

清平昨夜熱海泊リ 伊豆モ相當アレタ筈 午後明日午後帰ルトノ入電アリ一安心
D一進行ヲウナガス 角ハドウモ困ル
三井辨蔵氏へ直接手紙出シタラドウカト考ヘル 今週中ノ返事次第デ決行シテ見様
然ラザレバ佐渡島ヲ呼ブコト

▲▼307ページ▲▼ 昭和13(1938)年10月22日(土)

天気 雨

終日雨

D一ノ進行遅々 角モドウモ此頃ボヤケテ居ル 何ントカサセネバナラナイ 少シ静養
サセタ方ガヨイカモ知レナイ
太田二工場組織ノ改善策ヲ命ズ
小林夕方四時頃來 計算少シモ進ンデ居ラナイラシイ
清平夫妻夜挨拶ニ來 スグ帰ル
兄昨夜帰宅シナカッタ由 面白イヤツダ

▲▼308ページ▲▼ 昭和13(1938)年10月23日(日)

天気 雨後曇リ

昨夜中手ノ痛ミノ爲眠レズ 夜ガ明ケテヨクナル 九時迄床ニ居ル
山崎氏來 重心位置ハ丁度ヨイトノコト ヤハリ今村ノ計算違ヒデアツタ
復坐十一時ヨリ試飛行 ゴムニテ肥田木島單獨各一回 島角、肥田木、徳次各一回。
終ツテ飛行機ニテ島單獨ニテ飛行 花環沖ニテ高度百五十米位ニテ曳航索切レタガ帝
国ノ前迄帰ツテ着イタ 北風強ク氣持悪シ 中止ス 操縦性良 明日受検トキメテ島
ニ朝辻本氏迎ヘニ行ク様ニス

▲▼309ページ▲▼ 昭和13(1938)年10月24日(月)

天気 晴

久シ振リノ快晴

辻本氏立川行キノ爲メ検査明日トナル
風ナク上天気デアツタ 松下清水君來 萱場ヨリ泉氏來 無尾補助翼改造後ノ試飛
行良好 次回計器ヲツケテ山カラヤルコト 或ハ飛行機曳行スルコトヲ定メルコトトシテ
中止

復坐島操縦肥田木同乗 後子清水ニ角同乗ス

本社ヨリ岡田氏三名程連レテ來ル 写真関係ノモノ 福西野口、山田、塚本連レテ來ル 三井來ラヌノミナラズ会フコトモ出來ナイ由 歸リニ際シ岡田氏へ大ニ督促シ尚直
接行動ヲ取ルコトヲ計ル 福西ト相談スル由
夜兄來テ泊ル

▲▼310ページ▲▼ 昭和13(1938)年10月25日(火)

天気 曇リ

降リソウデ心配シタガ午後漸(マ)時ヨクナル

七時半ヨリ小學校へ青年學校査閲ヲ受ケニ行ク 奈良原氏行カレナイノデ自分代理シ
テ閱兵ヲ行ヒアトハ宇賀ニ頼ミ帰場 十一時半頃柳原氏外川崎氏尾崎氏、検査官二
名來場 一三ト複坐検査終ル 三時半頃皆帰ル

五時過ぎ岡田氏ヨリ電話アリ 明朝十時役員会ヲ開キ三井ノ條件ガ出タカラ相談シ
タイトノコト 章氏モ今日帰ツタカラ知ラセテ呉レトノコトデアッタ

▲▼311ページ▲▼ 昭和13(1938)年10月26日(水)

天気 晴

八時工場出 上京 清平同道ス 本社ニ行ク 條件出タナドトハウソ 章氏モ先着シテ
居タ

三井ノ方ハ又中島カラ伊藤へコレダケノ注文ヲヤルカラドレダケノ設備ヲシテヤツテ貫ヒ
タイト云ワセテ呉レトノコトデアッタ由 サモナケレバ監督官カラトノコトデアッタガ監
督官ハ止メルコトニシ中島へ自分ト野口ト行クコトニス 電話シタガ今日ハ不在トノコト
午後三時頃又電話シタガ今日ハ帰ラナイ由 今日ニナツテ全役員三井ダメト見極メタ
ラシイ 大分野ロニヤツタ爲メ野口モ恐テ、ヤメルト云ヒ出シタトノコトデアッタ

ソレヨリ自分ハ今日岡田ヨリ今日一万円今月分出シタラ丁度八万七千円ニナル アト
來年ノ六月迄ノ利子ヲ入レルト十萬円ニナルカラ之レ以上出セナイトノコトデ驚イタ
福西ニ佐渡島ヲ入レルコトヲ話シテ居ク。アト十台程機械ヲ入レレバ注文取ルコトヲ申
入レタコトカラ右ガ分ツタガ此際一台モ這入ラナイ様デハ何モ出來ナイ

▲▼312ページ▲▼ 昭和13(1938)年10月27日(木)

天気 晴

東京駅ニテ野口塚本ト會ヒ中島ニ行ク 中村氏ニ面會 今日ハ検査カ何ニカデ急(ママ)
ガシイ中デアッタノデ氣ノ毒デアッタガ用件ヲ話ス 中島トシテハ取ツギ出來ナイガ物
産ノ根岸氏ニ会ツタラトノコトデアッタ。野口氏歸リニ寄ル 其間丸ビルニテ二人カラ話

シヲ聞ク 塚本ヨリ福西ガ昨年ノ利子ノ件全部福西ニ這入ッテ居ルトノコトデアッタ。之レハ一寸驚イタ

野口根岸ニ会ツタ話シハ自分ガ経営ノ器デナイカラヨイ経営者ヲ作ッテ來タラ金ハ出ソウトノコトデアッタ由 之レニヨリ奈良原、岡田、福西、留雄氏ト相談 先方カラ出シテ貰フコトヲ明日交渉スルコトデ散会ス

▲▼313ページ▲▼ 昭和13(1938)年10月28日(金)

天気 晴

章氏十時頃來 昨日ノ話シヲシテ上京 十一時過ギタノデ福西ニハ寄レナカッタ

野口ト二回物産へ行ツタガ会エズ。ソレガ電話デ出先キヘ聞合セテ呉レタノダガ帰ルカ帰ラナイカ分ラナイトノコトデ明日ノコトトス 丁度四時 今迄スベテガ此調子デアッタラシイ 條件ナド云フコトモ話シノ程度デアッタラシク感ジラレル 岡田留雄両氏ニ其旨云ツテ居ク

今日工場ハ午後ヨリ休ミ 晝ハ旗行列 夜ハ提燈行列ヲ行フ

▲▼314ページ▲▼ 昭和13(1938)年10月29日(土)

天気 晴

物産航空機課長根岸氏ニ野口ト共ニ會フ 現状デハ手ガ出セナイ ドコカ適當ナ機械工場ト合同デモンタラ出資出來ルト思フ 辨藏氏モマダ決定シテ居ナイ 尚機械類ハ中々手ニ入りナイモノト思フトノコトデアッタ 帰ッテ岡田福西ニ話ス 岡田氏ハスグ適當ナ機械工場手ニ入レル方法ヲ考ヘテ進メタイ希望デアッタ 日進ノ話シヲスルトトテモ進ンデ聞イテ見テ呉レトノコト 明日北島サント会フコトトス

然シ三井ハソレニシテモ暇取ルカラ現状ノ立直シノ必要ヲ説ク。一時出テ帰ル 章氏ト同道 車中章氏ニヨク話ス 同感デアッタ

夜清平ノ会社ノ人達ニ披露ヲ鈴木館デヤル 料理ガ少ナカッタ 二円五十錢デハ高過ギタガ皆ヨク、ヨッタ 兄ハツヒニ泊ラセルコトトス

▲▼315ページ▲▼ 昭和13(1938)年10月30日(日)

天気 曇リ

二時迄工場 安岡太田原ニアリ天候ヲ知ラス ツヒニ帰ラズ

午後二時ヨリ日新ニ北島氏ヲ訪フ 丁度帰ル處デアッタ 共ニ第一ホテルニ行キ茶ヲノミナガラ工場組織ニツキ色々聞ク 成程六ヶ敷イモノダト思フ。アトノ仕事ノコトヲ頼ミ帰ル 清平ニ寄ツタガ不在 鷺沼ヘ帰ッタラ今帰ッタトノコト

▲▼316ページ▲▼ 昭和13(1938)年10月31日(月)

天気 曇り雨

今日ハ一日静養スルツモリニテ朝清平ニ行ク 今出タ處トノコト 工場ヨリ電話シテ用件ヲスマセ章氏ニタノミ十時頃帰り散髪入浴 後明日ノ予定ヲ書キ午後兄ト共ニ上京自分ハ上野ノ文展ヲ見ル

帰途松坂屋ニヨリ兄ニ頼マレタ角ヘノ結納ノ書物一式ヲ求メ帰ル。兄ト松月庵ニテ夕食ヲ共ニシナガラ佐渡島ヘ電話スル。手紙ハ見タ 自分ノ代リニ一人行ク人ガアルカラ、ソレニヨク話シテ呉レトノコトデアッタ 二通話ヲツヒヤス 金ハ二三万ノ事ハヨイトノコトデアッタ

▲▼318ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月1日(火)

天気 曇雨

今日ハ重役会議 キンチヨウシテ出カケタガ例ニヨリグヅ、ニ終ル

三井問題昨夜横山氏へ挨拶ニ野口ト塚本行ツタ由 根岸氏ハ二三日中ニ三井ヲ止メ他ノ航空会社へ這入ル由。機械工場ツイテハ三井物産ノ人ノ話デーケ所 塚本ノ手デニケ所程予定アリ 之レヲ二三日中ニ調査提出スル筈 之レハ之レデ進メルコトトシ自分ヨリ此冬ヲ越スニ最少五万円ノ金ノ入ルコトヲ数字ヲ以テ説明ス 決極(ママ)十万円乃至十五万円ヲ辨蔵氏ヨリ借リルコトヲ野口ニ話シサセルコトニナリ案ヲ作ル 外ニ話スコト沢山アッタガ野口居テ出來ズ。兄今夜帰ルノデ帰船 八時半送ツテ帰ル。岩垣退社ス 丁度ヨカッタ

坂田氏宿へ電話ス 來テ居ラレタガ今日ハ會エナカッタ

▲▼319ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月2日(水)

天気 晴

今日ハ上天気 午後二時半ヨリ産業報国会ノ発会式ヲ上ゲル 船橋署管内デハ初メテトノコトデアッタ 縣カラ工場課長特高課長外一名 船橋署ヨリ署長外三名 町長小學校長 奈良原、副社長等出席 四時無事終了ス

訓示ニ航空報国会ト同内則五ヶ條ヲ定メタモノヲ朗讀シ安岡宣誓ス 階上ニテ懇談 五時半皆帰ル 章氏ヨリ三井問題話シアリ 自分モ今朝申議書ニ書イテ居タモノヲ見セラル 同氏モ申議案ヲ出ス由

副社長來 章氏ニ加藤氏ニ會ツタ處野口ノ話ト大分違フトノコトデアッタ。章氏モ大分誤解シテ居ルラシイ 兎ニ角三井問題ハ益々蔭ガ薄イ

◆▼320ページ◆▼ 昭和13(1938)年11月3日(木)

天気 曇後雨

六時前起床 神社ニ参拝 朝日ニエガキ出サレタ鳥居ナド写ス。盆栽ノ植替 本箱ノ整理、讀書等静カニ一日ヲ送ル

徳次久次郎ハ晝前安元ト上京 三越ノグライダー展ヲ見ニ行ク 船橋アタリニツイタカツカヌ内ニ雨降ル

夜家内、エミ子仁三郎和子ハ南郷少佐ノ活動ヲ見ニ船橋ヘ行ク ツヒデニ清平ニ明日ノ用件書イタ本社宛ノ手紙持タセテヤル

◆▼321ページ◆▼ 昭和13(1938)年11月4日(金)

天気 晴

六時前起床 徳次ヲ連レテ霞ヶ浦ノ拂下ニ久シ振リデ行ク 国府ノ台ヲ乗越シタ爲メ江戸川ヨリ引返シバスデハ時間ガ間ニ合ヒソウニモナイノデタクシーデ行ク 松戸駅ニテ山田、安藤君ト会フ 保轉ノ分デアッタノデ、スラ、スミ値段モ安カッタ 川辺君ガ來テ居タノデー三艦攻ヲ一台譲ル ソゾロアワレヲ感ジル。自分モシツカリシナケレバナラナイ

十二時二十分帰途ニツキ松戸三時ノバスデ八柱ニ御参ヲシタ方帰宅 途中船橋デ姉妹ヲ買ツテヤロウト思ツテ小鳥屋ニ寄ツタガナク セキセイ一番買ツテ帰ル

◆▼322ページ◆▼ 昭和13(1938)年11月5日(土)

天気 晴

八時奥山ヘ行ツタガ松本出張ノ由 章氏ニ寄り奥山ノ金間ニ合ワナイノデ今日ノ支拂本社ヘ取りニ行ツテ貰フコトトス 本社工場共支拂十五日ニ延期シテ呉レトノ電話アリクラブヨリ工場ヘ電話ヲ入レ小拂ヒダケスル 清平來 設計事ム所ノ家取極メノ爲メ敷金三百円クラブヨリ出ス

十一時頃金井氏來 飛行機トCニ内部検査終ル
平松君來 五時頃金井氏同道帰ル

◆▼323ページ◆▼ 昭和13(1938)年11月6日(日)

天気 晴

今朝八時角ヘ兄ヨリノ結納ヲ渡ス

稲毛ノ醫者ニ行ク 一度行ツテ不在 十二時過ぎ電話デ知ラセテ貰フ 又行ク 近頃脈不動ノコト 欠帯ノ多イコトヲ話シタガ、ソレニツキ注意ヲ聞クコトヲ忘レタ 胃ノ方ノ藥ヲ貰ヒ血液ヲ取り帰ル

野谷ハ今少シ休マセタ方ガヨイトノコト 大口ナホノ注射ハヤッタ方ガヨイトノコトニ、コチラヘ付テ居イテ貰フコトニタノンデ居ク 豊作ニ行ク様コトツテル

清平來 章氏ト今後ノ方針打合せ 佐渡島ニ出サセルコトヲ話ス 本社ヲ工場へ移轉ノ件

▲▼324ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月7日(月)

天気晴

朝曇ツテ居タガ次第二晴レ暑イ日デアッタ

六時半宅ヲ出雷門ニテ奈良原氏ト会ヒ共ニ行ク 十時半飛行場着 第一次終了式ニ参列シ三時廿三分發汽車ニテ帰ル 七時半船橋着 清平ニヨリ八時帰宅

▲▼325ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月8日(火)

天気晴

正午上京 岡田氏ハ今日モ工場エラビニ血眼ノ状デアッタ 福西ハ自分ト佐渡島へ行クト云ヒ出シタ

留雄氏ハ役員会ヲスグ開イテ善後策ノ協議ニ写リタイトノ事デアッタ 留雄氏ノ加藤氏カラ聞イタ話シデハ野口ナンガ辨蔵氏ハ問題ニシテ居ナイラシイ

清平ト上野ノ機械展ヲ見ル ヨサソウナモノガ沢山アッタ 五時半飛行館地下室ニ行ク モウ皆集ツテ居タ 支那料理デ会食トス ヨク御礼ヲ述ベ希望ヲ述ベル 九時船橋ニ寄り帰宅

▲▼326ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月9日(水)

天気晴

終日工場 章氏役員会ヲ延バシテ決定的ニシタ方ガヨイトノコトデアッタ 安岡昨夜ヨリ又盲腸

五月末在庫品ノ内訳ヲ作ル

D一齋藤検査官來 合格終了 朝日ヨリ熊谷氏三型ニテ曳航ニ來テ呉レル

▲▼327ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月10日(木)

天気 晴

安岡ノ見舞ニ千葉病院ニ行キ昨夜ノ手術料トシ八十円持参 クラブノ金ヨリ。マダ回診ナク経過不明 白戸ニヨル 二人トモ不在 海軍航空隊納メノ本箱ノ様ナ戸棚ヲ作ツテ居タ 其マ、上京 本社ニ行ク 岡田福西野口、三浦三崎ノ工場ヲ見ニ行ツタ由 午後新宿三越ノグライダー展ヲ見ニ行ク 清水君ニ會フ 四時頃迄種々話シヲ聞ク 五時帰社 千代田館ニ慎ト電話デ話ス 一四整備ノ件タノマレル。九二見積リシテ呉レトノコトデアッタ

佐渡島明日夕方帝国ホテルニ居ルトノ入電アリ

◆▼328ページ◆▼ 昭和13(1938)年11月11日(金)

天気 晴曇リ

安岡経過悪シカラザルモ輸血ヲナス。心配ノ程度

奥山ヨリ千円受取ル

発動機ローント、イス。パノ三百内部検査終ル

午後二時ヨリ章氏ト上京 役員会ヲ開ク 三井皆アキラメタラシイガ尚思ヒ切レズ。

サリトテコノマ、不安状態ヲツ、ケ得ラレズ 佐渡島ニ頼ンデ呉レトノ事デアツタガ、ソレ

ニ六改革ヲ要スル旨述ベ皆如何ナル改革ニモ應ジルトノコトニ交渉ヲ引受ケル

六時帝国ホテルへ行ツタガ、マダ來テ居ラレナカッタノデ名刺ヲ預ケテ帰ル

◆▼329ページ◆▼ 昭和13(1938)年11月12日(土)

天気 曇リ

朝ホテルニ佐渡島氏ト交渉 十時ヨリ上京 章氏ニ一寸話シテ居ク。東日ニ行キ電話デ打合セ 清平モ呼ビ銀座ノアラスカデ会ヒ東京飛行クラブニ行キ二時ヨリ五時迄話ス 少シ悲觀論ガ過ギタ様デアツタガ他人ニヤリタクナイカラ最(ママ)非乗出スコトヲ依頼シテ居クガ返事ハ芳バシクナカッタ

◆▼330ページ◆▼ 昭和13(1938)年11月13日(日)

天気 晴

今日章氏ト原案ヲ作ル予定ノ處風ヲ引イタカラトテ休マレタ

清平午後二時間程來 島來タガ汐引カズ

朝佐渡島宛速達ニテ考慮ヲ依頼シテ居ク

◆▼331ページ◆▼ 昭和13(1938)年11月14日(月)

天気 晴

章氏清平ト更生案ニツキ協議 月産十台廿台ニツキ研究案ヲ作ル
五時終ツテ尚明日ニ引ツグコトトス

▲▼332ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月15日(火)

天気 晴

章氏上京 夕方五時頃來 本社一銭モ金出來ズ。野口ノ方留雄氏ガ聞合セタ爲メニ
ダメニナツタトノコト
佐渡島ヨリ本社へ速達來 又辭表ト考慮出來ナイトノコト 章氏ニ見セル 明日又研
究ノコトトシイツレニシテモ自力更生ヲ要スルコト
三時半ヨリ健康保険課長ノ話シアリ 五時過ぎ終ル
早朝D一朝日羽田へ空輸 島操縦清平同乗ス
大連行Cニ試飛行ヲ行フ

▲▼333ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月16日(水)

天気 晴後曇

夜雨

終日在所 作業調ベヲナス

朝清平來

安岡良好 明日カラ牛乳モノメル由

奈良原氏來 正午上京

宇賀ニ命ジ 千葉縣庁デ戦時轉業資金、木工作业ニツキ調ベサセル

▲▼334ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月17日(木)

天気 曇後晴

昨夜十時間余リ眠レタノデ大變氣持チヨカッタ

正午本社ニ行キ岡田氏ヨリ三井ノ件聞ク。マダヤツテ居ル 話ヲ聞ケバ本當ラシイガサ
テドウカ

清平ヲ連レテ二時ヨリ横浜ノ日本飛行機へ行ク 多田氏此頃ハ來タリ來ナカッタリト
ノコト 多分止メルノデハナイカト思ツタ。恵氏ニ会ヒ仕事ニツイテハ技術部長ニ會ワセ
テ呉レタガ監督官へ行ケ一點張りデアッタ。プーノ發動機ノ件モ一寸話シズット歸ル
途中中山ニヨツタガ植木市ハ見ラレナカッタ。帰宅 今日ハ安岡大變ヨク牛乳ヲノムコト
ヲユルサレタ由

◆▼335ページ◆▼ 昭和13(1938)年11月18日(金)

天気晴

少シモ眠クナク三時迄観音経ヲ讀ミアマリ眠ラナクテモト電気ヲ消シタラ宇賀來 安岡危篤トノコト 昨日大変ヨイトノコトデアッタノニ スグ自動車デ行ク マダ大丈夫デアッタガ廿四時間以内トノコト 夜明ケヲ待ツテ白戸ニ行キ朝食ヲ馳走ニナリ一度帰り正午迄工場 晝食後宅デ床ニツイタガ三十分程デスグ目ガ醒メル 工場出
夕食後病院ニ行ク。佐渡島ヨリ今夜電話シテ呉レトノコトニ電話スル 八時頃迄話 富尾自分ト三人ヨリ話シ合ヒタイ 辞表ヲ出サズニ居クコトトノコトデアッタ。安岡ノ話シヲナス。吾レ等夫妻ノ前デ死ヌコトハ両親ノソバニ居ルヨリ嬉イト云ツテ居タ。余リクルシイカラ眠ラセテ呉レトノコトニ注射シテヤッタ時ハ嬉(ママ)ンデニコツト笑ツタガヤハリ眠レナクッタ様ダ
八時半 過ぎカオマツタク危篤ニ落入リ八時五十五分絶命
十時自宅へ運ブ
今日随分大勢見舞アリ 珍ラシク吉田重雄ヤ死ンダスグ豊田君モ來タ

◆▼336ページ◆▼ 昭和13(1938)年11月19日(土)

天気晴

昨夜少シヨク眠ツタノデ今日ハヨカッタ
終日在所 種々ノ準備ヲサセル 廿二日午後告别式ノ通知ヲ出サセル 其他役割等ヲキメル
本社ヨリ岩間君來 会社クラブ合同葬ニ決定 章氏ヨリ本社へ通知サセル
白戸ノ家内來。醫者ノ支拂ヒヲ終ル 手術料ハ別デ百六十円バカリカヽツタ
夕方柴入氏來 久シ振リデ会フ 昨年ノ礼ヲ述ベル。夕食デモト思ツタガ千葉へ帰ルノガ急グトテ帰ル
今夜御通夜

◆▼337ページ◆▼ 昭和13(1938)年11月20日(日)

天気晴

七時起床 七時半ヨリ羽田ニ行ク 九時半着 河内氏長舉氏片岡局長千田氏熊校加藤氏等ニ挨拶シ東日ヨリ十一時羽田発 一時帰ル 寺ノ都合デ二時半ニナツタトノコトソレナラコンナニ急ガナクテモヨカッタ 章氏來 二時半寺來 三時十五分出棺 大和田火葬場ニ送ル 五時帰ル 夕食後七時頃国元ヨリ叔父サント家内ノ姉來 明日ノ

手配ヲシテ帰ル

▲▼3388ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月21日(月)

天気 晴

終日在所 奈良原氏來

夕方章氏病院へ行ク 後チ本社ヨリ富尾、岡田、福西岩間君來 六時迄安岡ニ居テ帰ル

三井マダタレニモ会ワナイ由 福西更ニ外ニ交渉中トノコト

▲▼3399ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月22日(火)

天気 晴

朝工場デ安岡ヘヤルベキ株ニツキ考慮 三千円ヲ贈ルコトトシ登宛預リ証ヲ作り持參ス 二時十五分ヨリ東漸寺デ初ム 梅沢氏ノ弔詞(ママ)デ皆泣カサレル 最後自分ノ挨拶ニ声ガ出ナクナツテ困ツタ 白戸家内來 夕食後八時帰ル 君江ヲ貰ヒタイトノコトデアッタ

▲▼3400ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月23日(水)

天気 晴

十一時半ヨリ立川ノ資生堂練習機献納式ニ參列スベク門前デバスヲ待合中ボント云フ音ニ振り返テ見ルト一三ガ逆立シテ居ル ヨク見ルト二台ラシイ 帝国ノアンリオノ上ニクラブノ一三ガ乗リカッタモノデ其降下練習生大島君ノ頭ヲ強打即死。上ノ筑井、ト練習生ハ輕傷デアッタガ大學ニ入院セシム 夕方六時約束ニヨリ飛行館ニ弘中君ト会フ 明年度満協グライダーニツキ受注出來ルナラ満州進出ノ方針ノ第一トシテ骨格ヲ内地デ作り向フデ組立ルコトヲ申出ル 帰り奈良原サンニヨリ九時半帰り一時迄通夜ス

▲▼3411ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月24日(木)

天気 曇小雨

午後二時ヨリ火葬場へ行ク筈ヲ間ニ合ヒソウニモナイノデ家内ヲ代理ニ行ク様命ジ九時ヨリ伊藤定雄君ト上京 局ニ行キ各係リ全部ニ渡ツテ挨拶ヲナシ正午終ル 飛行館ニ行キ弘中、清平ヲ連レ眞松ニテ晝食ヲ共ニシ二時迄話シ合ヒ十二月都合ヨリ清平ヲヤルコト 明日石橋航空官トノ連絡ヲタノム

二時本社二行キ重役会議ヲ開ク。今後ノ方針章氏ノ消極縮小案ヲ骨子トシ尚金融策トシテ岡田氏私案ノ減資ノ代リニ現株主三持株ノ一部ヲ賣ツテ貫ツテ出資ニアテルコトトナルシテハトノコトニ困難ハアルガ意見一致 国産トシテモ承知ノ趣キニツキソノ事ニテ先ヅ佐渡島ニ當ルコト ソレカラ福西交渉中ノモノソレデイケナケレバ山田氏ノ方ヘ岡田ガ持込ムコトト云フコトニナリ佐渡島今月中ニ返事取ルコトトナル

▲▼342ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月25日(金)

天気 晴

天気ヨクヨカッタ

午前中警察ノ調査アリ 正午帝国事務所ニテ大島君父親ト会见 見舞金貳百円ヲ送り示談解決 スグ葬儀 奈良原氏來ラズ氣ヲモム

三時半帰ル 福西來テ居タ 今井氏同道 福西ノ方ハ米井商店トノコト 今井ガ仲介ラシイ 佐渡島イケナイ時ハ米井ヘトノコトデアッタガ其間今井氏ニハ佐渡島ノコトハ話シテナカッタラシイ様ニ感ジタ。昨日タノシダ五百円持ツテ來テ呉レタ

航空局ヨリ伊原外一名調査ニ來 自分話シテアト鈴木、木下、伊藤、トシテ上京。東日二行ク 六時山水樓ニテ陸軍ヘ組合ニテ五機献納ノ件ニツキ福知シヨリ明日立川ニテ近藤大佐ヨリクワシキ話アル由ニテ何ニカ奥歯ニモノ、ハサマツタ感ジデアッタガ自分代表シテ札ヲ述ベ十時過ぎ迄会谈 席上自分ニ組合長ニナツテ呉レトノコトデアッタガ、社内ノモノト相談ノ上返事スルコトトス 其他種話シアリタリ

十二時頃帰宅 一時半頃清平來 其後吉原美津濃ト話シノ結果福田ニテ陸軍ヘ百機献納事実ナリトノコトニテ明日ノ立川行ニツキ相談アリ 自分ダケ中止スルコトトシ清平ヲヤルコトトス

▲▼343ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月26日(土)

天気 晴

九時工場出 奈良原、章氏スデニ來テ居タ

奈良原氏ニ昨日ノコトヲ報告シ明日大島君ノ郷里ヘ行ツテ貫フコトトス 章氏ト相談石橋氏廿八日來ルトノコトニ今夜大坂ヘ行キ明日会见スベク電報ヲ打ツ。夕方返電アリ 先約差支アリ 廿九日以後ナラトノコトニ、今日ハ實際昨夜寢テ居ナイノデ早ク寢タカッタノダ

午後白戸二行キ弾薬函ノコトヲ聞キ病院ニヨリ四時頃帰ル

▲▼344ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月27日(日)

天気 晴

朝佐渡島へ手紙出シ廿九日行クコトトス

福西会ヒタイトノコトニ清平ニ寄り昨日ノ経過ヲ聞 ウヤムヤニ終ツタトノコト。一時福西ニツク 章氏モ居アワセ、岡田氏ヨリ章氏ノ大坂行中止ノ件ニツキ国産ト山田ノ関係即チドコモ出来ナイ時ハ山田ニヤラセルコトニナルカラ其場合章氏ガ今度同行スルコトハ国産ノ立場上ヨクナイトノコトデアツタ由。兎ニ角自分行キアトカラ必要アレバ來テ貰フコトトス

福西ト盆栽展ヲ見テ帰ル。布施ニ行き更ニ注射シテ貰フ

▲▼345ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月28日(月)

天気 晴

八時半工場出

十時石原航空官清平同道十一時下志津へ行カレル 工場ヲ見セ満州ノ状況ヲ聞キ進出ノ意志アルコトヲ話シテ居ク

奈良原、章氏ト同道一時ヨリ上京 二時半本社着 五時迄居ル 留雄氏ヨリクレヽ、佐渡島サンニヤツテ貰フコトヲ頼マレル 福西ヨリ更ニ蔭ニテ岡田案以上三出資者ニ有利ナ話シアリ 之レガ福西ノ手デ出来ルトスレバ、ソコへ行クコトニナルコトヲ暗示スルモノト思エル

清平ト丸ビルニテ夕食 帝国劇場デ九時迄見テ九時半大坂行ニ乗ル 明日ノ工賃支拂ハ局ト協会ノ分ヲ担保ニ福西デ小切手ニテヤツテ貰フコトトス

▲▼346ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月29日(火)

天気 曇リ

八時半大坂着 帰宅 アシヤへ電話スル コレカラ大坂へ行クトノコトニ午後會フコトトス 顔ヲソリ新世界ニ行き晝食後一時安堂寺町ニ行 中山氏訪ネタガ來月帰ル由

急(ママ)ガシノウデニ時過ギ迄待ツ 其間見セルベキ収支予算等ヲ作ル 三時半頃ヨリ委細報告 自カラ書キ取ツタリシテ居タガ借入金問題ガ余リ早ク出タノデ大分コーフンシテスグ辭職届ヲ受理シテ貰フコト 他ニ取ラレテモ仕方ガナイナド云ツテ居タガ結局今一度考慮ヲシテ貰フコトトシ明日ノ会见ヲ約シテ帰ル

▲▼347ページ▲▼ 昭和13(1938)年11月30日(水)

天気 晴

今日一日考慮ノ余地ヲ作ルベク佐渡島行ヲ中止ス 竹島へ一應報告スベクニ回バカリ

行ツタガ會エナカッタ

晝前日本航空輸送ノ事務所ヲ訪問シ眼鏡ヲ買ヒ帰ル 晝食後兄ト君子ニ指環ヲ買ツテヤル爲メ心齋橋ノ井筒屋ニ行ク 昔シノ政吉トシニ會フ 十一円ノ正札ヲ八円八十錢ニシテ呉レタ

夕食ハ新世界デ重ニト共ニ夜万才ヲ聞キニ行ク

伊藤忠ノ話シノ予備トシテ会社経歴ヲ取ヨセルベク電報ス

コンドル機十時ハノイ発 夜十時十分立川着 ベルリン出發以來四十六時間二十余分

◆▼349ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月1日(木)

天気 晴

九時十五分西店ニ行ク 十時半頃ヨリ会見 二時迄 結局山田ノ方へ自分ニブツツカツテヤツテ見テハドウカ、ソウシロトノコトデアッタガ、ソレノ出來ナイ理由ヲ話シ再考ヘウナガシテ帰ル

モシヤト思ツタ山本氏カラ留都(ママ)中電話アリ 杉原産業ノ坪井氏ニ昨夜話シタ處幸ヒ社長杉原氏台湾ヨリ上坂セラレ話シタル處有望ナリトノコト 夜來宅 杉原ノ大坂支店長坪井氏ト電話シテ連絡ヲ取り明正午坪井氏ト會フコトトス 清平ヨリ手紙來 他ヨリ佐藤氏ノ耳ニ這入ツタ由

◆▼350ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月2日(金)

天気 曇リ

朝十時佐渡島ニ行ク ヤハリ同ジ處ヲ行ツタリ來タリノ今日ハ出資後ノ株数ナドヲ調べタリシタガ決(ママ)局金ハドウカナツテモ人がナイト云ヒ出シ、佐藤喜三郎氏ヘヤツテ貰ツテハト話シタガマトマラズ佐藤氏へ電話セヨトノコトデ正午ニ通話 佐藤氏ト話ス。別ニ決定的ナ意見モナク杉原氏トノ会見時間ニナツタノデ帰宅 岩崎、山本、片山三氏ト行ク 坪井氏帰ラズ 晝食ニ行キ二時又行ク 四時頃漸ク帰ル 店長今夜上京スルトノコト 車中會フコトヲ申出タガ、アイマイニテ中止 帰ツテカラ話シヲ聞クカラ坪井ニヨク聞イテ居ク様トノコトデアッタ由 一通り希望ヲ述べ経歴書ト今度ノ小予算書ヲ渡シ五時出ル 国粹ニ行キ笹川ニ會ヒ第一ノ件頼ンデ見タガダメ 明朝一先ヅ帰ルコトニシ九時発ノ切符ヲ買フ 姉トカキ橋ニ行キ夕食ヲ共ニス

◆▼351ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月3日(土)

天気 晴

大坂カラ東京迄上天気デアッタ

八時佐渡島ニ行キ來ルノヲ待チ今日帰ル挨拶ヲシテ佐藤ト相談スルコトトス 佐渡島ハ
タレカ協力シテヤルコトナラヤルトノコトデアッタ

四時半横浜ヨリ清平乗ル 東京ノ模様ヲ聞ク 岩間君福西ソレ、ヤッテ居ル由 今日
福西岡田タレカ連レテ工場へ來タ由

章氏宅ニヨリ六七分通り見込ミアリ 佐藤氏ト相談ノ必要上帰ッタト報告ス

佐藤氏へ寄ッタガ今日カラ明日ニカケテ埼玉縣ノ里ノ方へ行ッタトノコトデアッタ 高見
氏明日訪問スコトトシテ速達ヲ出ス

帰宅夕食後明日行ケナイカモ知レヌノデ昨日ノ血滯ノ話シモアリ布施サンニ行ク 二
本目ノ注射 大口ナホ盲腸ノ由 布施サンニ手オクレセヌ様タノンデ居ク

▲▼352ページ▲▼ 昭和13(1938)年12月4日(日)

天気晴

高見氏ヨリ本日不在 明日会社へ行クトノ入電アリ上京ヲ中止ス。十時工場ニ行ク
帰りニ散髪ヲナス

昨夜三時頃迄寒クテ眠レズ後チ熱クナル 終日気分悪ク午後植木ノ霜除ヲ作り二時
半ヨリ床ニ入ル 眠レナカッタ

家内ハ成田山ノ團參ニ行キ四時頃帰ル

▲▼353ページ▲▼ 昭和13(1938)年12月5日(月)

天気晴

七時半起床 工場出 十一時ヨリ上京

佐藤喜三郎氏ト會見 清平來 状況ヲ報告 早速金策ニ乗り出ス由。本社ニヨリ二時
藏前會館ニ高見氏ト會見 久シ振リデ會フ 低金利トノ借り替ヲ依頼シ両方共一両
日中ニ返事貰フコトニス 東日ニヨリ

四時本社ニ帰り皆ニ大坂ノ報告ヲナシ佐渡島単獨デハ六ヶ敷ク佐藤氏ノ出馬ヲ得ル爲
メ來タト云ツテ居ク 外ニ或ル工場トノ合同問題福西、岡田會見セシ由話シアリ 大
分都合ノヨイ話シデアッタガ後チ福西ヨリアレニハ少シ裏ガアルガユックリ話シ仕様ト
ノコトデアッタ

奈良原氏ト本社デー寸會フ

▲▼354ページ▲▼ 昭和13(1938)年12月6日(火)

天気晴

終日静養スル事トス

昨日ヨリ下痢 次第二止マル

夜寝ラレナイト困ルノデ醫者へ薬リヲ貰ヒニヤル

晝頃清平來 佐藤喜三郎ニヨル様ニシテ帰ラセル 弘中へ聞合セタ長山敬氏ニ関シ返電アリ 目下協会へハ無関係ノ由

◆▼355ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月7日(水)

天気晴

九時工場出 其前鈴木菊來 アンリオノ倍賞(ママ)問題ヲ出ス 相互ノサインントアキラメルコト 但シ一三ヨリアンリオ損害ガ多イ様ダカラソレダケノ差ヲ負担シ様ト云ツテ居ク 後チ奈良原氏ト相談 包ミ金トシテ三百円送ルコトニキメル
クラブ試験皆受ケタガルノデ亜細亜ノ一三借入方聞合セテ呉レトノコトデ明日行クコトトス

職工小谷入営ノ爲メ壮行會ヲ催ス 四時ヨリ一同停留所迄見送ル

三時頃粕谷ト第一ノ妻君來 粕屋委任状ヲ呉レトノコトニ返リ書ヲ取ツテ渡ス

夕方ヨリ佐藤ニ行ク 帰ツタアトデ自宅迄行キ懇談シタガ香シカラス話シ合手ニナラナイ 帰途清平ニヨル

昨夜ヨリ眠レテ今日ハ氣持チヨカッタ

◆▼356ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月8日(木)

天気晴

朝佐渡島ト兄ニ手紙書ク

千葉ノ帝国興信所來 百円加入拂フ。安田、外三名來 第一ヲ見タ帰り 價格ニツイテ聞カレタ

章氏今日モマダ休ンデ居タ

山東君來 決算ノ準備

正午ヨリ上京 本社へ試作機ノ金支拂通知ガ來タノデ持ツテ行ク 岡田氏ヨリ工場ノ件目下先方大坂へ出張中トノコト 話シ聞ク 亜細亜三行キ飯沼君ニ會フ ペラ百円デ話シヨキメル。一三借入レハヤハリ受検者アルトノコトニダメ 三時ニナツタノデズツト帰宅ス

本日ハ血滯セズニ三度暗クナル様ナ感じガシタ 船橋駅デ帰りニヤッタノハ一寸永カッタ

◆▼357ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月9日(金)

天気 曇晴

八時十分工場出 誰レモ居ラズ九時半ヨリ上京 清平同道局ニ直行ス。試験三名分ノ願書提出 尾崎氏ト話し、飯塚氏ト組合ニ対スル局ノ考ヘヲ聞ク 試験場ニヨリ村田氏ト會フ

飛行協会ニ行ク 上ノ方ノモノ誰レモ居ラズ 北尾君ニ會フ 石橋止メルヤモ知レヌトノコト

スグ帰所 一時半 辻本氏金井氏検査中 アンリオ、十年全部終ラズ明日今一度飛ンデ報告ノコト

久シ振リデタ方一同ト挨拶ヲ共ニス

章氏上京シタ由 會ワズ

今日モ血滞ナシ

野谷君患ルク入院ノ必要アル由 取アエズ付添ヲ付ケル

長山敬氏來 小型自動飛行機製作ノ件

▲▼3558ページ▲▼ 昭和13(1938)年12月10日(土)

天気 晴

終日在所 今度合同スルト云フ福西交渉中ノ昭和鋼業ヨリ工場ヲ見ニ來ルトノコト

一時頃ト云フノガ三時過ぎ來 中介者二名同道。岡田氏別ニ來 共ニ帰ル

今日ハドコモ支拂出來ナカッタ由

章氏ニ今後入金ハ全部工場へ入レ銀行ニ入金シテ居ク方針ヲ語り諒解ヲ得

▲▼3559ページ▲▼ 昭和13(1938)年12月11日(日)

天気 曇リ

二十時自動鉋刃ヲ折ル 組立ヨリ發動機へ手傳ヒ三行ツテ居タ太田初年工ガソリンノカ、ツタマ、火ニアタリニユキ火ダルマトナリ足、腹胸ニ大火傷ヲナス 渡辺ニ入院 大火傷デハ生命ニ別條ナキモ小便ガ出ナイト、アブナイトノコト

同時ニ受検中桐生ニ着陸ノ一ニ突破シテ轉覆セリ 但シ修理ノ上飛行ノ見込ミトノコトニ修理材料ヲ準備シテ坂本、江波戸出張サセル

夕方醫者ニ行ク 帰ツテ夕禮ヲナシ帰ツテ晝食ヲヤラナカッタノデ、少シガツ、ハシタリ風呂ニ這入ツタノデ気分悪クナリ早ク床ニ入ル

家内お金ノコトデ福西ニ行キ帰途市川ノ小宮ニヨル

▲▼3600ページ▲▼ 昭和13(1938)年12月12日(月)

天気晴

朝九時半東日着 福知氏ト同道柏飛行場近藤部隊長石原大尉ニ組合ノ滑空機五台贈呈ノ目録ヲ渡ス 部隊長ヨリ感謝状ヲ貰ヒ帰途川甚デ晝食後本社ニヨル 今井氏福西岡田協議中ニテ明日夕方相談ノ爲メ会合ノ由 自分出席ヲ見合スコトトス 四時蔵前会館ニ高見氏ト会见 同氏ヨリ北尾電気ニ合併方交渉中トノコト 同社顧問何中將ガ學友ノ由。コチヲノ話シモスル 大変賛成シテ居タ
試験ハ廿五日以後ニ延期トナツタ由 修理出來テ帰ル
弾薬函昨日カラ初メタガ皆方思ツタ半分ヨリ出來ズ 明日ヨリ人ヲ増スコト 三錢値上ノコトヲ夜取キメル
坂本君來テ呉レル 岩崎明日午後カラ來ル由

◆▼361ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月13日(火)

天気晴

晝前小林喜造、岩崎君同道ス 一三ベンツトアンリオヤツテ貰フ 梅本三式ヤル 今日飛行出來ズ 局十五日ニ延期シテ貰フ
中台局ノ金十六日頃ツク迄待タセルコトニス 章氏鷺津本社へ決算ノ爲メ上京ス 清平來 協会ノ解決法ヲ聞ク 本日二台トラックニテ運ブ 明日一台ニテ終ル
木下羽田日本飛行學校へ一三。ペラ買ヒニヤル 夜帰り一本ダケ残ツテ居タノヲ譲リ受ケタ由
夜梅本岩崎二角、太田、布施ヲ呼び木下モ來合セ會食 梅本大ニヨウ 岩崎君ハ下へ梅本希望ニヨリ鈴木館へ送ル。
火傷ノ太田四十度ノ熱ガ下ラズ今日モ輸血ス
野谷君布施醫院へ入院ス 父來

◆▼362ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月14日(水)

天気晴

文部省ノ分全部引取り太田ニ云ヒツケル 協会高草木氏立会ニ來場ノ予定ナリ
風ツヨク發動機運轉オクレル 夕方廻ス 成績不良
予備航空團ヨリ來
二時ヨリ上京 夕方福西岡田ヨリ報告ヲ聞ク 五十万ツ、対等ノ出資デ合併ハヨロシク
残ル借金ノ問題ニツキ仲人ノ意向トシテ十二万円ヲ出シソレニ対シ二十万円ノ株券ヲ
呉レトノコト。之レニ難色アリ 明日先方ヨリ右條件ニツキ正式申入レアル筈 先方社長本日上京ノ由

佐藤ニ話ス 佐藤ノ方學校トシテヤルベク三十万円ナラ買取ルトノ事

高見氏會フ 北尾電気モ氣持チガアルガ明年三月ニシタイトノコトデソレ迄一時借入金ノ申込ヲ明日タノム

一時間遅刻シテ六時半嵯峨好ニ行キ野武士会ニ出ル 今日ノ客ハ尾崎氏ト多田サン十時散会。根岸へ表彰ノ件野武士会ニテ協会へ依頼状北尾君ニタノム

◆▼363ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月15日(木)

天気 晴

終日在所

章氏金策ニ行クトテ電話アリ

清平朝呼ビ高見、佐藤ノ方局協会ノ件等打合セル

今日ハ昭和鋼業ノ方カラ返事アル筈 夜十時頃清平來 社長中川新作ニツイテ調べテ來タガ鋳物工場ヲ持ツテ居ルト云フコトダケ分ル 二三会社ニ関係アリ

福西ヨリ十二万ニ対シ二千円株提供ノ件正式ニ提案アリタル由 朝佐渡島へ速達出ス十年式ト三式完成検査終ル 一三ダケ残ル

◆▼364ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月16日(金)

天気 晴

一三ベント暗クナツテ廻ル アトプラグ取替デ通ルトノコトニ夕食ヲ出シ一日五円ノ割デ二人ニ謝礼シテ歸ス

午後三時頃朝八時章氏訪問打合セ 章氏モ十二万ニ対シ二十万ヤルコトニツキ難色アリ。消極的デモ現状デヤリタイトノコトデアッタ。先キニ上京シテ貰フ。十時半工場ニ歸ル 大坂へ正午電話シタガ不在 夜カケルコトニス

三時頃向フノ社長中川、尾崎、浜田、今井來 福西岡田章氏共ニ 中川ナル人立派ナ体格ノ持主デ一代ノ成功者ト聞クダケニ、シツカリシテ居ル様子デ之レナラ一所ニ仕事ハヤレソウニ感ジタ。大分仕事ニモ興味ヲ持ツタ様子デアッタ 無尾ノ試験ニ回見ル夜大坂へ電話ス 十時過ぎニ歸ルトノコトニ再ビカケ十一時過ぎ漸ク懸ル 合同ニ異議ナキモ二十万ノ株ヲヤルコトヲヤメコチラデ其金ヲ作ルコトヲシタラドウカトノコトデアッタ 十二時歸ル 一時就寢

◆▼365ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月17日(土)

天気 雨後晴

十時迄本社へ行く予定ノ處工場ニテ九時半ニナル 福西二十時半ツク 不在 約三十分待ツ 帰ラズ本社へ行く 国産ノ人達ヨリ自分ニ十二万ニ対シ十五万位ニスル様話シテ

呉レトノコトデアッタ 福西中々來ラズ 其内小沢氏來 二時頃ヨリ漸ク會議ヲ初メ
様トシタ時先方ノ中村氏ヨリ電話アリ福西ニ來テ呉レトノコト 帰リヲ待ツ 中川氏
今夜大坂ニ出張スルガ対等デアルコト 借金ノ十萬圓ノ其マヽトシテ利益ノ中ヨリ返還
スルコトトノコトデ十萬圓ニ対シ金ヲ出スコトハ一切考慮シテ居ナカッタトノコトデアッタ
自分ヨリ小川サンノ分ヲ借還エ自力デアルコトヲ話シタガ大勢六十万圓方付ケテ二月
迄維持費ニシタラ結局向フデ金ヲ出サセルコト ソレニ対シ十五萬圓ヲ株デ出シ十二萬
圓カラ十萬圓位出サセルコトノ交渉ヲスルコト 交渉委員ハ福西、岡田、トキメ六時頃
漸ク終ル

日野サン來 無尾見テ來ル由

川辺照(ママ)介ノ松本君ニ眞松デ會フ ウスキタナイモーニク着テ居タ 会社ゴロノ由
タマヽ、東京ミシンノ内幕ヲヨク知ツテ居タ 中川ノコトモヨク分ツタガ少シ、フニ落チナ
イ處ハアッタ 十圓ヤリ、船橋第一ヨリ佐渡島ニ電話ス 今日十分デヨカッタ 向ノ話シ
ヲシ小川ノ分ダケ借替ヲ話シタラ出ストノコト タンポハ株券國産ノ手形ニスルコト 尚
明日佐藤氏ト一應話シタイトノコトデ止メル帰ル。嬉シカッタ

◆▼366ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月18日(日)

天気 晴

アタヽカイ好天気 八時起床

十時章氏訪問 昨日ノ調査ト佐渡島ノ件話ス 岡田へ今日行ツテ話シテ居クトノコト
明日ノ交渉清平同道ヲ申込ンデ居ク

佐藤ニ行ク前奥山氏ト會見 電話ニテ佐藤へ打合セル 奥山氏ニハ二三完成シナイガ全
額貰エル様依頼ス

一時二十分佐藤着 昨夜電話ノ模様ヲ話シ大坂へ電話スル 十分デカヽル 佐藤氏四
通話通シ廿四日上京出席シテ貰フコト 金ハ一切外デ出セトノコトデアッタ由 之レダ
カラ困ル 最(ママ)非全額出サセル様佐藤ニ努力ヲタノミ、機械明細書ヲ預ケニ越デ
小鳥盆栽ヲ見テ京成デ帰ル 大分ツカレタノデ醫者行ヲ中止シ早ク床ニ入ル

◆▼367ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月19日(月)

天気 曇少晴

八時半工場出 日野氏來テ居タ 無尾試験少シ左旋回ヲ行フ 補助翼キ、悪キモ直ル
由

筑井検事局行キ宇賀同行サセル 注意ヲ與へ

正午日野氏ト同行上京 十圓渡ス(小カイノデ呉レトノコトデ) 横浜航空隊ニ直行

太田整備長ニ面會 ショートヲ見セテ貰フ トテモ分解出來ソウモナカッタ 窓ハツケラ

レルダロウガドオ戸ハドウカト思ワレル。考慮ノ末平松ニ急行 戸川氏多忙ノ爲メ玉木ニヨリ聞ク 三年以上経過シタモノハ手ヲツケルト大仕事ニナルトノコトデアッタ 工場ヲ見學シテ八時廿七分発帰宅 十一時帰ル 十二時就寢
佐藤孝帰ル

平松行車中右下奥歯抜ケル。帰り車中ニテ僅カニ血滯ス 服薬後初メテノ血滯

◆◆◆3688ページ◆◆◆ 昭和13(1938)年12月20日(火)

天気 曇

八時起床 九時半工場 十時半ヨリ上京 航研ニ急行 丁度関口君ノ帰ルノニ出會ヒ自動車ニ同乗シテ丸ノ内ノ同氏事務所ニヨリ竹葉ニテ晝食ヲ共ニシナガラシヨウトニツキ聞ク 大シタコトハ聞ケナカッタ 雑談シテ分レ東日ニ梅本ノ礼ニヨル 大蔵來テ居タ吉田其他皆居タ 一寸挨拶後話シテ事ム所ニ帰ル。今朝會見ノ報告ヲ聞ク 合同ノコト原則的ニ決定 株券十五万ニ対シ十萬現金デ申込ミアリトノコト 明日先方ヨリ契約原稿ヲ作製シテ來ル由

夕方小沢寅吉閣下來 出井ニテ會食 三井問題ニツキ苦言アリ 一同タ、恐縮 ツヒデニ奈良原氏ニ対シ先般ノ青年航空團支部問題ノ時知事ハ同道シタ際支部長ヲ承認シナイノニ承認シタ様ニ話シタトテ極端ナ罵言デアッタガ奈良原氏二代ツテアヤマツテ居ク。少シ軽率過ギタ様ダガウタガワシイトモ思フ

帰宅十一時 就寢十二時

◆◆◆3699ページ◆◆◆ 昭和13(1938)年12月21日(水)

天気 曇雨

工場出 章氏金五百円バカリ持ツテ帰ツテ居ルコトガ分ツタノデ中台ノ分トシテ取りニヤル 弐百円ヨコス 上京 一時松本ヨリ電話アリ曙ニテ會フ 東京ミシン随分ヨク調べテ呉レテアッタ 尾崎末吉ハ前科三犯モアル大サギ師ト分ル 五十円謝礼シテ四時頃分レテ帰社 岡田福西山氏ハ契約ノ下相談ニ行ツテ居ルトノコト 富尾氏二人ト清平ト同行シ調査ノ結果ヲ報告シ契約ハ無期延期トス 東京ミシンノ解決ツクノヲ待ツコトトス

後善後處置ニツキ七時迄協議 決(ママ)局岡田氏ヨリ山田氏ハ話シコムコト、一万五千円ノ金六月末必要ニツキ別箇ニ或ハ新出資者ニ金融ヲナスニテ分レテ帰ル

◆◆◆3700ページ◆◆◆ 昭和13(1938)年12月22日(木)

天気 雨後晴

今日ハ静養ノ予定ニテユツクリ寢十一時頃工場ニ行

出田外一軒ニ手紙ヲ書キ、金工部ノ仕事ニツキ宇賀ヲ工業組合ヘヤルコトニス 二時布
施醫師ニ行キ四回目注射後野谷ヲ見舞ヒ帰宅 床ニツク。少シ注射ノ反應ヲ脳ニ感ジ
ル

夜青木來 興信所ノ調査ヲ持ツテ明朝早く來テ呉レトノ事傳 調査マダ來ラズ夜十一
時頃來ル

▲▼371ページ▲▼ 昭和13(1938)年12月23日(金)

天気 晴後雨

早朝昨夜來タ中川ノ調査ヲ青木ニ持タセテヤル

清平來 昨日以來マタ此際契約ヲシタ方ガヨイトノ意見ニ傾キツ、アルトノコト 工場ニ
出テ上京 十時過ギ本社着 福西十二時近ク漸ク來 先方ヘノ返事十時迄ト云フノニ
今頃來ルノモ少シ變デアッタ 決(ママ)局機械ヲ貸貸借ノ型式ナク相手ハ何者デアツテ
モ差支ナイカラトノコトニテ右ノ契約ヲスルコトシ田山サンニ行キ原稿ヲ見福西岡田
先方ヘ行ク。ソレヨリ先キ決算表承認ノ會議アリ 大問題ハ利息デ中八十余円ノ四月
借入レノ五万円ニ対スルモノヲ今期ニ計上シテアツタガ、取消サセル 理由ハ今期ニ上ゲ
ルナラ伊藤会社ニ借リタダケシカ利子ハ支拂ヘヌ、ガ増資其他ノ方法デ埋合セツク場
合ハ全額承認スルト自分主張シテ其通リトナル。

五時ヨリ飛行館ニ蜂須賀侯トノ會談ニ行ク 井上、相羽、飯沼、北尾、目賀田男 議
會其他デノ交渉ニ必要ナ話シフ交換ス 其中ニモ再三電話アリ、本町グリモニ行ク

380頁へ

(380ページへ続く)

▲▼372ページ▲▼ 昭和13(1938)年12月24日(土)

天気 晴

奈良原氏ニ寄ル 手ガ悪ク発熱ノ爲メ上京出來ズトノコト

十時本社着 例ニヨツテ福西、副社長來ラズ。散髪ニ行ク 十一時半黒田嘉六氏來社
立派ナ人ニナツテ居タ 長崎商業會議所ノ會頭ヲシテ居ル 會談約三十分。ユツクリシ
タカツタガ出來ズ

急イデ福西岡田ト銀坐ユニオンノ三階ニテ尾崎氏ト會見。浜田、今井氏立會ヒ契約書
ヲ提決(ママ)ス 中川社長來ラズ後 書類ヲ届ケルトノコトデアツタ

帰社 佐藤氏田山氏ヲ加エ株主總會ヲ開ク 佐藤氏ヨリ強烈ナル攻撃アリタリ 決極
(ママ)今後善處スルコトニナリ四時頃佐藤氏帰ル 後善後處置ニツキ相談 岩間氏五千
円作ルコト 自分二千元 福西岡田、尾崎二万五千元出サセルベク努力スルコト 清

平、山東集金ニ努力スルコト。富尾兄弟ニ六何等ノ策ナシ

▲▼373ページ▲▼ 昭和13(1938)年12月25日(日)

天気 晴

検査辻本氏來 一三ダケ済ム 四五〇八廿八日タレカヨコス由
十一時前或福島縣ノ人達來 神氏ト共ニ四人 後一人來 三時浜ニテ晝食 三時半
歸ル 分工場設置ヲ意気込ミ頗ル大キク一月中旬見ニ行クコトナル
夜六時ヨリ安岡四十九日ヲ繰上ゲ法事ヲ行フ 三田浜ノ歸リ渡辺病院ニヨリ太田ヲ
見舞ヒヒサヲ見舞 太田心配ナシ ヒサ少シ手遅レ 安岡ノ二ノ舞ヲシイガ本人ハ案外
元氣デアッタ

▲▼374ページ▲▼ 昭和13(1938)年12月26日(月)

天気 晴

筑井ヲ連レテ局へ挨拶ニ行ク 千田大佐、ト藤崎中佐ニ會フ 何ンモ云ワレズ返ツテ慰
メラレタ位デアッタ 千田大佐ヨリ今日小野サンカラ宗里へ千円金ヲ送ルコトニシタト
ノ知ラセガアッタ由 厚ク礼ヲ述ベル

山川少佐 飯塚、甲斐、榊原氏等ニ會フ

事ム所ニテ岡田勇氏ニ會フ 会社ノ状況話ス 東京ミシンノコトヨク知ツテ居タノデ尚
聞合セ方ヲ依頼シテ居テ金ノコトハ何ンニ云ワナカッタ。ヨイ人ダ

夕方又局ニ一三堪航証貰ヒニ行ク 沢山アツテツヒニ間ニ合ワズ 明朝取りニヤルコトト
ス

歸ツテ重役会ヲ開ク 岩間君ノ金融ダメ 尾崎一本槍トナルニツキ株ノ件十五万円デ
十万円ノ金ヲ作ルコトノ方法トシテ十万円ヲ一般株主カラ 外ニ五万円ノ損ハ重役カ
ラ出シ之レヲ賣ッタ金十万円ト出シタ五万円ヲ会社へ無利子デ貸シツケルコトトスルコ
トトナル 理論ハヨサソウデ皆賛成シタガサテ尾崎ニ金ガ出來ソウニモ思エナイガ、アト
事ム員保俟(ママ)ノ件 出征者ノ補助ノ件決議ス

歸途福西ニ行キ五百円返金 三越ノ十円切手ヲ水ニス。硝子デ出來タ立派ナ勅言(マ
マ)ノ額ヲ貰フ 返テ氣ノ毒ヲシタ

▲▼375ページ▲▼ 昭和13(1938)年12月27日(火)

天気 晴

陸軍ノ仕事粕屋昨日途上デ負傷シタトカシテツヒニ來ラズ

朝清平來。千葉ノ菅谷君來 工場ノ現状ヲ少シ話シス 京成ノ後藤氏ニ話ス 必ズ出

來ルトテ飛出シテ行ツタ 大坂佐渡島へ昨夜ノ決議ニヨリ出資ヲ考慮シテ貫フ事ト兄ニ其手紙ヲ同封シテ速達ヲ出ス
午後二時萱場氏木村氏外二名來 無尾ノ試験飛行ヲ行フ事四回活動ニ取ル。契約上ノ罪(マ)金ノ件解消ヲ申込ル 承認ス。後殘金ノ先借リヲ申込ム 会社トシテ出シ兼ルカラ自分個人トシテ出シテ居クトテ二千円約束ス 明日正午行クコトトス。夕方清平ヲ呼び明日ヤルコトトス
本日岡田福西、尾崎ニ会ツタ由。明日午後四時返事スルコト 今夜名古屋ニ行キ明日歸ル由
多分金策ニ奔走シテ居ルノダロウ

◆▼376ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月28日(水)

天気 晴

終日工場ニ居ルツモリ處電話デヨバレ四時ヨリ上京 尾崎ノ方金融ダメトノコト 予想通りダ。兎ニ角皆デ努力スルコトヲ提案 自分ノ受持ハ二千円 明日午前中ニ作ルコトヲ約ス。ソレハ萱場カラスデニ今日借リテアルノデ安心ダツタ
佐藤ニ行ク 清平先ニ居リ大和飛行機ノ話アリ 實際六百万円ノ金ガ出來テ居ルナラ、ヤリマシヨウトキメテ居ク。向フノ方ヲ確メテ貫フコトトス
クラブノ一三山形ノ分荒川ニ不時着 西尾嬢トノコト
午前中、阿知波式除弾機ノ件ニテ粕屋外三人來 十五円デ受注ノコトヲ約ス 但シ書キツキトス

◆▼377ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月29日(木)

天気 晴

工場へ二千円へ渡シ上京 本社ニ行ク 途中電車デ清平ト一所ニナル 清平福西ニ行キ自分ハ洲崎へ行き寺田航空官ニ挨拶シテ本社ニツク 十一時福西五千円ノ手形デ一ヶ月デ一割 四千五百円清平持參 結局役員ノ給料ガ出ナクナル
工場へ章氏三千式百円持參 四時頃再ビ來社 今村ガ手當ノコトヲ何ントカ云ツタトカデアイツヨバワリシテ聞苦シカツタ ヨイ人ダケニ一本槍デコマツタ人ダ。結局二千円明日迄ニ作ルコトニナリ自分ハ章氏ニタノム 福西へモタノンダカ利子ガ高イカラ成ベク出來テ貫ヒタクナイ

五時ヨリヒサゴヤニテ昭和ノ中川、尾崎、河野、ト仲人二人ト忘年会アリ イヤ、ナガラ出席 宴後中川氏共ニ兄弟ニナロウトテ大キナ手デ何度モ、永ク、アク手サレテ困ツタ 見タ處豪放ライ落ナ様デアル 尾崎モ見タマ、デアレバヨイ男ダガ 宴会場ヲ出テ

福西又大塚へ行く 清平ト奈良原氏同道 十一時頃漸ク帰途ニツク
十二時半帰宅 船橋デ鈴木菊ニ会フ

◆▼378ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月30日(金)

天気 晴

七時起床 朝食 上京 清平ト同道 自分ハ亜細亜ヘ直行 プロペラノ金ヲ支拂ヒ飯沼
ノ來ルノヲ待ツ 晝ニウドンヲ馳走ニナリ一月号ノ飛行ヲ讀ム 中ニ鎧戸式下ゲ翼ノ記
事アリ 自分ノ久シキ考案デ近頃急(ママ)ガシイマヽ忘レテ居タ多葉直昇飛行機ニヨイ
ヒントヲ得タ 一時半飯沼來 一寸ストックノ話シヲナシ來年度ノ計畫ニヨリ予約ヲ依
頼シテ帰ル 二時半本社着 福西ヨリ妻君ガ二千円トゞケル事ニナツテ居ル由 章氏モ
岩間モ金ヲ作ラナカッタラシイ 全然努力シテ居ラナイ模様デアッタ。副社長東京ミ
シンノ調査報告アリ 中川ノ財産調査スルコトニ興信所へ申込ム
朝出ガケニ章氏宅ニヨル 奥山ヨリ五百円受取り清平ニ持タセテヤル 福西ノ金例ニヨ
リ一ヶ月一割ノ利子千八百円入金。工場職員ニ対シ弍百五十円ダケ受取ル

◆▼379ページ◆▼ 昭和13(1938)年12月31日(土)

天気 晴

七時過ぎ起床 朝ノニュースデ汪兆銘ガ和平ノ重大声明ヲ香港カラ出シタ。カナリ大
キナ影響ガアロウダロウ
正午過ぎ追勘定ニカハル 鷺津來 白戸ノ方式百五十円ヨリ入金ナク中台五百円ダケ
渡ス

鷺津ノ話シデ決算ノ時本社ト工場デ二百円合ワズ其三百円ハ工場デ余ツテ居タノヲ
章氏が自分ガ入レタノダト云ツテ十二月ノ廿五日?ノ時千円持ツテ來テ七百円シカ
工場へ入レナカッタ金ヲ其金ノ分トシテ取ツテシマッタトノコト ソンナ事ヲスル人カシラ
ト思ワレタガ兄へ三百円貸シナツテ居ルノガドウニモ合ワナイノガ不思議デアッタガ、ワ
カッタ様ナ氣ガシタ 清平ト相談ノ上木村氏へ百円ダケ山東ニ持参サセルコトニス 清
平預リノ内ヨリ東日モ歳暮ダケデスマセルコトニス
頭ガストシナカッタ 勘定支拂フト少シ足りナイノデ銀行ノ安岡ノ内ヨリ五十円引
出ス。木下勘定スマセル 安岡時代ノ試飛行料ダケ残ル

◆▼380ページ◆▼ 補遺

(371ページから続く)

十二月廿三日 三百七十一頁ヨリ

岡田氏スデニ歸リアラズ。先刻ノ賃貸契約デハ先方ヨリコトワリニ來タガ待ツテ貰ツテ有リ向ノ原案通り契約仕様トノ事 岡田氏ハ賛成意見デ約束アリ帰ツタ由 福西ハ勿論其主張者デアリ章氏留雄ハ此上ハ敵ノフトコロニ飛込ムツモリデ契約シヨウトノコト岩間氏モ同様 人物ノ如何ニカ、ワラズ延ビル爲メニ之レハヤッタ方ガヨイトノコトデスデニ決定的ノ意見ニナツテ居タノデ自分モ承認スルコトス 尚田山氏ノ談デハ先方ノ中村辨ゴ士ト会见ノ決(ママ)果尾崎ハ決シテ前科ナドナク立派ナ人物ニテ河野ト云フ人間ガ東京ミシンニ居ルガソレナラ或ハ前

◆◆380ページ◆◆

(380ページから続く)

科ガアルカモ知レヌトノコトデアッタ。川辺カラ電話ガアッタノデ松本ノ報告ハ人違ヒニアラズヤ 正シテ貰フコトトス。尾崎ノ興信所ノ報告來ラズ。契約ヲノッピキサセス急グ處或ハ悪イノデハナイカトノ予感モアリシモ明朝十時先方へ契約スルコトノ返事ヲナシ分レル 佐渡島へ電報デ照(ママ)介ス 明日行ケヌドウスルカヘントノ返電アリ 機械工場契約出來タ今後ノ爲メ最(ママ)非コラレタシト打電ス。佐藤へ行キ自宅へ電話シタラ風デ寝テ居ルトノコト 明日出席出來ルヤ否ヤ不明

長崎ノ黒田嘉六氏上京電話アリ 廿数年振デ電話デ声ダケ聞ク 明日正午會フ約束ヲナス